フィルムアート社

図書目録

2019

目次

映画

脚本…… 4
制作…… 12
評論…… 26
監督…… 45
演技…… 65
シリーズ …… 70
読みもの／ガイド …… 84

芸術

アート …… 100
音楽…… 116
デザイン …… 121
建築…… 126
テレビ …… 129
アニメ …… 132
演劇／舞踏…… 135
ファッション…… 140
写真…… 143
シリーズ …… 147
図録…… 154

人文／社会／科学

人文（哲学／歴史／文化論）…… 160
社会（教育／現代社会論）…… 164
科学（自然科学／医学）…… 172

文芸

物語創作技法…… 174
文学…… 179
エッセイ／生活 …… 182

シリーズ

Next Creator Book …… 192
101のアイデア …… 199
クリティカル・ワーズ …… 202

雑誌

『季刊フィルム』 …… 206
『芸術倶楽部』 …… 210
『カイエ・デュ・シネマ・ジャポン』… 214
『BOOKEND』 …… 218

書名索引…… 220

デザイン：戸塚泰雄（nu）

映画

脚本
制作
評論
監督
演技
シリーズ
読みもの／ガイド

脚 本

ハリウッド脚本術
プロになるためのワークショップ101

ニール・D・ヒックス＝著
濱口幸一＝訳 ＊

観客を満足させるためには「何を」ではなく、「どう」書くかが大切！ ドラマ構成、登場人物のキャラクター構築、会話の研鑽、観客の誘導など、脚本家に最低限必要な知識と技術を徹底レッスン。巨大映画産業ハリウッドの脚本ビジネスの現実とは？ 書き込み式練習問題付き。

978-4-8459-0117-3
〈ハリウッド脚本術〉 2001年/A5判・並製/224頁/2200円

ハリウッド脚本術2
いかにしてスリラーを書くか

ニール・D・ヒックス＝著
廣木明子＝訳 ＊

「恐怖（スリラーとサスペンス）」の要素が存在することでストーリーは面白くなる。スリラー映画の書き方に焦点を当て、傑作・人気作のケーススタディーを検証し、恐怖とサスペンスを生み出すためのテクニックを紹介。この一冊でスリラー映画の真髄が学べる。

978-4-8459-0466-2
〈ハリウッド脚本術〉 2004年/A5判・並製/168頁/1700円

ハリウッド脚本術3
アクション・アドベンチャーを書く

ニール・D・ヒックス＝著
菊池淳子＝訳

観客をスリリングな非現実に陥れる、プロのノウハウをついに公開。的確なキャラクターの作り方、アクションを引き起こすパーフェクトな物語、特異な世界に巻き込む方法など、映画監督、脚本家、小説家、ゲームソフトメーカー必携のスーパー脚本術。

978-4-8459-0690-1
〈ハリウッド脚本術〉 2006年/A5判・並製/160頁/1800円

クリエイティヴ脚本術
神話学・心理学的アプローチによる物語創作のメソッド

ジェームス・ボネット＝著
吉田俊太郎＝訳 ＊

神々の知恵を盗め！ 神話、伝説、ユング、キャンベルらの心理学・神話学の理論を援用した、想像性溢れた創作のためのシナリオ講義。登場人物、ドラマ構成、会話、ストーリー展開など、脚本に最低限必要な知識と技術を紹介。書き込み式練習問題付き。

978-4-8459-0349-8
2003年/A5判・並製/256頁/2200円

映画ライターズ・ロードマップ
〈プロット構築〉最前線の歩き方

ウェンデル・ウェルマン＝著
吉田俊太郎＝訳 ＊

ストーリーテリング、メタファー、心的葛藤・衝突、死と犠牲、旅立ち、クライマックス……。『シックス・センス』『パルプ・フィクション』『2001年宇宙の旅』などのハリウッドの話題作を使って、シナリオ執筆の難関・プロットの作り方を学ぼう。映画脚本家デビューのための虎の巻。

978-4-8459-0572-0
2005年/A5判・並製/224頁/2200円

アカデミー賞を獲る脚本術

リンダ・シーガー＝著
菊池淳子＝訳 ＊

優れた脚本には最高の秘密がある。『アメリカン・ビューティー』『ビューティフル・マインド』『羊たちの沈黙』など、90年以降のアカデミー賞受賞作の発想や構成法を、アメリカきってのスクリプト・コンサルタントが指南。拍手の嵐を呼ぶ本格派シナリオの書き方とは。

978-4-8459-0573-7
2005年/A5判・並製/272頁/2400円

ファンタジー映画を書きたい！

夢と冒険のストーリー術

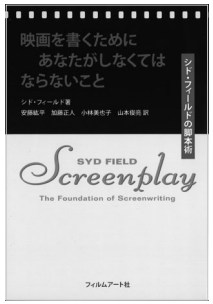
セイブル・ジャック＝著
廣木明子＝訳 ＊

『ハリー・ポッター』『ロード・オブ・ザ・リング』『スター・ウォーズ』など、時を超え、途方もなく奇妙な場所に観客を運ぶ映画の魅力と醍醐味は、いかにして作られるのか。ファンタジーファン、映像クリエーターに待望の一冊。

978-4-8459-0582-9
2005年/A5判・並製/224頁/1900円

映画を書くためにあなたがしなくてはならないこと

シド・フィールドの脚本術



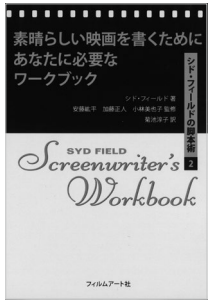
シド・フィールド＝著
安藤紘平／加藤正人／小林美也子／山本俊亮＝訳 電子版あり

良い映画は良い脚本から生まれる！　山田洋次監督、犬童一心監督も推薦。世界中で一番読まれているシド・フィールドの脚本術がついに邦訳。世界で初めて映画の脚本を分析し、構成のパラダイムを考え出した著者が、映画の持つ力と本質を教える名指南書。

978-4-8459-0927-8
〈シド・フィールドの脚本術〉 2009年/A5判・並製/352頁/2500円

素晴らしい映画を書くためにあなたに必要なワークブック

シド・フィールドの脚本術2



シド・フィールド＝著
菊池淳子＝訳 安藤紘平／加藤正人／小林美也子＝監修 電子版あり

シド・フィールドが世界各地で行なったワークショップをベースに作った実践向きテキスト。脚本を書くまでの準備、実際の執筆にあたってのポイントを、順を追って丁寧に伝授。各章を読み、章末の練習問題に取り組めば、読み終わる頃には一本の脚本が仕上がる。

978-4-8459-1177-6
〈シド・フィールドの脚本術〉 2012年/A5判・並製/288頁/2300円

SAVE THE CATの法則

本当に売れる脚本術

ブレイク・スナイダー＝著
菊池淳子＝訳 電子版あり

シンプルで、しかも本当に大手映画会社が買ってくれる脚本を書くための最低限のコツが満載。業界を知り尽くした著者が、ジャンル、プロット、構成、販売戦略、キャスティングなど、基本要素を踏まえながら、誰も教えてくれなかった黄金法則を語り下ろす。

978-4-8459-1056-4
〈SAVE THE CATの法則〉 2010年/A5判・並製/264頁/2200円

10のストーリー・タイプから学ぶ脚本術

SAVE THE CATの法則を使いたおす！

ブレイク・スナイダー＝著
廣木明子＝訳 電子版あり

ベストセラー脚本術『SAVE THE CATの法則』の第2弾。著者が独自に編み出した〈ブレイク・スナイダー・ビート・シート〉と呼ばれる黄金メソッドを用い、映画作品を10のストーリー・タイプに分類して徹底分析。ウケる物語構造の極意を伝授する。

978-4-8459-1436-4
〈SAVE THE CATの法則〉 2014年/A5判・並製/364頁/2200円

SAVE THE CATの逆襲

書くことをあきらめないための脚本術

ブレイク・スナイダー＝著
廣木明子＝訳

脚本術のバイブル『SAVE THE CAT』第3弾。物語構造の問題点を明示しながら、執筆中に必ず直面するスランプやトラブルの解決策を指導する、作家としての精神を守り、鍛え、育てる方法論。パニック、疑念、自責はさっさとよけて、軌道修正するのみ。

978-4-8459-1566-8
〈SAVE THE CATの法則〉　2015年/A5判・並製/280頁/2000円

映画脚本100のダメ出し

傑作を生むハリウッド文章術

ウィリアム・M・エイカーズ＝著
シカ・マッケンジー＝訳　＊

脚本の基本構成から執筆のルール、売り方まで幅広くカバーした100項目のチェックリストで自分の脚本を添削し、自力で欠点が直せる完全ガイド。脚本家である著者が、同じ道を志す読者に向けて、ユーモアと友情に溢れた愛のムチをふるう。

978-4-8459-1060-1
2010年/A5判・並製/304頁/2300円

ホラー映画の書き方

映画は恐怖から生まれる

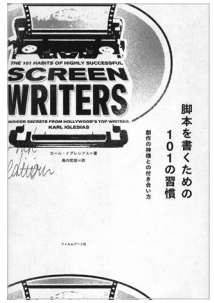
デヴィン・ワトソン＝著
廣木明子＝訳

ホラー映画の書き方を実践的にレクチャーする入門書。社会的な変化との関わりを含めてホラー映画史を概観したのち、著者自らがお手本となる脚本を書いてみせ、伏線の張り方、恐怖の膨らませ方など、ホラー特有のライティングをわかりやすく解説していく。

978-4-8459-1286-5
2012年/A5判・並製/272頁/2200円

脚本を書くための101の習慣

創作の神様との付き合い方



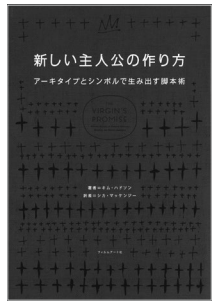
カール・イグレシアス＝著
島内哲朗＝訳　電子版あり

「書き方」を教える従来の脚本術とは違い、プロの脚本家の執筆における「態度」「心構え」など「成功の方法」に光を当てる。ハリウッドで成功を収めた総勢22人の脚本家たちが、最高のストーリーを書くための〈習慣〉を伝授する。

978-4-8459-1293-3
2012年/四六判・並製/392頁/2000円

新しい主人公の作り方

アーキタイプとシンボルで生み出す脚本術

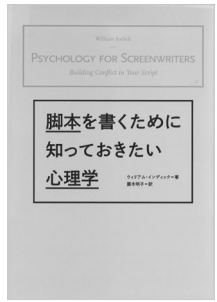


キム・ハドソン＝著
シカ・マッケンジー＝訳

主人公の魂の成長、自己実現の旅の軌跡をどう描くか。心理分析において、コンプレックスの仕組み、「影」がキャラクターに与える影響などを紹介。なかでも「女性性（ヒロイン）」というアーキタイプに着目し、革新的なシナリオを生むための創作法を解き明かす。

978-4-8459-1303-9
2013年/A5判・並製/288頁/2300円

脚本を書くために知っておきたい心理学



ウィリアム・インディック＝著
廣木明子＝訳　＊

フロイト、エリクソン、ユング、アドラーらの心理学理論を映画の登場人物の特徴やモチベーション、行為など元型に当てはめて解説。強度あるプロットの設計、キャラクターの人格形成に役立ち、心理学そのものへの造詣を深め、映画鑑賞の視野も広がる。

978-4-8459-1444-9
2015年/A5判・並製/352頁/2500円

「感情」から書く脚本術

心を奪って釘づけにする物語の書き方

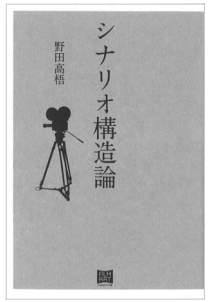
カール・イグレシアス＝著
島内哲朗＝訳　　電子版あり

読者や観客の心をつかんで離さないためのあらゆる設計を、あますところなく伝授。名作の脚本を徹底的に解体し、語り方を分析。キャラクター造形や構成、場面（シーン）でのやり取り、一つ一つの台詞に至るまで、細かく具体的な技巧を指南する。

978-4-8459-1582-8
2016年/A5判・並製/440頁/2400円

シナリオ構造論

▶復刻版



野田高梧＝著

1930年代から活躍し、世界的にも名高い監督・小津安二郎の通称「小津組」の中核を担ったシナリオライター・野田高梧による、「脚本」の役割を真摯かつ実践的に説いた一冊。「構造」から映画を考える、シナリオ創作の代表的入門書が待望の復刊。

978-4-8459-1613-9
2016年/四六判・並製/376頁/2000円

サブテキストで書く脚本術

映画の行間には何が潜んでいるのか

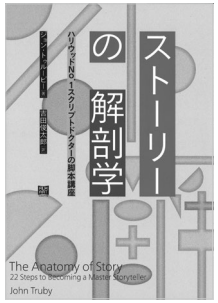
リンダ・シーガー＝著
坪野圭介＝訳

〈サブテキスト〉という新たなポイントから脚本創作を指南。「見えない心情を表す」＝「深みのある感情を描く」ためのメソッドを伝授。映画脚本だけでなく、演劇／舞踏、小説、マンガ、ゲームシナリオなど、すべてのストーリー創作者に役立つヒントが満載。

978-4-8459-1583-5
2016年/A5判・並製/280頁/2200円

ストーリーの解剖学

ハリウッドNo.1スクリプトドクターの脚本講座



ジョン・トゥルービー＝著
吉田俊太郎＝訳　　電子版あり

スクリプトドクターとして尊敬を集める著者による創作講座。脚本や小説に有効なストーリーの組み立て方を指南。脚本の伝統的な構造である「三幕構成」を進化させ、より緻密にプロットとキャラクターを組み立てるためのハウツーが凝縮された一冊。

978-4-8459-1614-6
2017年/A5判・並製/648頁/3000円

ダイアローグ

小説・演劇・映画・テレビドラマで効果的な会話を生みだす方法

ロバート・マッキー＝著
越前敏弥＝訳　　電子版あり

物語を創作するうえでとくに重要な要素となる会話＝ダイアローグに特化した画期的著作。演劇／舞踏、映画、テレビドラマ、小説という4つのメディアそれぞれの特徴を踏まえ、それぞれが「ダイアローグ」をどのように生み出しているのかを詳細に掘り下げる。

978-4-8459-1629-0
2017年/A5判・並製/384頁/2800円

ストーリー

ロバート・マッキーが教える物語の基本と原則

ロバート・マッキー＝著
越前敏弥＝訳　　電子版あり

ストーリーに必要な型を学ぶことによって、真のオリジナリティを引き出す、物語創作の世界的権威による最重要著作が新訳で誕生。脚本家だけでなく、小説家、ジャーナリスト、ノンフィクション作家、あらゆるタイプのストーリーテリングについて新たな視点を提示する至上の一冊。

978-4-8459-1720-4
2018年/A5版・並製/536頁/3200円

制 作

ビデオ・メーキング

かわなかのぶひろ＝著

＊

豊かな映像体験をベースに、今日の新しいメディア、ビデオのすべてを瑞々しい感性と豊かな知識で捉える。“機械”としてのビデオから“創造”としてのビデオへ、自由な実践を主眼に、旧来の技法書の通念を越えた新しいコミュニケーション・メディアへのアプローチ。

978-4-8459-7928-8
1979年/A5判・並製/318頁/2200円

フィルム・メーキング

▶改訂版

個人映画制作入門

ほしのあきら＝著

＊

だれでも映画監督になれる。しかし、作る君自身の戦術が必要だ。映画を自己の表現メディアとして自由に使いこなそうとする人のために、知っておかなければならない表現の仕様を、豊富なデータ・資料をもとに実践的に解説した入門書の決定版。

978-4-8459-7509-9
1984年/四六判・並製/288頁/2000円

巨匠のメチエ

黒澤明とスタッフたち

西村雄一郎＝著

＊

日本映画の頂点に立ち、映画的ディテールを入念に描くことによって様式美とダイナミズムの映像をつくり出してきた世界のクロサワ。その黒澤映画に組する脚本・美術・撮影・照明・音楽・衣裳などのスタッフにインタビューして“黒澤伝説”に分け入り、「映画術」を解明する。

978-4-8459-8766-5
1987年/四六判・並製/288頁/1600円

マスターズ・オブ・ライト

アメリカン・シネマの撮影監督たち

デニス・シェファー／ラリー・サルヴァート＝著
高間賢治／宮本高晴＝訳

アルメンドロス、ストラーロ、チャップマン、ベイリーなど、アメリカン・シネマの最前線で話題作を撮り続けている撮影監督11人へのインタビュー集。製作現場から発せられるトップキャメラマンたちの生々しい声に、映画の知られざる魅力が解き明かされる。

978-4-8459-8871-6
1988年/A5判・上製/384頁/2400円

これは見えないものを書くエンピツです

プライベート・ビデオ講座

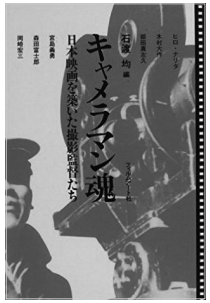
谷川俊太郎／楠かつのり＝著

＊

「鉛筆や包丁のようにビデオカメラを使いこなすこと」（谷川俊太郎）。技術の煩雑さにとらわれず、何よりも快楽の立場からファインダーを覗くこと。構図を決め、カメラを回し、編集することは世界を新たに発見することだ。詩人とビデオ作家による実践マニュアル講座。

978-4-8459-9314-7
1993年/A5判・並製/208頁/1845円

キャメラマン魂
日本映画を築いた撮影監督たち



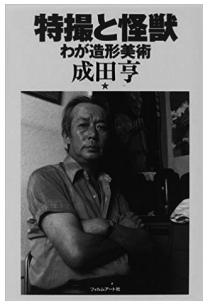
石渡均＝編

＊

ヒロ・ナリタ、木村大作、姫田真左久、宮島義勇、森田富士郎、岡崎宏三らトップキャメラマンが研ぎ澄まされた撮影術を熱弁。名作の秘密とともに明かされる、技術者から見た最新日本映画史。

978-4-8459-9660-5
1996年/四六判・並製/256頁/2500円

特撮と怪獣
わが造形美術



成田亨＝著 滝沢一穂＝編

＊

「ウルトラQ」「ウルトラマン」「ウルトラセブン」などシリーズのオリジナルデザインを創造した彫刻家にして美術監督の成田亨。「怪獣デザイン三原則」「カオス・コスモスの法則」など撮影現場の最前線で考案された怪獣造形法を紹介しながら自らの造形人生を語る。

978-4-8459-9552-3
1996年/四六判・上製/280頁/2000円

特撮美術

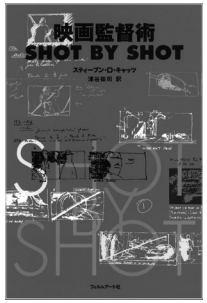
成田亨＝著

＊

『第三次世界大戦』『新幹線大爆破』『ウルトラマン』など東映、東宝、円谷プロの特殊撮影最前線から考案された著者40年にわたる全メチエを集成。逆遠近法、錯視遠近法などマル秘原理を初公開。

978-4-8459-9658-2
1996年/B5判・上製/184頁/6300円

映画監督術
SHOT BY SHOT



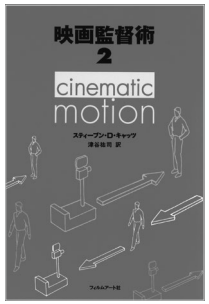
スティーブン・D・キャッツ＝著
津谷祐司＝訳

＊

スピルバーグやヒッチコックなど、ハリウッド最高の監督たちのノウハウをふんだんな図版を駆使して再現。映画監督術の核心である脚本から撮影へのプロセス・ワークを体系的に解説した映画製作必携の一冊。

978-4-8459-9663-6
1996年/菊判・並製/384頁/3200円

映画監督術 2
cinematic motion



スティーブン・D・キャッツ＝著
津谷祐司＝訳

＊

より実践的にパワーアップした“監督術”第2弾。本書では俳優とカメラの配置演出に焦点を絞り、いかに繊細な表現として演出するかを徹底図解。また、撮影監督や美術監督など一流技術者へのインタビューも収録して充実。

978-4-8459-9879-1
1998年/菊判・並製/296頁/2800円

ファースト・カット
アメリカン・シネマの編集者たち

ゲイブリエラ・オールドハム＝著
奥村賢／宮澤誠一＝監修 那田尚史／江口浩ほか＝訳

＊

カットを繋ぎ、画面に命を吹き込む〈編集〉。『スター・ウォーズ』『地獄の黙示録』などの俊英エディター17人へのインタビューで、ハリウッド最前線の〈映画編集術〉を集成。映画編集を多角的に学べる映像製作のテキスト。

978-4-8459-9882-1
1998年/A5判・並製/424頁/3300円

村木与四郎の映画美術

「聞き書き」黒澤映画のデザイン

村木与四郎＝著 丹野達弥＝編著

＊

黒澤明の映画に最も貢献したスタッフのひとり、美術デザイナー村木与四郎が明かす黒澤作品の映像美の秘密。つねに画面上のダイナミズムを求める巨匠の厳しい要求に応えた、映画美術の極意がいっぱい。

978-4-8459-9885-2
1998年/A5判・並製/292頁/2500円

映画監督という仕事

ディレクターズ・クローズアップ

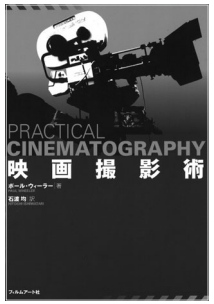
ジェレミー・ケイガン＝編
水原文人＝訳

＊

キャメロン、スピルバーグ、タランティーノ、ガス・ヴァン・サント、イーストウッドら、挑戦し続けるドリーム・メーカー25人の監督が明かす企画から完成に至る秘奥。脚本、撮影から編集、音楽まで、製作プロセスに沿って映画監督に必要なすべてを実践講義する。

978-4-8459-0126-5
2001年/A5判・並製/336頁/2800円

映画撮影術



ポール・ウィーラー＝著
石渡均＝訳

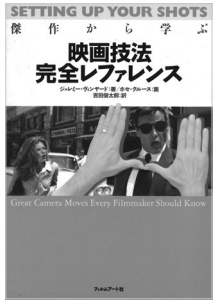
＊

Cinematography（撮影技術）の原理とDP（撮影監督）の専門知識について論じている。単なるテクニカルマニュアルや照明読本に留まらず、基本的なセオリーである色温度、センシトメトリーはもちろん、実践的な機材リストの準備やクルーの編成まで視野に入れてわかりやすく記述。

978-4-8459-0229-3
2002年/A5判・並製/224頁/2800円

傑作から学ぶ

映画技法完全レファレンス



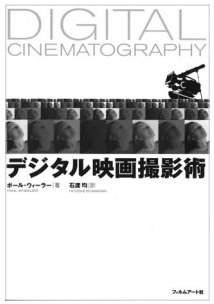
ジュレミー・ヴィンヤード＝著
吉田俊太郎＝訳

＊

何百という映画のなかから引き出してきた頻度の高いテクニックを、明確な使用例を挙げながらまとめる。基本、画像構成、カメラ操作、フィルム編集のテクニックなどを解説する。どうやって「あのシーン」が作られたかがわかる。

978-4-8459-0230-9
2002年/A5判・並製/152頁/1800円

デジタル映画撮影術



ポール・ウィーラー＝著
石渡均＝訳

＊

学生&プロ必携。現在の映画環境において、フィルムワークとともに不可欠なデジタルワークの知識を、実例を豊富に用いて詳しく解説したマニュアル本。映像新世紀、デジタル・シネマトグラファーへの道を開く一冊。

978-4-8459-0352-8
2003年/A5判・並製/232頁/2800円

映像プロフェッショナル入門

映画・テレビ現場のクリエーターのために

安藤紘平＝著

＊

著者が映画・テレビ・CMなどの現場で培った、30年以上にわたる創造的な表現方法の集積の書。これから映画を作っていく学生、社会人など、映画やテレビ業界を目指す人のために書かれた一冊。現場から生まれた映像制作のポイントを解説。

978-4-8459-0457-0
2004年/A5判・並製/172頁/2000円

いかにして100万円でインディーズ映画を作るか

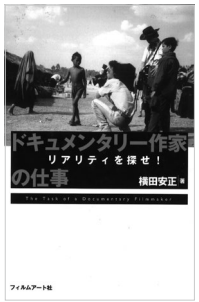
ブレット・スターン＝著
吉田俊太郎＝訳 ＊

家族を泣かせず、警察にもパクられず、長編劇映画をひっさげてデビューするための方法を伝授。シナリオやキャスト、撮影、編集など、ステップ・バイ・ステップで簡潔明瞭にインディーズ映画の製作過程をガイド。

978-4-8459-0458-7
2004年/A5判変型・並製/256頁/2000円

ドキュメンタリー作家の仕事

リアリティを探せ！



横田安正＝著 ＊

ドキュメンタリーは主観である。世界を重層的に見る、複眼で見る、この姿勢が演出家の匂いとなる——。NYの犯罪地帯、カンボジアの難民区……。TVドキュメンタリー現場30年、映像のリアリティを求め、海外を転戦、真剣勝負した鬼監督が初めて明かす、ドキュメンタリーのAからZ。

978-4-8459-0470-9
2004年/四六判・上製/240頁/2300円

エンターテイメント映画の文法

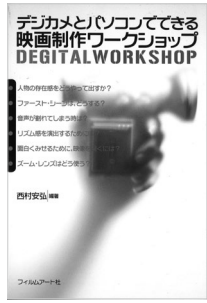
ヒットを約束する脚本からカメラワークまで

純丘曜彰＝著 ＊

プロデューサー、監督、脚本家、配給・興行関係者など、観客の心をつかむプロフェッショナル・スキルを集成。脚本からカメラワークまで、世界市場を目指すメイキング・セオリー。映像・映画関係者必携の一冊。

978-4-8459-0574-4
2005年/A5判・並製/240頁/2300円

デジカメとパソコンでできる映画制作ワークショップ



西村安弘＝編著 ＊

一人からできる映画制作。あなたも作ってみませんか？「カメラとパソコン知識がゼロでもできる」実践的な映画製作。発想や着眼点などのHOW（いかに）から、機材を操作するテクニカルなSKILL（技術）まで、豊富な図版とともに現場感覚でやさしく指導する。

978-4-8459-0693-2
2006年/四六判・並製/208頁/1600円

ヒルマン・カーティス：ウェブ時代のショート・ムービー

ヒルマン・カーティス＝著
吉田俊太郎＝訳 ＊

ダンス、ミュージック・クリップ、フィクション……。Yahoo！、Adobeを創った伝説のデザイナーが動画コンテンツの製作方法、機材からインスピレーションまでを伝授。これを読めばクリエイターのツボがわかる。

978-4-8459-0695-6
2006年/A5判・並製/240頁/2000円

映画監督・キャメラマンになる

プロフェッショナル撮影技法

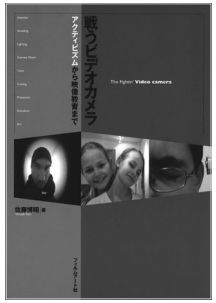
ブライン・ブラウン＝著
石渡均＝訳 ＊

「監督にとってキャメラテクニックを知ることがどれほど重要なことなのか」を主なコンセプトに、アメリカ映画界、最高のテクニックを400点以上に及ぶ図版を駆使して詳細に伝授。本気で映画を撮りたい人のバイブル。

978-4-8459-0711-3
2007年/菊判・並製/320頁/3000円

戦うビデオカメラ

アクティビズムから映像教育まで



佐藤博昭＝著

＊

映像表現を通じて、「自分自身と戦う」。ビデオが誰でも容易に扱える現代において、映像を撮るときの心構えやスキルの解説、映像教育の現場を紹介。さらに、映像を用いたさまざまなスタイルのアーティスト、ドキュメンタリストらの活動を、独自の視点で読み解く。

978-4-8459-0821-9
2008年/A5判・並製/256頁/2400円

マッケンドリックが教える

映画の本当の作り方

アレクサンダー・マッケンドリック＝著
吉田俊太郎＝訳

＊

名監督であり、カリフォルニア芸術大学初代学部長であった著者が確立し、スコセッシ、バートンなど一流フィルムメイカーたちが学んだ最も基礎的な創作プロセス。映画媒体を最大限に活かす監督になるための「映画言語」の使い方は、現代の映画製作への遺言である。

978-4-8459-0936-0
2009年/菊判・並製/320頁/2800円

デジタル・フィルムメイキング

新しいプロフェッショナルとは何か

マイク・フィギス＝著
桂英史／村上華子＝訳 藤幡正樹＝監修

『リービング・ラスベガス』『HOTEL』などで知られる映画監督／ミュージシャン、マイク・フィギスによる、映画制作の入門書が待望の邦訳。プロとアマの垣根を超えて、“いま”の映画作りを基本から見つめ直すためのアイデアが満載。

978-4-8459-1046-5
2010年/四六判変型・並製/286頁/2100円

マスターショット100

低予算映画を大作に変える撮影術

クリストファー・ケンワーシー＝著
吉田俊太郎＝訳

電子版あり

プレッシャーの下で最高の決断をし、素晴らしい撮影プランを実現させる具体的な方法とは？　予算に関わらず、準備可能な機材だけで複雑でオリジナリティに溢れるショットを撮る技術と、効果的に機能するショットを導く洞察力を100の項目で伝授。

978-4-8459-1165-3
〈マスターショット〉　2011年/A5判変型・並製/248頁/2300円

マスターショット２　［ダイアローグ編］

映画に生命を吹き込む会話シーンの撮影術

クリストファー・ケンワーシー＝著
吉田俊太郎＝訳

電子版あり

セリフ以上に雄弁に語るカメラワークの極意。本書は会話に焦点を絞った構成で、実際の映画シーンを例示しながら、100通りもの対話の撮り方を紹介する。映画監督はもちろん、ゲームクリエーターやアニメーターまで、さまざまな職種の人にとって汎用性の高い一冊。

978-4-8459-1285-8
〈マスターショット〉　2011年/A5判変型・並製/248頁/2300円

マスターショット３　［応用編］

1つ上のクオリティを目指すための撮影術

クリストファー・ケンワーシー＝著
石渡均＝訳

本シリーズ3作目は「応用編」の名が示す通り、戦略的なカメラテクニックを前作より倍増した実例図版とともに詳述。さまざまな技巧の持つ奥深さは、ワンランク上の映像をつくりたい人のみならず、映画鑑賞者にとっても画期的な視点を提示する。

978-4-8459-1319-0
〈マスターショット〉　2013年/A5判変型・並製/248頁/2300円

映像作家サバイバル入門

自分で作る／広める／回収するために

松江哲明＝著

もう「なんとなく」作っている場合じゃない。具体的な「伝え方」まで考えないと生き延びられない。制作過程から流通や販促、決算報告、そしてまた次の新作へ。インディペンデントについて感じる憤りと可能性を赤裸々に大公開。「自主的に」行動をするすべての人、必読の一冊。

978-4-8459-1182-0
2011年/四六判・並製/240頁/1800円

監督と俳優のコミュニケーション術

なぜあの俳優は言うことを聞いてくれないのか

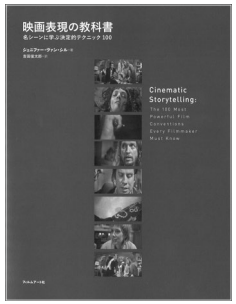
ジョン・バダム／クレイグ・モデーノ＝著
シカ・マッケンジー＝訳 ＊

映画作りの過程で、人間関係の問題や摩擦は避けて通ることができない。本書では主に「対話」による創造的な解決方法を導きだし、名作を生むために必要な環境を実例とともに紹介する。名監督が実践してきた具体的方法論、現場を経験した名優たちが語る本音を伝授。

978-4-8459-1289-6
2012年/A5判・並製/352頁/2400円

映画表現の教科書

名シーンに学ぶ決定的テクニック100



ジェニファー・ヴァン・シル＝著
吉田俊太郎＝訳

映画制作者にとって、ビジュアル面を強化する上で押さえておきたい撮影、編集、音響、照明などの方法を総合的にレクチャー。実際の映画の場面写真と、その脚本抜粋が同時に引用されており、「映画的」な表現の追究が可能。映画鑑賞の新たな視野を広げる一冊でもある。

978-4-8459-1292-6
2012年/B5判変形・並製/280頁/2400円

監督のリーダーシップ術

5つのミステイクと5つの戦略

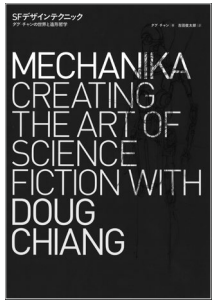
ジョン・バダム＝著
シカ・マッケンジー＝訳

傑作を生み出すために必要な「リーダーシップ」とは何か。監督が犯しがちな5つの間違いを例に、クリエイティブな現場を作り、スムーズな撮影を行うためのノウハウを凝縮した5つの戦略は、あらゆるチーム作りに応用可能な教訓の宝庫である。

978-4-8459-1320-6
2013年/A5判・並製/320頁/2400円

SFデザインテクニック

ダグ・チャンの世界と造形哲学



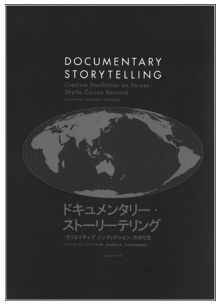
ダグ・チャン＝著
吉田俊太郎＝訳

漠然としたアイデアを独特の思考プロセスと昔ながらの手法で具現化し、最新のテクノロジーと融合させるテクニックとは？　アカデミー賞視覚効果賞を受賞した著者が、ロボット／マシーン／戦闘機などSFデザインに必要なすべてを初公開。

978-4-8459-1210-0
2013年/B5判・並製/152頁/3200円

ドキュメンタリー・ストーリーテリング

「クリエイティブ・ノンフィクション」の作り方 【日本特別編集版】



シーラ・カーラン・バーナード＝著
島内哲朗＝訳 ＊

ドキュメンタリーの「創作的な構成」には、観客をのめりこませる物語構成、実在人物の描き方、主題に対する視点や疑問点の表し方など、特有な技巧を駆使する技が必要。完成までのプロセスを丁寧に解説し、世界水準の映像を撮るための法則を伝授する。今村研一解説。

978-4-8459-1440-1
2014年/A5判・並製/488頁/3200円

映画美術から学ぶ「世界」のつくり方

プロダクションデザインという仕事

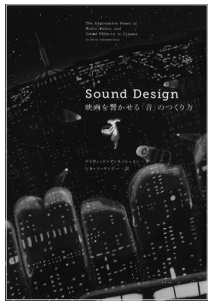
フィオヌラ・ハリガン＝著
石渡均＝訳

映画界の最前線で活躍する21人のプロダクションデザイナー（美術監督）一人一人の個性と特徴から映画美術の真髄を学ぶ。豊富なカラー図版を用いてこれまで見ることができなかった貴重なスチール写真・絵コンテ・コンセプトアートを楽しむことができる。

978-4-8459-1428-9
2015年/A5判・並製/256頁/2800円

Sound Design

映画を響かせる「音」のつくり方



デイヴィッド・ゾンネンシャイン＝著
シカ・マッケンジー＝訳

映画のストーリーテリングにおいて「音」は不可欠であり、その作用には不変の真理がある。傑作映画を例に映像におけるあらゆる「音」のメカニズムを解き明かし、音響制作の理論や実践的知識だけでなく、映画そのものへのイマジネーションを広げる映画音響入門書。

978-4-8459-1565-1
2015年/A5判・並製/304頁/2500円

トーク・アバウト・シネマ

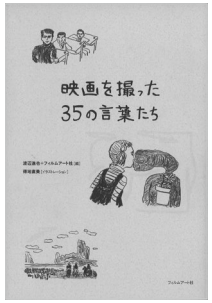
「特撮・CG・VFX」から語る映像表現と仕事論

西川タイジ＝著／北條則明＝インタビュアー
シネボーイ＝発行 フィルムアート社＝発売　電子版あり

画を動かす仕事、人を動かす仕事、心を動かす仕事。特技監督やCGプロデューサー、ディレクターなど、映像を愛した男たち12人のインタビュー・対談集。仕事論から制作秘話まで、クリエイターを目指す学生、映像業界人、映画ファンに読んでほしい一冊。

978-4-8459-1634-4
2017年/四六判・並製/168頁/1200円

映画を撮った35の言葉たち



渡辺進也／フィルムアート社編集部＝編

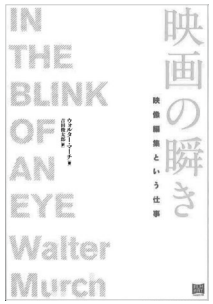
リュミエール兄弟からスピルバーグまで、映画史に残る名作・傑作を手がけた、映画監督たちの35の言葉から映画作りの神髄を読み解く。今もなお遺る胸を打つ言葉の数々が、多数の映画評論／批評家・ライターによる解説、得地直美によるイラストで蘇る。

978-4-8459-1713-6
2017年/四六判・並製/160頁/1700円

映画の瞬き（まばたき）

▶新装版

映像編集という仕事



ウォルター・マーチ＝著
吉田俊太郎＝訳

画面を息づかせる「編集」の極意。『地獄の黙示録』『イングリッシュ・ペイシェント』など、ハリウッドの第一線で活躍してきたカリスマ映画編集者が、長年の経験で得た知識とセンスを伝授する。映画制作のプロセスを知りたい人必携の一冊。初版2008年。

978-4-8459-0820-2
2018年/四六判・並製/192頁/1700円

映画の言葉を聞く

早稲田大学「マスターズ・オブ・シネマ」講義録

安藤紘平／岡室美奈子／是枝裕和／谷昌親／
土田環／長谷正人／元村直樹＝編著

多彩な映像制作者たちをゲストに招き、制作にまつわるさまざまな事柄を語る早稲田大学の人気講義「マスターズ・オブ・シネマ」を書籍化。現場における知識や経験だけでなく、枠に囚われない考えや手法、作品の制作秘話などを、学生と対話しながら詳らかに明かす。

978-4-8459-1710-5
2018年/A5判・並製/472頁/2800円

評 論

アメリカの実験映画

〈フィルム・カルチュア〉映画論集

アダムズ・シトニー＝編
石崎浩一郎＝訳 ＊

旧来の映画体制と隔絶した地点に、生きた映像表現の可能性を切り拓いたニュー・アメリカン・シネマ。その爆発的に広がった運動の根源と、今日の映画が当面する前衛的な課題を鋭く解き明かした“歴史的”映画論集。

978-4-8459-7202-9
1972年/A5判・並製/320頁/1800円

映画における記号と意味

ピーター・ウォーレン＝著
岩本憲児＝訳 ＊

エイゼンシュテインからハリウッド映画に至る数々の名作を対象に、“作家”理論と構造主義的方法を結びあわせて分析を行い、映画を“記号学”という新領域のなかに捉えようとした画期的労作。「フィルム・コメント」誌の映画人へのアンケートで、ベストワンに推された。

978-4-8459-7510-5
1975年/四六判・並製/290頁/1600円

キング・コングは死んだ

私説アメリカ論

石上三登志＝著 ＊

キング・コング、ポパイ、スーパーマンなどお馴染みのスーパーヒーローや、SF、ハードボイルド、西部劇といったアメリカの大衆文化を通して、現代アメリカに広がる退行現象を批判した私説アメリカ論。ヒーロー不在のアメリカへ向けて放つ“愛と憎しみ”のメッセージ。

978-4-8459-7511-2
1975年/四六判・並製/328頁/1600円

映画・日常の実験

かわなかのぶひろ＝著 ＊

従来の映画を批判的に乗り越え、旺盛な実験精神のもとに自己の思想をイメージにたくす個人映画。新たな飛躍を見せる日本個人映画の真の意味とその創意に溢れた技法の数々を、カウンター・メディアの先端で活躍する著者が豊富な実例で紹介する。

978-4-8459-7512-9
1975年/四六判・並製/400頁/2000円

西部劇・夢の伝説

フィリップ・フレンチ＝著
波多野哲朗＝訳 ＊

赤く燃えた荒野、ひづめの響き、銃声——お決まりのスタイルにあらゆるテーマを投げ込んで、今なお作られ続ける西部劇。映画の祖型とも言うべき西部劇の神話的性格にメスを入れ、そこに自己の歴史を書き換えているアメリカの姿を見出したユニークな西部劇論。

978-4-8459-7620-1
1977年/四六判・並製/288頁/1400円

映画の考古学

C･W･ツェーラム＝著
月尾嘉男＝訳

映画の誕生を技術と産業の両面から発生史的にとらえて注目を集めた好著。300点近い図版を駆使して、映画が産業として成立するまでの波乱に満ちた草創期を鮮やかに描きあげ、従前の映画史においては影の部分でしかなかった映画の“原点”を浮き彫りにする。

978-4-8459-7721-5
1977年/A5判･上製/352頁/4500円

闇の中の安息

篠田正浩評論集

篠田正浩＝著

＊

日本のヌーヴェル･ヴァーグ作家として知られた著者の待望の評論／批評集。『心中天網島』以来、わが国の古典芸術への現代性溢れた実験を反復する映像の鬼才が、その映像以前と以後とに出現する言語領域を、鋭い洞察と古典への一流の知で定着する。

ISBNなし
1979年/四六判･並製/320頁/1800円

映画について

ジャン･コクトー＝著
梁木靖弘＝訳

＊

『詩人の血』『オルフェの遺言』で知られる詩人でシネアストのコクトーが、みずからの映画の秘密、女優、男優たちへのオマージュなどを独特のアイロニーのうちにつづったエッセイ集成。コクトーの毒にみちた思考の歴史が浮き彫りにされる。

978-4-8459-8138-0
1981年/四六判･並製/296頁/1800円

聖なる映画

小津／ブレッソン／ドライヤー

ポール･シュレイダー＝著
山本喜久男＝訳

＊

小津安二郎、ロベール･ブレッソン、カール･ドライヤーの三人の監督を、豊富な美術･宗教の知識を駆使して入念に論じた、見事な比較映画文化論。アメリカ映画界の鬼才が情熱溢れるハードな論考で、三監督に通低する“超越的スタイル”を解明する。

978-4-8459-8035-2
1981年/A5判･並製函入/296頁/2500円

ドイツ映画の偉大な時代

ただひとたびの

クルト･リース＝著
平井正／柴田陽弘＝訳

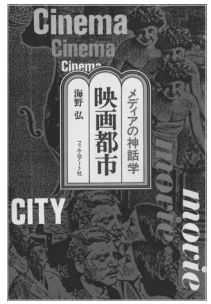
＊

第一次世界大戦後、ルビッチ、ラング、ディートリッヒなどの映画人を輩出し、忘れ得ぬ黄金時代を築きあげたドイツ映画界。その創成期から、現代社会の源流たるワイマール文化の燗熱と、ナチズムに敗北してゆく激動の運命をドキュメントする“もうひとつの映画史”。

978-4-8459-8137-3
1981年/A5判･上製/512頁/4800円

映画都市

メディアの神話学



海野弘＝著

＊

ヴィスコンティからベルトルッチ、ヒッチコック、J･ウェインまで瑞々しい感性が捉え得た魅惑の映画論を中心に、写真、演劇／舞踏、ポスター、イラストなど現代都市のさまざまな表情を描き出す視覚メディアに隠された“時代の猟”を明かす、快調のエッセイ集。

978-4-8459-8139-7
1981年/四六判･並製/328頁/2000円

映画の弁証

性と欲望のイメージ

鈴木志郎康＝著

＊

詩人の20年にわたる映画論集成。詩人として、また『草の影を刈る』『15日間』の映像作家として独自の世界をひらく著者が、映画のイメージをとおして性、肉体、意識、現実を鋭く反問する、秀れた“映像の社会学”。

978-4-8459-8241-7
1982年/四六判・上製/352頁/2400円

映画理論集成

岩本憲児／波多野哲朗＝編

映画をめぐる“知”の饗宴！　古今東西の映画理論を網羅。主な収録論文の著者はJ・ミトリ、C・メッツ、R・バルト、A・パノフスキー、P・P・パゾリーニ、Yu・ロートマン、浅沼圭司、P・ウォーレン、A・バザン、S・M・エイゼンシュテインほか。

978-4-8459-8242-4
1982年/A5判・上製/464頁/5800円

「新」映画理論集成 1

歴史／人種／ジェンダー

岩本憲児／武田潔／斉藤綾子＝編

＊

ジャンル、初期映画、フェミニズム、民族主義、メディア論など、90年代にもっとも注目された主題のもとに、諸論争の発火点となった論文を精選。アクチュアリティ溢れる視点を導入した、映画＝表象文化への批判的思考。

978-4-8459-9874-6
1998年/A5判・上製/336頁/4600円

「新」映画理論集成 2

知覚／表象／読解

岩本憲児／武田潔／斉藤綾子＝編

＊

縫合理論、イデオロギー批判、物語論、テクスト分析など、『映画理論集成』の記号学成立以後の展開をフォローした、続編ともいえる一冊。精神分析や構造主義言語学など〈現代思想〉の成果を取り入れた映画理論の最前線をまとめる。

978-4-8459-9993-4
1999年/A5判・上製/408頁/5600円

アメリカ小説時代

小説と映画

クロード＝エドモンド・マニー＝著
三輪秀彦＝訳　＊

アメリカ小説と映画を、その修辞法と美学に基づいて分析しつつ、ヘミングウェイ、スタインベック、フォークナーらの作品考察をとおして小説と映画の相関関係を明らかにし、現代文芸の出発点ともいうべきアメリカ小説の実相に迫った刺激的名著。

978-4-8459-8346-9
1983年/四六判・並製/288頁/2000円

映画の教科書

どのように映画を読むか

ジェイムズ・モナコ＝著
岩本憲児／内山一樹／杉山昭夫／宮本高晴＝訳　＊

芸術としての“映画”の定義づけから、製作プロセスと技術光学、映画言語の分析、心理学・社会的・政治的な影響まで幅広く考察した映画史および美学史、さらにさまざまなメディアとの相関関係にまで論及。映画のすべてを網羅した現代版“映画大全”。

978-4-8459-8348-3
1983年/菊判・並製/440頁/3500円

人それを映画と呼ぶ

四方田犬彦＝著

＊

『パッション』のゴダールから、『セーラー服と機関銃』の相米慎二まで、流動する新しい映画現象を対象に、映画批評のポスト・モダンスタイルを提示した気鋭の映画論集。運動する批評が、運動する映画と、この本のなかで、リズミカルに遭遇する。

978-4-8459-8452-7
1984年/四六判・並製/352頁/1800円

The Motion Picture

映画は判ってくれない

梅本洋一＝著

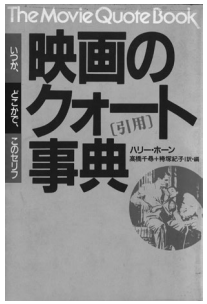
＊

映画批評家・梅本洋一の処女評論／批評集。第二回ダゲレオ評論／批評賞優秀作「映画と劇場」をはじめ、50年代のハリウッドから80年代のフランス映画までを、既成の枠を逸脱しながら、瑞々しい感性で綴った好著。主要作家フィルモグラフィーも併録。

978-4-8459-8456-5
1984年/四六判・並製/304頁/2200円

映画のクォート事典

いつか、どこかで、このセリフ



ハリー・ホーン＝著
高橋千尋／袴塚紀子＝訳

＊

500本におよぶ新旧アメリカ映画から1200の名セリフを厳選し、遊び心たっぷりの250アイテムで立体構成した、選り抜きセリフ集。300の原文、作品データも収録。殺し文句に、ジョークに、追憶のインデックスに、クォート事典の楽しみ方は自由自在。

978-4-8459-8559-3
1985年/四六判・並製/320頁/1500円

2000年のフィルムランナー

ほとばしる映画の光を追って

畑中佳樹＝著

＊

『スター・ウォーズ』から旅立ち、トリュフォーを愛し、ゴダールとハスミ・シゲヒコに学び、スピルバーグに嫉妬し、B級映画を探し求め、ハリウッドに恋をし、映画の自由な快楽を追ってほとばしる感受性……。待ち望んだ真に新しい映画世代の批評がデビュー！

978-4-8459-8765-8
1987年/四六判・並製/360頁/1800円

映画そして鏡への誘惑

武田潔＝著

＊

映画のなかの“鏡”とは何か？　反射する水面やガラスそして鏡に映し出されたイマージネールな映像の運動。鏡＝反射の戯れを軸に、グリフィス、ラングらの先駆的作家から、アルトマン、ロメール、ベンダースらまでを繊細な感覚でとらえるエッセ・クリティック。

978-4-8459-8769-6
1987年/A5判・上製/288頁/2400円

映画のメロドラマ的想像力

加藤幹郎＝著

＊

スクリーンの女たちは、なぜいつも命を賭けた恋をしているのか？　「メロドラマ」の展開と成熟を軸に、ファスビンダー、サーク、クローネンバーグらを縦横に論じる。注目の若手批評家によるニュー・クリティシズムの新たな成果を示す待望の“愛の物語論”。

978-4-8459-8870-9
1988年/A5判・上製/288頁/2400円

スターダム
ハリウッド現象の光と影

アレグザンダー・ウォーカー＝著
渡辺武信／渡辺葉子＝訳 ＊

トップスターはいかにして作られたか？　映画の都に渦巻く欲望の〈ハリウッド現象〉をえぐり、その誕生から繁栄、衰退に至る過程をドラマティックに描くハリウッド映画年代記。リリアン・ギッシュから現代のスターまで、その虚像性を暴きつつ魅惑を探る。

978-4-8459-8873-0
1988年/四六判・上製/512頁/2400円

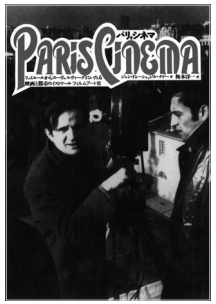
映画＝日誌
ロードムーヴィーのように

梅本洋一＝著
＊

移動する風景に視線を投げかけるように、映画という風景を書きとめ記述すること。ヴェンダース、タネール、ゴダールら現在進行形の作家から、小津、ブレッソン、ウェルズなど永遠の時を生きる作家まで、映画史を横断しながら疾走するロードムーヴィー・エッセイ。

978-4-8459-8875-4
1988年/四六判・並製/376頁/2000円

パリ、シネマ



ジャン・ドゥーシェ／ジル・ナドー＝著
梅本洋一＝訳 ＊

1895年、パリのリュミエール兄弟が発明したシネマトグラフ以来、百年余りの歴史の中で映画都市パリをめぐる無数の物語が生み出されてきた。草創期からヌーヴェル・ヴァーグに至る映画と都市のイストワール――みずみずしく語られるフランス映画史。

978-4-8459-8980-5
1989年/B5判変型・上製/248頁/2900円

さようなら、映画館
80年代フィルム・カルチャー

斎藤英治＝著
＊

映画館の暗闇に閉じ込められた旧世代のスタイルを離れ、街へ、サブカルチャーへ、自在に飛翔する80年代の映画狂・斎藤英治が、『E・T』から『その男、凶暴につき』までを軽やかなフットワークで綴る。ニュー・エイジに贈る著者初のシネ・エッセイ集。

978-4-8459-8981-2
1989年/四六判・並製/288頁/1900円

シネクラブ時代

淀川長治／蓮實重彦＝編
＊

映画狂のメッカといわれるアテネ・フランセ文化センターで行われた“映画的達人”15人の名トークセッションを編集した傑作講演集。金井美恵子「ダニエル・シュミット」、辻邦生「ジャン・ルノワール」、松浦寿輝「ニコラス・レイ」など、語りつきない熱愛の肉声を収録。

978-4-8459-9087-0
1990年/A5判・並製/352頁/1800円

映画、20世紀のアリス

海野弘＝著
＊

時空を自在に超えていく少女アリスのように20世紀の映画シーンを自由に語ること。『読書する女』『屋根の上の女』『カミーユ・クローデル』など、女性の自立の物語に焦点を当てながら、またコクトー、サティらパリの前衛たちを見つめ、エレガントに映画を語る。

978-4-8459-9089-4
1990年/四六判・並製/296頁/1900円

映画のウフフッ

四方田犬彦＝著

＊

ニューヨーク、東京、パリ、ソウル、モスクワと気鋭の批評家・四方田犬彦の映画的地球横断の楽しみ。候孝賢、陳凱歌、許鞍華から、パラジャーノフ、リンチ、フラーまで、80年代末から最近までの話題作、計250本を痛快な速度の文体で語るクリティック。

978-4-8459-9200-3
1992年/四六判・並製/472頁/2800円

映画の復讐

CINEMA CAN WAIT

樋口尚文＝著

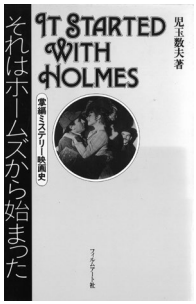
＊

「オジサンたちの受け売りで映画の昔話をするのはもうやめよう」。テレビで育った1960年代生まれの筆者には、クロサワもグリーナウェイも初めて出会う瑞々しい現在だ。大森一樹、大林宣彦から香港ムーヴィーまで、いまの時代の気分を代表する映画に触れる。

978-4-8459-9201-0
1992年/四六判・並製/360頁/2600円

それはホームズから始まった

掌編ミステリー映画史



児玉数夫＝著

＊

突発した殺人事件をめぐって、謎解きに挑む探偵の大活躍。1910年代から80年代にいたるミステリー映画に登場したさまざまなキャラクターを紹介しながら、波乱万丈のサスペンスを追う映画の醍醐味に迫る。

978-4-8459-9322-2
1993年/四六判・上製/312頁/2400円

シネマティック・ヴァンパイア

吸血鬼映画Ｂ級大全

ジョン・L・フリン＝著
浜口幸一／村尾静二／濱田尚孝＝訳

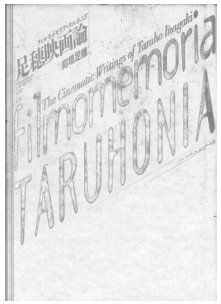
＊

史上初の吸血鬼映画『悪魔の館』から『アディクション』まで、ポルノ作品を加えた吸血鬼映画300本をファナティックに集成。クリストファー・リー、ベラ・ルゴシ、ロン・チェニーなど吸血鬼映画の常連スターが総登場。

978-4-8459-9548-6
1995年/A5判・並製/328頁/1800円

足穂映画論

フィルモメモリア・タルホニア



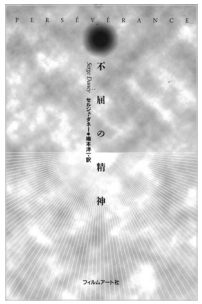
稲垣足穂＝著

＊

未来派幻想文芸の巨星・稲垣足穂による映画論のすべてを初集成。L・シモン、G・メリエス、C・パテなど20世紀初頭のサイレント・キネマの世界が足穂の筆によって甦る。夢と映画のパラダイス。

978-4-8459-9549-3
1995年/A5判・上製/264頁/3200円

不屈の精神



セルジュ・ダネー＝著
梅本洋一＝訳

＊

「カイエ・デュ・シネマ」編集長から「リベラシオン」の記者へ。ホロコースト以後の映画と世界の境界を走破しながら、93年エイズで死去した「違法越境案内人」ダネーの衝撃的遺稿。

978-4-8459-9659-9
1996年/四六判・上製/229頁/2500円

映画のシュルレアリスム

アド・キルー＝著
飯島耕一＝訳 ＊

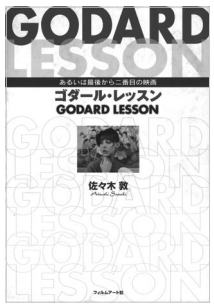
映画は「愛」と「反抗」のシュルレアリスムの精神に導かれて、数多くの映画的実験を重ねるなかで自らの力を再発見してきた。草創期から現代に及ぶ千本近い映画をとりあげて舌鋒するどく語り尽くす名著の改訳・新装版。

978-4-8459-9772-5
1997年/A5判・並製/416頁/4300円

ゴダール・レッスン

▶新装版

あるいは最後から2番目の映画



佐々木敦＝著 ＊

今や、映画を終わらせる野蛮な意志を持つ者のみが、真に映画作家と呼ばれるべきなのだ——。リミックス、インプロヴィゼーションなど現代サウンドの理論を大胆に導入しながら、ソニマージュによる闘争を果敢に実践する映画論。

978-4-8459-9437-3
1998年/A5判・並製/256頁/2600円

キリング・フォー・カルチャー

殺しの映像

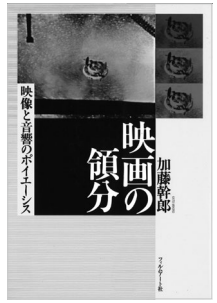
デヴィッド・ケレケス／デヴィッド・スレイター＝著
菊池淳子／とちぎあきら＝訳 ＊

モンド（残酷シーンを集めた映像）からスナッフ（殺人現場を撮った映像）へ。60年代から90年代に作られた残虐映像300作をサンプリングし、「死のエンターテイメント」の誕生の秘話に迫る。メディアによる究極の退廃とは何か?

978-4-8459-9878-4
1998年/A5判・並製/352頁/2400円

映画の領分

映像と音響のポイエーシス



加藤幹郎＝著 ＊

感動とは、新しい意味の生産である。映画はいかにはじまり、いかに終わるかという、映画の構造的創造のありようについて解説。最新映画学の現在形。溝口健二の視線、アモス・ギタイの映画など、映像の不可視の構造を読み解く映画学。

978-4-8459-0231-6
2002年/A5判・並製/304頁/2900円

映画技法のリテラシー

I　映像の法則

ルイス・ジアネッティ＝著
堤和子／増田珠子／堤龍一郎＝訳 ＊

アメリカ映画教育界のベストセラーテキスト、遂に日本上陸。画面の細部から映画表現の神髄を掘り起こし、批評・鑑賞・実製作すべてに役立つ〈シネマの例文〉全集、第1弾。500点以上の写真・図版を駆使し、創造的な読解をめざして映像技法・話法に注目した簡潔明快な解説。

978-4-8459-0354-2
〈映画技法のリテラシー〉 2003年/B5判変型・並製/320頁/3200円

映画技法のリテラシー

II　物語とクリティック

ルイス・ジアネッティ＝著
堤和子／増田珠子／堤龍一郎＝訳

読み書き力を磨く総合分析。物語論から記号学、イデオロギー分析、理論研究、そして多角的分析の実践。現代批評の基礎を解説し、豊富な作品図解を通して、映像の読み書き能力を育てる“シネマの例文”全集、第2弾。アメリカ映画教育界のベストセラーテキスト。

978-4-8459-0465-5
〈映画技法のリテラシー〉 2004年/B5判変型・並製/264頁/2800円

映画を〈自分のことば〉で語るための

シネマ頭脳

ロバート・グラッツァー＝著
吉田俊太郎＝訳 ＊

映画の感動を自分のことばで説得力をもって語れるようになるための、実践映画批評講義。「シネマ頭脳」を鍛えれば、ただの暇つぶしの娯楽ではなく、より魅力的な芸術として映画を鑑賞することができる。鑑定眼を磨いて、評論／批評力を鍛える一冊。

978-4-8459-0241-5
2002年/四六判・並製/272頁/1800円

フィルム・スタディーズ事典

映画・映像用語のすべて

スティーヴ・ブランドフォード／バリー・キース・グラント／ジム・ヒリアー＝著
杉野健太郎／中村裕英＝監修・訳 ＊

映画は文化の中心にある。映画・映像用語のすべてがこの一冊に。イマジナリーライン、中国第5世代、ヌーヴェル・ヴァーグ、表象……。これ一冊で、映画の基礎技術・評論／批評用語のすべてがわかる。映画、メディア関係者必携、究極の映画・映像用語事典。

978-4-8459-0464-8
2004年/A5判・上製/520頁/4300円

渋く、薄汚れ。

ノワール・ジャンルの快楽

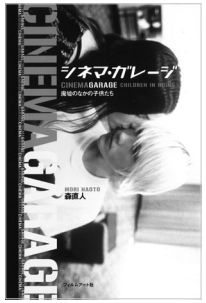
滝本誠＝著 ＊

独自の美学に裏打ちされたアートの審美眼と、ポエティックな文体を持つ滝本誠が、映画・小説・絵画などの背後に蠢く闘争、ハリウッドスキャンダル、果ては猟奇殺人までをも語り尽くす。澱んだ快楽を丸裸にする、「滝本ワールド」の新境地。

978-4-8459-0688-8
2006年/四六判・並製/288頁/1800円

シネマ・ガレージ

廃墟のなかの子供たち



森直人＝著 ＊

ロックンロール的映画批評の先にあるもの。「流行通信」「Ｑ Ｊ」「メンズノンノ」などで活躍し、若者から圧倒的支持をもつ森直人による映画批評。〈いま〉を呼吸する純粋な共感と、時代をシフトする映画ワールド。読んだら映画が観たくなる。いや、観るより面白い。

978-4-8459-0694-9
2006年/四六判・並製/240頁/1700円

ブロークン・ガール

美しくこわす少女たち

金原由佳＝著 ＊

『ブラウン・バニー』『ヴァージン・スーサイズ』『キル・ビル』――世にはびこる少女幻想を、美しく、楽しく壊すガーリー・ムービーの現在と、既成概念を超越するフィルムメーカーたちの戦略を解き明かす評論／批評集。

978-4-8459-0704-5
2007年/四六判・並製/288頁/1800円

イタリア人の拳銃ごっこ

マカロニ・ウェスタン物語

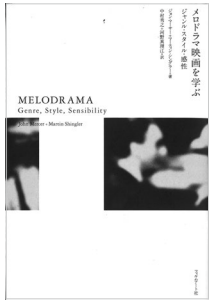
二階堂卓也＝著 ＊

撃てば監獄、撃たれりゃ地獄。銃弾と鮮血のバラードにのって世界をあまねく席巻したイタリア製西部劇＝マカロニ・ウェスタンは、国境を越え、今なお我々の心をつかんで離さない。マカロニ・ウェスタンの血煙街道を辿り、その歴史と真実を綴る。

978-4-8459-0822-6
2008年/A5判・並製/288頁/2200円

メロドラマ映画を学ぶ

ジャンル・スタイル・感性



ジョン・マーサー／マーティン・シングラー＝著
中村秀之／河野真理江＝訳

人間の道徳と感情の関係を命題とする「メロドラマ映画」を〈ジャンル・スタイル・感性〉の3つの本質から整理し、作家性、イデオロギー、映画的ミザンセーヌ、フェミニズム、精神分析、受容と情動といった核心を明解に読み解く。メロドラマ映画を学ぶための格好の入門書。

978-4-8459-1300-8
2013年／四六判・上製／280頁／2800円

映画はどこにある

インディペンデント映画の新しい波

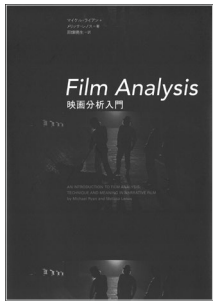
寺岡裕治／森宗厚子＝編

濱口竜介、深田晃司、三宅唱、富田克也・相澤虎之助（空族）、真利子哲也、山戸結希……。日本のインディペンデント映画を再起動させる監督や現場スタッフ、劇場関係者たちの、しなやかにかつ強かに作り続ける生き方と千差万別の方法論に迫るインタビュー集。

978-4-8459-1306-0
2014年／四六判・並製／452頁／2600円

Film Analysis

映画分析入門



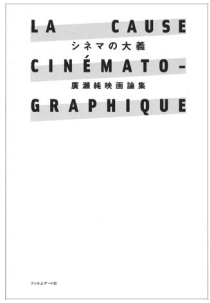
マイケル・ライアン／メリッサ・レノス＝著
田畑暁生＝訳

映画を分析や批評するためには、製作者の意図した意味づけと、社会的文脈の次元から「アクティブ・ビューイング」する技能を身につけ、洞察を説得力のある議論や論文へとつなげなければならない。多元的かつ客観的な映画の見方が学べる教科書。

978-4-8459-1439-5
2014年／A5判・並製／256頁／2400円

シネマの大義

廣瀬純映画論集



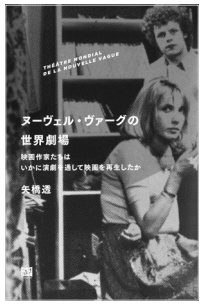
廣瀬純＝著

蓮實重彦以来の「シネマ」概念をめぐり、その「大義」とは何かを問うべくして書かれた、2006～2017年までの廣瀬純による主要映画批評・論考を一挙収録。「映画批評とは何をなすべきか」をめぐっての現代日本の最も果敢な実践の書。

978-4-8459-1639-9
2017年／四六判・並製／560頁／3000円

ヌーヴェル・ヴァーグの世界劇場

映画作家たちはいかに演劇を通して映画を再生したか



矢橋透＝著

ドゥミ、リヴェット、レネ、ゴダール、ロメール、シャブロル、そしてトリュフォー……。ヌーヴェル・ヴァーグの映画たちは、いかに演劇／舞踏／劇場としての世界を生きたのか？　映画と演劇／舞踏の交錯を問い直し、これまでにないヌーヴェル・ヴァーグ像を描き出す。

978-4-8459-1714-3
2018年／四六判・上製／324頁／3100円

オーバー・ザ・シネマ　映画「超」討議

石岡良治／三浦哲哉＝編著

平倉圭、土居伸彰、畠山宗明、入江哲朗をゲストに迎えた、次世代を担う気鋭の論客たちの白熱クロストーク。既存の映画批評やシネフィル的受容に揺さぶりをかけ、映画論を拡張する最強のガイドブック。「脳筋」を鍛えて、いざ、現代映像文化の奔流へ――。

978-4-8459-1587-3
2018年／A5判・並製／416頁／2500円

シネマの記憶装置

▶新装版

蓮實重彦＝著

創成期の映画から現代の映画までの膨大な〈フィルム断片〉を思考の経験として享受し、その一片一片を記憶の彼方から呼び寄せながら、作家、スター、そして夢のリールを回る幾多のシークエンスを、豊かな批評言語のなかに鮮やかに甦らせる映画論集。初版1979年。

978-4-8459-7926-4
2018年/四六判・並製/342頁/2000円

映画はいかにして死ぬか

▶新装版

横断的映画史の試み

蓮實重彦＝著

わかりやすい言葉と魅力溢れる語り口で展開する「映画講義」。アンソニー・マン、レイ、トリュフォー、小津など、輝かしき饗宴を担った幾多の映画人たちへ深い追憶を捧げながら、大胆な省略と繊細な手さばきで、映画史の風土を滑走する鮮やかな一書。初版1985年。

978-4-8459-8557-9
2018年/四六判・並製/288頁/1500円

監 督

小津安二郎の美学

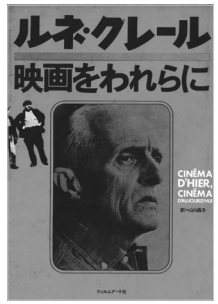
映画のなかの日本

ドナルド・リチー＝著
山本喜久男＝訳 ＊

人間と映画への深い洞察力によって独自の映画美学を打ちたて、日本人の生活感情を鮮やかに描き出した小津安二郎映画の足取りを、滞日20数年にわたる研究をもとに、世界の“OZU”として紹介。欧米で“小津ブーム”を巻き起こして注目された画期的労作。

978-4-8459-7822-9
1978年/A5判・上製/400頁/3200円

映画をわれらに

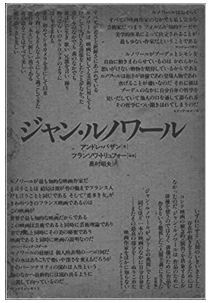


ルネ・クレール＝著
山口昌子＝訳 ＊

『巴里祭』『巴里の屋根の下』で知られる名匠クレールが、サイレントからトーキーに至る活気に満ちた混沌の時代の渦中を生きた足跡を、自ら反復・検証した映画的自伝。映画に捧げられた一つの“生”の絶えざる闘いのなかから“生きた映画史”が浮かび上がる。

978-4-8459-8031-4
1980年/A5判・上製/352頁/3200円

ジャン・ルノワール

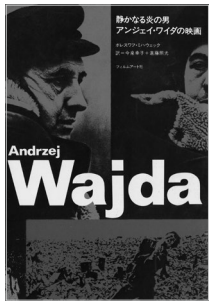


アンドレ・バザン＝著 フランソワ・トリュフォー＝編
奥村昭夫＝訳 ＊

ヌーヴェル・ヴァーグやネオレアリズモに多大な影響を与えた先駆者ルノワールの全貌を、“最高の批評家”バザンがさまざまな角度から検証しつつ、魅力溢れる筆致で浮き彫りにする。『大いなる幻影』『ピクニック』ほか詳細な全作品フィルモグラフィーを収録。

978-4-8459-8034-5
1980年/A5判・並製函入/384頁/2800円

静かなる炎の男　アンジェイ・ワイダの映画



ボレスワフ・ミハウェック＝著
今泉幸子／進藤照光＝訳 ＊

ポーランドの映画作家アンジェイ・ワイダの処女作『世代』から、『地下水道』『灰とダイヤモンド』、そして全世界で反響を呼んだ『大理石の男』『鉄の男』、さらに問題作『ダントン』までの軌跡を辿る名著。歴史への挑戦者ワイダの情熱的な“活動”の全貌を解明。

978-4-8459-8455-8
1984年/A5判・上製/296頁/2800円

エイゼンシュテイン解読

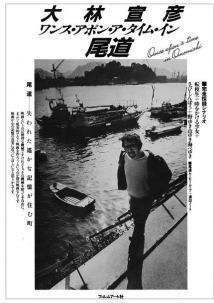
論文と作品の一巻全集

岩本憲児＝編 ＊

強烈で豊かなイメージが結実されている『戦艦ポチョムキン』など7本の作品を軸に、「アトラクションのモンタージュ」ほか、映画史のキータームとなっている彼の主要論文（新訳）を照応させ、豊富な注釈とともに巨匠エイゼンシュテインを現代に解読する。

978-4-8459-8663-7
1986年/A5判・並製/336頁/3500円

ワンス・アポン・ア・タイム・イン尾道



大林宣彦＝著 ＊

『転校生』『時をかける少女』『さびしんぼう』『野ゆき山ゆき海べゆき』を中心に、広い世代に圧倒的な人気を得る大林信彦の全体像をコラージュした決定版。尾道の風土と幻想のなかに、青春のやわらかな光と影が刻まれる。ロケ・マップ収録、図版多数。

978-4-8459-8768-9
1987年/菊判・並製/320頁/1800円

天使のまなざし

ヴィム・ヴェンダース、映画を語る

梅本洋一／鈴木圭介／山下千恵子＝編・構成 ＊

常に移動することを選択し続ける作家、ヴィム・ヴェンダース。幻の処女短編『ショウ・プレイシリーズ』から“ロード・ムービィー三部作”、さらに『パリ・テキサス』を経て『ベルリン・天使の詩』に至る全作品を自身の生の声によって語るインタビュー集。

978-4-8459-8876-1
〈映画作家が自身を語る〉 1988年/菊判・並製/312頁/1800円

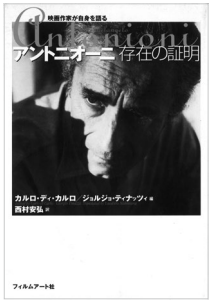
クローネンバーグ・オン・クローネンバーグ

クリス・ロドリー＝編
菊池淳子＝訳 ＊

『デッドゾーン』『ザ・フライ』『裸のランチ』など、次々に衝撃的な近未来映画を世に問うクローネンバーグ。ユダヤ人の家庭に生まれ、音楽、科学、文芸の世界を遊泳した思春期、そして映画製作への道。ニューホラー、ESPなど世紀末現象を射ち抜く迫真の語り下ろし。

978-4-8459-9308-6
〈映画作家が自身を語る〉 1993年/菊判・並製/278頁/2214円

アントニオーニ
存在の証明

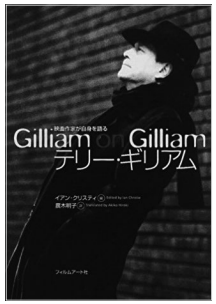


カルロ・ディ・カルロ／ジョルジョ・ティナッツィ＝編
西村安弘＝訳 ＊

『情事』『さすらいの二人』など、独自な“内的リアリズム”で愛と絶望の「反物語」を独自の文体で綴ってきた20世紀後半を代表する映画監督アントニオーニ。さまざまな機会に発表された彼へのインタビューと、本人のエッセイを集成。

978-4-8459-9996-5
〈映画作家が自身を語る〉 1999年/A5判・並製/296頁/2500円

テリー・ギリアム
Gilliam on Gilliam



イアン・クリスティ＝編
廣木明子＝訳 ＊

『空飛ぶモンティ・パイソン』『未来世紀ブラジル』『ラスベガスをやっつけろ』などの作品を生み出したフィルム・メイカー、テリー・ギリアムの生い立ちとその作品世界に迫る。反逆とアート、宗教と神話、パロディと精神分裂、映像の予言者ギリアムのすべて。

978-4-8459-9901-9
〈映画作家が自身を語る〉 1999年/菊判・並製/368頁/2600円

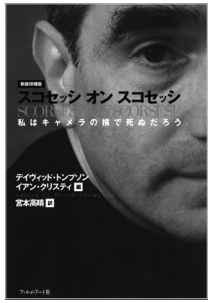
ケン・ローチ
Loach on Loach

グレアム・フラー＝編
村山匡一郎／越後谷文博＝訳 ＊

『ケス』『レイニング・ストーンズ』『レディバード・レディバード』……人々への厳しさとあたたかさをもったリアルなまなざし。イギリスの労働者階級の現実を妥協することなく、しかも詩的にとらえた代表的社会派作家の全証言。

978-4-8459-0011-4
〈映画作家が自身を語る〉 2000年/菊判・並製/224頁/2300円

スコセッシ・オン・スコセッシ
▶増補改訂版
私はキャメラの横で死ぬだろう

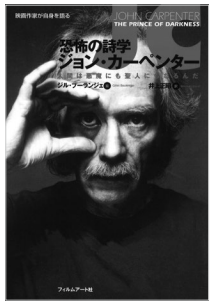


デイヴィッド・トンプソン／イアン・クリスティ＝編
宮本高晴＝訳

新装増補版である本書では、1990年の『メイド・イン・ミラノ』以降の作品について、スコセッシ本人の言葉が新たにまとめられている。『グッドフェローズ』に始まり、『ケープ・フィアー』『エイジ・オブ・イノセンス』と続く90年代から新世紀へ。

978-4-8459-0242-2
〈映画作家が自身を語る〉 2002年/菊判・並製/376頁/2500円

恐怖の詩学　ジョン・カーペンター

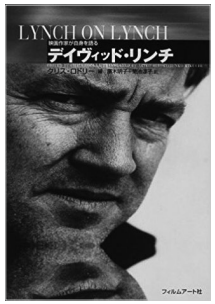


ジル・ブーランジェ＝編
井上正昭＝訳 ＊

1970年代にスラッシャー映画『ハロウィン』を大ヒットさせ、アメリカン・ホラーの旗手となり、以後も『ニューヨーク1979』『遊星からの物体X』『ゴースト・オブ・マーズ』などで、独自の映像世界を創り出してきたSF・ホラー映画の巨匠のすべて。

978-4-8459-0468-6
〈映画作家が自身を語る〉 2004年/A5判・並製/256頁/2500円

デイヴィッド・リンチ
▶増補改訂版
LYNCH ON LYNCH



クリス・ロドリー＝編
廣木明子／菊池淳子＝訳 ＊

「子供のころから、感覚でつかんでいたんだ」。とらえがたい異様さのヴィジョンで“現代の闇”を美しく射抜く鬼才デイヴィッド・リンチ。『ストレイト・ストーリー』『マルホランド・ドライブ』を加えた改訂増補版で、その全貌に迫る。

978-4-8459-0708-3
〈映画作家が自身を語る〉 2007年/菊判・並製/392頁/2700円

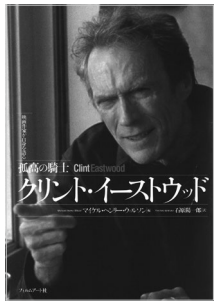
ペドロ・アルモドバル
愛と欲望のマタドール

フレデリック・ストロース＝編
石原陽一郎＝訳 ＊

伝説のデビュー作や『神経衰弱ぎりぎりの女たち』『キカ』、アカデミー賞受賞作『オール・アバウト・マイ・マザー』『トーク・トゥ・ハー』など、スペイン映画界のマタドールが、生い立ちから全作品まで語り尽くす。本人によるエッセイも収録。

978-4-8459-0712-0
〈映画作家が自身を語る〉 2007年/菊判・並製/360頁/2600円

孤高の騎士　クリント・イーストウッド



マイケル・ヘンリー・ウィルソン＝編
石原陽一郎＝訳 ＊

「わたしは自分がなりたいと思った、そのとおりの人間だ」。無情、寡黙、謎めいた優雅さ……。アカデミー賞監督賞を2度受賞したアメリカン・ドリームの実現者が、不屈の映画人生を語る。ポジティフ誌掲載インタビューをカイエ・デュ・シネマが編纂した初のインタビュー集。

978-4-8459-0819-6
〈映画作家が自身を語る〉 2008年/菊判・並製/352頁/2500円

ティム・バートン
BURTON ON BURTON

▶増補改訂版

マーク・ソールズベリー＝編
遠山純生＝訳

ハリウッドの天才か悪趣味なオタクか!?　幻想と現実を行き来する魔術師バートンが、デビュー作から『アリス・イン・ワンダーランド』まで、製作の源である自身に潜む「感情」を語り尽くす。盟友J・デップに「彼のためなら地の果てまで行く」と言わしめた、孤独な成功者の核心に迫る。

978-4-8459-1172-1
〈映画作家が自身を語る〉 2011年/菊判・並製/391頁/2800円

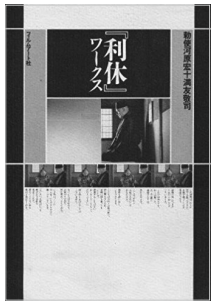
小津安二郎　戦後語録集成
昭和21（1946）年 - 昭和38（1963）年

田中眞澄＝著 ＊

昭和21年、抑留地シンガポールから帰還した小津安二郎が、38年の没年までの間に語ったすべての談話・座談・インタビューを集成し、気骨にみちた「昭和」の巨匠の仕事を見極める画期的一書。日本映画の最良の時代を代表した小津の戦後の姿を浮き彫りにする。

978-4-8459-8978-2
1989年/A5判・上製/496頁/3000円

『利休』ワークス

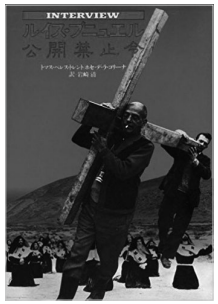


勅使河原宏／満友敬司＝著 ＊

二畳に濃縮された茶室から時代の転換を見据え、権力者・秀吉との対立を通して美の本質を擁護した利休。本書は映画『利休』の各シーンにみなぎるスリリングな緊張感を簡潔なシナリオとともにオールカットの写真で再現し、絢爛豪華な桃山の精神を現代に蘇らせる。

978-4-8459-8982-9
1989年/菊判・並製/208頁/2000円

ルイス・ブニュエル　公開禁止令



トマス・ペレス・トレント／ホセ・デ・ラ・コリーナ＝著
岩崎清＝訳 ＊

スキャンダラスなシュルレアリスト、現実直視のドキュメンタリスト、荒唐無稽な物語作家――刻々と自己の表現スタイルを変貌させてきたブニュエルに、二人の映画狂が処女作から『欲望のあいまいな対象』に至る全作品の成り立ちを聞き出したインタビュー。

978-4-8459-9084-9
1990年/菊判・並製/360頁/2400円

ラスト・オブ・イングランド

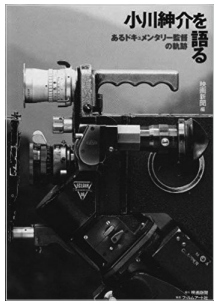
デレク・ジャーマン＝著
北折智子＝訳 ＊

ブリティッシュ・シネマの鬼才デレク・ジャーマンの世界――ストーンズらのロックを聞いた思春期、元英国空軍士官の父との対立、同性愛的セクシャリティへの目覚めとエイズ感染のショック。本書は映画作りを通してデレクが肉声で語るスリリングな自画像である。

978-4-8459-9086-3
1990年/A5判・並製/296頁/2000円

小川紳介を語る

あるドキュメンタリー監督の軌跡



映画新聞＝編
映画新聞＝発行 ＊

1992年早春に亡くなったドキュメンタリー映画監督・小川紳介。追悼上映の際に、多くの仲間・評論／批評家たちが、それぞれ小川紳介を語った。それは、小川監督を偲ぶとともに、映画を志す次の若い世代への熱いメッセージだった。映画を愛する人におくる。

978-4-8459-9203-4
1992年/A5判・並製/256頁/2400円

映像のカリスマ

黒沢清映画史

黒沢清＝著 ＊

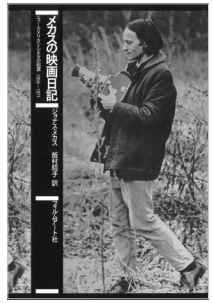
「これを読むには勇気がいるぞ」と語る黒沢清。彼こそゴダール的世界を脱構築した流行の作家である。立教大学・蓮實重彦ゼミナールの下で書かれた初期エッセイからスピルバーグやフーパー論、そして『地獄の警備員』に至る軌跡を集成した全映画ロード。

978-4-8459-9206-5
1992年/A5判・並製/352頁/2601円

メカスの映画日記

▶改訂版

ニュー・アメリカン・シネマの起源1959-1971

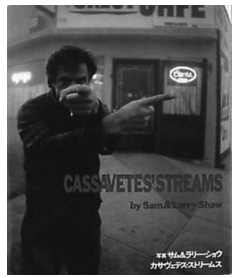


ジョナス・メカス＝著
飯村昭子＝訳 ＊

これほど非妥当的に、これほど熱烈に、映画と人生の新しいあり方をさし示した本があっただろうか。個人映画・非商業映画への道を切り開いていったメカスの貴重なドキュメントである本書は、60年代に共有されていた時代の精神を見事に浮き彫りにしている。

978-4-8459-7406-1
1993年/A5判・上製/402頁/3000円

カサヴェテス・ストリームス



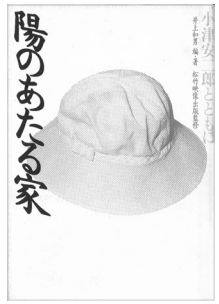
サム＆ラリー・ショウ＝写真 フィルムアート社編集部＝編 ＊

「彼の映画は尽きることのない愛の物語だ」と語る写真家サム・ショウ。『アメリカの影』から『ラヴ・ストリームス』に至るカサヴェテスの軌跡を、スリリングな製作風景や貴重なプライベートシーンを含め、サム秘蔵のオリジナル版によって構成した本邦初の写真集。

978-4-8459-9313-0
1993年/A4判変型・上製/160頁/3786円

陽のあたる家

小津安二郎とともに



井上和男＝編著
松竹映像出版＝監修 ＊

名匠の姿を囲むように生きてきた人たちが、溢れる愛情のなかで語る小津の人生。松竹映画『生きてはみたけれど　小津安二郎伝』撮影時の録音テープから完全採録した、笠智衆・厚田雄春・斉藤良輔・中村伸郎・岸恵子ほか40人が語る、知られざる小津の足跡。

978-4-8459-9317-8
1993年/四六判・上製/352頁/2200円

全日記小津安二郎

小津安二郎＝著 田中眞澄＝編纂

＊

発見された小津安二郎の日記のすべてを、2年余りの歳月をかけて精微に解読・復元した屈指の大冊。昭和8年から没年の昭和38年まで、名匠の辿った仕事と人生の軌跡が見事に描かれるとともに、戦前・戦後にわたる時代精神がありありと浮かび上がってくる。

978-4-8459-9321-5
1993年/A5判・上製/864頁/5000円

魔術師メリエス

映画の世紀を開いたわが祖父の生涯

マドレーヌ・マルテット・メリエス＝著
古賀太＝訳

＊

映画の創始者メリエス。20世紀初頭のパリを舞台に、魔術師のように4000本もの多彩な映画を作り出しながら、晩年はモンパルナス駅の売店で働いていた彼の波乱の生涯を孫娘マドレーヌがドラマチックに綴る。20世紀文化史としても読める本邦初のメリエス伝記。

978-4-8459-9428-1
1994年/四六判・上製/504頁/3500円

荒野のダッチワイフ

大和屋竺ダイナマイト傑作選

高橋洋／塩田明彦／井川耕一郎＝編

＊

60年代以降の日本映画のダイナミックな地下水脈を形成し、鈴木清順からロマンポルノへ至る映画的高揚を中心となって支えた鬼才・大和屋竺の全体像を一巻に集成した画期の大冊。大和屋ワールドの魅力を余すところなく捉える。

978-4-8459-9429-8
1994年/A5判・上製/432頁/5340円

踏み越えるキャメラ

わが方法、アクションドキュメンタリー

原一男＝著
石坂健治／井土紀州＝編

＊

『さようならCP』『極私的エロス・恋歌1974』『ゆきゆきて、神軍』『全身小説家』の4本の作品を検証。奥崎謙三、井上光晴を捉え、正気と狂気の境界を踏み越える鬼才・原一男。時代の根幹を揺さぶる衝撃的メッセージ。

978-4-8459-9544-8
1995年/四六判・上製/312頁/2330円

楊徳昌電影読本　EDWARD YANG'S FILM BOOK

映画のモダニティは、ついに「恋愛時代」に突入する！

李鳳宇ほか＝編
シネカノン＝発行

＊

『恐怖分子』『牯嶺街少年殺人事件』などで注目を集めるエドワード・ヤンのイメージ・カタログ。最新作『恋愛時代』のシナリオや多数の図版、論考を駆使して、台湾の青春を鮮烈に描いた映画世界を再現。

978-4-8459-9546-2
1995年/B5判・並製/96頁/1553円

映畫読本　成瀬巳喜男

透きとおるメロドラマの波光よ

田中眞澄／阿部嘉昭／木全公彦／丹野達也＝編

＊

「小津は二人いらない」と言われた新人喜劇監督は時代を経て、透明で苛烈な極北のメロドラマ『浮雲』に到達した。名匠・成瀬の全貌を初めて集成。映画の一世紀は、私たちの世界に豊穣な恵みをもたらした。しかし、その全体を私たちはまだ充分には知っていない。

978-4-8459-9539-4
〈映畫読本〉
1995年/B5判・並製/168頁/2330円

映畫読本　伊藤大輔

反逆のパッション、時代劇のモダニズム！

佐伯知紀＝編

＊

大河内伝次郎、月形龍之助、中村錦之助ら剣豪スターとともにアクションとエモーションの王国を築いた巨匠・伊藤大輔の仕事を一冊に集成。全87作品のストーリー・解説・データほか、遺文、まぼろしのシナリオ『忠次旅日記』の完全採録。

978-4-8459-9651-3

〈映畫読本〉　1996年/B5判・並製/160頁/2330円

映畫読本　千恵プロ時代

片岡千恵蔵・稲垣浩・伊丹万作　酒脱に、エンターテインメント

冨田美香＝編

＊

「明朗時代劇」を旗印に1928年に発足した片岡千恵蔵プロ。その後の日本映画を牽引していった稲垣浩・伊丹万作らとともに、モダンな感覚で時代の夢を育んだ異色「活動屋集団」の全仕事を豊富な写真とともに紹介。

978-4-8459-9769-5

〈映畫読本〉　1997年/B5判・並製/152頁/2800円

映畫読本　溝口健二

情炎の果ての女たちよ、幻夢へのリアリズム

佐相勉／西田宣善＝編

＊

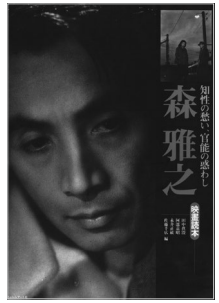
アヴァンギャルドからメロドラマに至る多彩な作品で世界に衝撃を与えたシネアスト溝口健二の全貌。処女作『愛に甦る日』から『赤線地帯』に至る90作を、失われて現存しない作品を含め完全集成した。

978-4-8459-9771-8

〈映畫読本〉　1997年/B5判・並製/152頁/2400円

映畫読本　森雅之

知性の愁い、官能の惑わし



田中眞澄／阿部嘉昭／永井正敏／佐藤千広＝編

＊

天性のダンディズムと妖かしの演技で、『羅生門』『雨月物語』『浮雲』など、日本映画の黄金期を色めかせた森雅之。久我美子、長岡輝子ら関係者インタビューと全出演映画解説・写真200点で飾る名優へのオマージュ。

978-4-8459-9881-4

〈映畫読本〉　1998年/B5判・並製/176頁/2500円

映畫読本　清水宏

即興するポエジー、蘇る「超映画伝説」

田中眞澄／木全公彦／佐藤武／佐藤千広＝編

小津、溝口、山中貞雄から「天才」と呼ばれ、子ども好きで旅を愛し、スタジオセットから自由に飛び出して映画を自然の即興に委ねた清水宏。早すぎたヌーヴェル・ヴァーグだったゆえに歴史から正当な評価を与えられなかったそのモダンで希有なエスプリが今、再発見され蘇る。

978-4-8459-0007-7

〈映畫読本〉　2000年/B5判・並製/176頁/2800円

小津安二郎映畫読本　「東京」そして「家族」 ▶新装改訂版

小津安二郎生誕100年記念「小津安二郎の藝術」公式プログラム

松竹株式会社映像版権室＝編

松竹株式会社映像版権室＝発行　＊

「東京」に生きる「家族」を描いた巨匠のすべて。作品解説はもちろん、遺文、遺品、関係者など小津周辺の貴重な資料をビジュアルに再現。回顧展のプログラムとして編集されたコンパクトな一冊。

978-4-8459-0355-9

〈映畫読本〉　2003年/B5判・並製/112頁/1500円

アンゲロプロス

沈黙のパルチザン

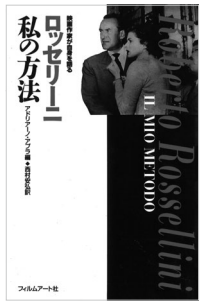
ヴァルター・ルグレ＝著
奥村賢＝訳 ＊

『旅芸人の記録』『アレクサンダー大王』などで知られ、迷走する20世紀を照らし、神話のまなざしで映画史を塗り替えた映画監督アンゲロプロスの全貌。作品解説、インタビュー、評伝、フィルモグラフィに加え、代表作『旅芸人の記録』の全ショットを完全採録する。

978-4-8459-9655-1
1996年/A5判・上製/368頁/4500円

ロッセリーニ

私の方法



ロベルト・ロッセリーニ＝著 アドリアーノ・アプラ＝編
西村安弘＝訳 ＊

大戦後の現代映画の道を切り開き、ヌーヴェル・ヴァーグを先導した巨匠の全貌。バザン、リヴェット、トリュフォーらが聞き手となったインタビューから構成。伝説的になっていた作品の内側がのぞける待望の一冊。

978-4-8459-9765-7
1997年/四六判・上製/352頁/3000円

映画作家　黒木和雄の全貌

阿部嘉昭／日向寺太郎＝編
アテネ・フランセ文化センター／映画同人社＝発行 ＊

鮮烈な『とべない沈黙』をはじめ、秀作を発表しつづけてきた黒木和雄の時代・演出術・現場・理論・交友のすべてを照らし、黒木作品の「不思議な弱さの魅力」「複数性」「特異な時空」に迫る。

978-4-8459-9773-2
1997年/B5判・並製/200頁/1714円

ストローブ＝ユイレの映画

アテネ・フランセ文化センター／
神戸ファッション美術館＝監修 細川晋＝編 ＊

「現代映画における西欧で最大の政治的作家である」（ドゥルーズ）と言われる抵抗の作家ストローブ＝ユイレ。『マホルカ・ムフ』（1962年）から『今日から明日へ』（1996年）に至る21本の軌跡を各作品ごとに詳細に初解説。

978-4-8459-9776-3
1997年/B5判・並製/224頁/2667円

私は映画だ

▶新装版

夢と回想

フェデリコ・フェリーニ＝著 アンナ・ケールほか＝編
岩本憲児＝訳 ＊

『8　1/2』『サテリコン』『アマルコルド』などの数々の傑作を生んだ“映像の魔術師”フェリーニが、青春の日々、ネオレアリズモとの出会い、ユングやボルヘスなど同時代人への傾倒、道化たちへの限りない愛着を自ら語った“フェリーニによるフェリーニ論”。

978-4-8459-7823-6
1995年/四六判・上製/344頁/2200円

ホラーの逆襲

ジョン・カーペンターと絶対恐怖監督たち

鷲巣義明＝編

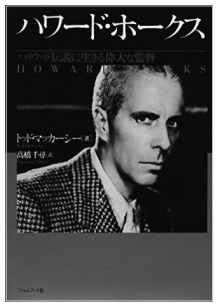
＊

ジョン・カーペンターをはじめ、現代ホラー映画の巨匠、G・A・ロメロ、W・クレイヴン、D・アルジェントらの「絶対恐怖」の美学を徹底追求。アメリカ映画のダークサイドが〈ハリウッド映画〉に逆襲する。

978-4-8459-9889-0
1998年/A5判・並製/208頁/2000円

ハワード・ホークス

ハリウッド伝説に生きる偉大な監督



トッド・マッカーシー＝著
高橋千尋＝訳　＊

『三つ数えろ』『暗黒街の顔役』などの作品で、ヌーヴェル・ヴァーグ派の映画人たちから“映画の神様”と慕われたホークス。スポーツとギャンブルを好み、多くの女性を愛し、ヘミングウェイはじめ豊かな人脈の中から多彩な作品を生み出した、伝説的名匠の全生涯を追う。

978-4-8459-0003-9
2000年/A5判・上製/824頁/6500円

キューブリック全書

デイヴィッド・ヒューズ＝著
内山一樹／江口浩／荒尾信子＝訳

狂気『博士の異常な愛情』・暴力『時計じかけのオレンジ』・宇宙『2001年宇宙の旅』などの壮大なテーマに取り組んだ映画界最大のカリスマ・キューブリックの全作品を、スタッフ&キャスト、製作事情や批評、こぼれ話など情報を圧縮した30アイテム構成で解説。

978-4-8459-0125-8
2001年/菊判・並製/392頁/2900円

マイ・ファースト・ムービー

私はデビュー作をこうして撮った

スティーヴン・ローウェンスタイン＝編
宮本高晴＝訳　＊

「処女作を撮る」ことは人生のドラマだ。処女作はどのような発想から生まれたのか、実現させるためにどのように動きまわったのか。個性派映画監督16人の瑞々しい才能の原点がわかるインタビュー集。

978-4-8459-0232-3
2002年/A5判・並製/432頁/3000円

セルジオ・レオーネ

西部劇神話を撃ったイタリアの悪童

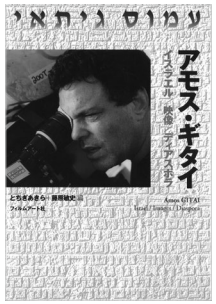
クリストファー・フレイリング＝著
鬼塚大輔＝訳

アメリカへの憧憬と幻滅。西部劇に革命を起こし、映画史に“マカロニ・ウェスタン”という楔を打ち込んだセルジオ・レオーネの生涯のすべて。複雑な人物像と意外な交友関係などその全貌を、レオーネ研究の第一人者が徹底的な取材で再構築する。

978-4-8459-0234-7
2002年/A5判・上製/600頁/5000円

アモス・ギタイ

イスラエル／映像／ディアスポラ



とちぎあきら／藤原敏史＝編

ディアスポラ亡命三部作など、中東が抱える矛盾と問題を鋭く見据えた映画作家が切り開く、〈ゴダール以後〉の映像ポリティクス。中東の戦火から生まれたアモス・ギタイの姿を、対話と証言、映画作品などから浮き彫りにする。

978-4-8459-0347-4
2003年/A5判・並製/248頁/2500円

黒澤明の作劇術

古山敏幸＝著　＊

黒澤映画は世界遺産だ。ストーリー・テラーとしてのクロサワに焦点を当て、“映画的”をきわめる執念と技巧を分析。リメイク映画が次々と製作されるなか、“映画の世界遺産”クロサワ映画の面白さを劇的発想の根源から明かす。

978-4-8459-0818-9
2008年/四六判・並製/256頁/1700円

映画伝説　ジャン＝ピエール・メルヴィル

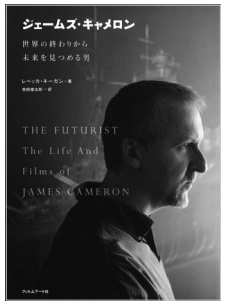
古山敏幸＝著

＊

今再び、脚光を浴びるフランス映画の名匠。『海の沈黙』『サムライ』『影の軍隊』『仁義』……ヌーヴェル・ヴァーグの先駆者、自主製作で映画の新たな可能性を切り開いた最初の映画作家、J＝P・メルヴィルの軌跡が、ここに蘇る。

978-4-8459-0940-7
2009年/四六判・並製/240頁/1800円

ジェームズ・キャメロン
世界の終わりから未来を見つめる男



レベッカ・キーガン＝著
吉田俊太郎＝訳

＊

映画界にデジタル時代をもたらしたJ・キャメロン。終末と再生のヴィジョンに取り憑かれ、人類への警告と壮大なイマジネーションでストーリーテリングの限界に挑み続ける彼のアイデアの源とは？　処女作から今世紀最大の話題作『アバター』まで、規格外なスケールの評伝。

978-4-8459-1052-6
2010年/A5判・並製/368頁/2600円

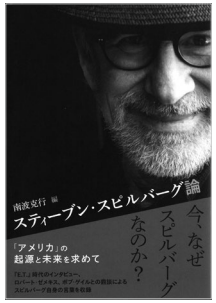
カオスの神、園子温

ダリオ・トマージ／フランコ・ピコッロ＝編
丸山圭子＝訳

「憎しみは愛の源泉で、愛の始まりだ。僕は〈憎む人間〉なんだ」。メジャーからマイナーまで、国際レベルで賞賛されている「雇われではない」現役日本映画監督園子温にふさわしく、イタリア映画評論／批評界による初の本格批評集が待望の邦訳。

978-4-8459-1203-2
2012年/A5判・並製/256頁/2300円

スティーブン・スピルバーグ論



南波克行＝編

＊

その名前と作品は誰よりも知られながら、これまで断片的だったスピルバーグ論。常に矛盾した真実をはらむアメリカ史のなかで、彼はどんな背景や展望を持ち映画製作に取り組んできたのか。すべての作品を同一線上で複合的に読み解き、映画的アイデンティティに迫る。

978-4-8459-1204-9
2013年/A5判・並製/272頁/2600円

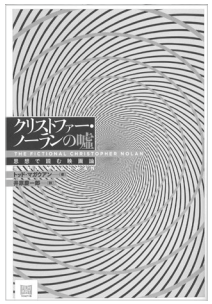
アピチャッポン・ウィーラセタクン
光と記憶のアーティスト

夏目深雪／金子遊＝編

2000年以降の「映画」を動かした鬼才。世界が誇る映像の魔術師を、映画論に加え、アートと文化人類学を軸に、英語・タイ語論考の翻訳も交えながら各分野の識者が徹底的に解読。全長編作品を語る本人のインタビューと詳細な作品ガイドも収録。

978-4-8459-1617-7
2016年/A5判・並製/352頁/3200円

クリストファー・ノーランの嘘
思想で読む映画論



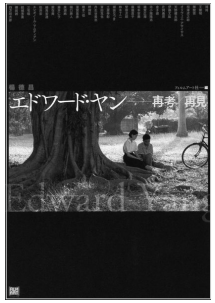
トッド・マガウアン＝著
井原慶一郎＝訳

ノーラン作品において中心的な役割を担う「嘘」。ノーランは、虚構を作り込むためにどのような仕掛けを施しているのか、観客である私たちは、何に翻弄され欺かれ、ノーラン特有の巨大な「嘘」に巻き込まれていくのかを哲学や精神分析理論から考察する。

978-4-8459-1622-1
2017年/四六判・上製/520頁/3200円

エドワード・ヤン

再考／再見



フィルムアート社編集部＝編

＊

台北からこの世界を見つめた、20世紀最大の映画監督のひとりを今、再考する。エドワード・ヤンは現代映画にいったい何をもたらし、そしてその先に何を見出そうとしていたのか。同時代の仲間・教え子たちの証言と充実の論考を収録した入門書&研究書。

978-4-8459-1641-2
2017年／A5判・並製／472頁／3000円

映画監督、北野武。

フィルムアート社編集部＝編

北野武は北野武を超え続ける。『その男、凶暴につき』から『アウトレイジ 最終章』まで。北野武監督／出演俳優／スタッフへのロング・インタビューと、充実の論考群とともに、映画監督・北野武の現在を思考する。

978-4-8459-1700-6
2017年／A5判・並製／406頁／2400円

フランシス・フォード・コッポラ、映画を語る

ライブ・シネマ、そして映画の未来

フランシス・フォード・コッポラ＝著
南波克行＝訳

『地獄の黙示録』の巨匠は、映画のデジタル時代に何を模索しているのか？　最後のプロジェクトと喧伝される「ライブ・シネマ」構想を通して、幼年時代の映画／テレビとの出会いから最先端技術との格闘に至るまで、コッポラがいま映画史を語る。

978-4-8459-1803-4
2018年／四六判・並製／236頁／2100円

演 技

女優アルレッティ

天井桟敷のミューズ

クリスチャン・ジル＝著
松浦まみ＝訳

＊

『天井桟敷の人々』『北ホテル』『ミモザ館』で永遠にその名を残すアルレッティが、90歳とは思わせぬ若々しさと過激な語り口で、戦前・戦後のフランス映画界を回顧。激動の20世紀とともに生きた女の半生を浮かび上がらせるパーソナルなインタビュー集。

978-4-8459-9083-2
1990年／四六判・上製／256頁／1800円

八っちゃんの撮影所人生

山内八郎／高瀬昌弘＝著

＊

ポスターに名前が出ることもない、しかし紛れもなく若き日の日本映画を支えた大部屋役者、“生涯活動屋”こと山内八郎。彼の心の底を脈々と流れる映画に生きた誇りと時代劇に夢を懸けた人生を通して見る、貴重な映画裏面史。

978-4-8459-9877-7
1998年／四六判・上製／256頁／2000円

演技のインターレッスン

映像ディレクターの俳優指導術

ジュディス・ウェストン＝著
吉田俊太郎＝訳 ＊

今まで監督の直感の仕事として片づけられていた演技指導の技術を初めて体系化。状況に応じた適切な演技指導のケース・スタディを多数収録。監督と俳優との相互学習によって生み出すプロの映画作りの完全ノウハウ。

978-4-8459-0237-8
2002年/A5判・並製/368頁/2800円

ザ・オーディション

ハリウッド、ブロードウエイの有名プロデューサーが明かす仕事を獲得するために知っておきたい自己表現術

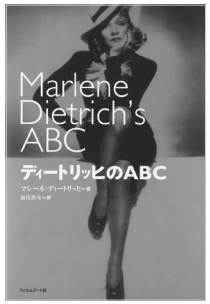
マイケル・ショトレフ＝著
絹川友梨／オーエン・ヒューズ＝訳

自分らしくありなさい。ハリウッドの有名プロデューサーが明かすデビューのための12のポイント。一流のショー・ビジネス界でオーディションを行い、俳優の明暗を見てきた著者が、緊張の場で人の心をつかみ、魅力的な人物でいるにはどうしたらいいのかを明確に語る。

978-4-8459-0356-6
2003年/A5判・並製/296頁/2000円

ディートリッヒのABC

▶新装改訂版



マレーネ・ディートリッヒ＝著
福住治夫＝訳

世紀の大女優ディートリッヒが、ABCの音の調べのようにやさしく語りかけるセンシティブなアフォリズム674項目。映画、ファッション、友人、家庭など、人生のさまざまな局面をウィットに富んだ軽妙な言葉で語る、スーパー・レディの愛のメッセージ。

978-4-8459-8977-5
2005年/四六判・上製/304頁/1800円

魂の演技レッスン22

輝く俳優になりなさい！

ステラ・アドラー＝著
シカ・マッケンジー＝訳 電子版あり

マーロン・ブランドもデ・ニーロもベニチオ・デル・トロも、みんな彼女の生徒だった。俳優教育の神的存在、スタニスラフスキーから直接教えを受けた唯一の米国人ステラの、演技者の精神を鍛える珠玉の言葉が溢れた22のレッスン。舞台・映画俳優を目指すすべての人に。

978-4-8459-0928-5
2009年/A5判・並製/312頁/2300円

〝役を生きる〟演技レッスン

リスペクト・フォー・アクティング

ウタ・ハーゲン＝著
シカ・マッケンジー＝訳

数々の名優を育ててきたウタ・ハーゲン。本書は、日本ではまだ紹介されていなかったハーゲンによる演技法、ウタ・ハーゲンテクニックを、余すことなく紹介。俳優を目指すすべての人に向けられた、不滅のベストセラー。

978-4-8459-1047-2
2010年/A5判・並製/304頁/2500円

演出についての覚え書き

舞台に生命を吹き込むために

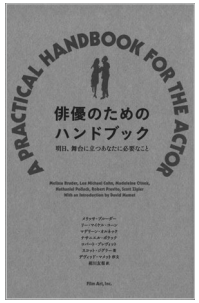
フランク・ハウザー／ラッセル・ライシ＝著
シカ・マッケンジー＝訳

アレック・ギネス、イアン・マッケランらの名優を育てたフランク・ハウザーによる130のアドバイス。脚本への理解、キャスティング、俳優への接し方、ステージングの要素など、舞台を作る上で胸に刻んでおくべき「作法」と「極意」をスマートに指南。

978-4-8459-1171-4
2011年/四六判・並製/208頁/1600円

俳優のためのハンドブック

明日、舞台に立つあなたに必要なこと



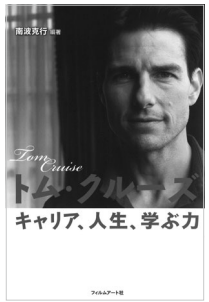
メリッサ・ブルーダー／リー・マイケル・コーン／マデリーン・オルネック／ナサニエル・ポラック／ロバート・プレヴィット／スコット・ジグラー＝著　絹川友梨＝訳

名劇作家デヴィッド・マメットが1983～84年に行った伝説のワークショップの簡易版が、待望の日本語訳。全米の演技クラスや稽古現場で読み継がれてきた、すべての野心的な俳優たちへ贈る、何度でも読むべき名著。

978-4-8459-1296-4
2012年/四六判・並製/208頁/1900円

トム・クルーズ

キャリア、人生、学ぶ力



南波克行＝編著

トップスターとして輝き続けるトム・クルーズの戦略的キャリアメイキングを解き明かす。他者や環境から徹底的に学び、吸収してきた人生の極め方は、多くの人にとって刺激となるはず。当時24歳のインタビューを収録。

978-4-8459-1323-7
2014年/四六判・並製/232頁/1800円

俳優の演技訓練

映画監督は現場で何を教えるか

三谷一夫＝編著

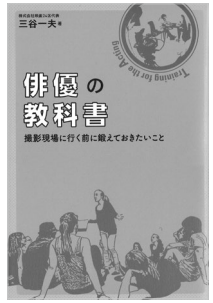
電子版あり

映画人の育成活動を続ける“映画24区”でのワークショップを元に、映画監督24人の具体的な演技指導や俳優業界事情、生活習慣の提案など、長く活躍するための実践的アドバイスが満載。演技は技術であり、訓練によって必ず身につけられることを明示する。

978-4-8459-1200-1
2013年/四六判・並製/224頁/1900円

俳優の教科書

撮影現場に行く前に鍛えておきたいこと



三谷一夫＝著

電子版あり

俳優として仕事を依頼され続けるために必要な技術を映画、TV、演劇／舞踏などジャンルを問わず全方位的に解説。仕事をするうえで必要になる「演技術」と「正しい訓練の仕方」、さらには「芸能業界のリアル」まで踏み込んだ、実践的アドバイスを凝縮した一冊。

978-4-8459-1454-8
2017年/四六判・並製/256頁/1800円

俳優の演技術

映画監督が教える脚本の読み方・役の作り方

冨樫森＝著

俳優・表現者に必要な脚本の読み解き方、役作りに必要な技術と考え方、長く活躍していくための心構えを、映画監督・冨樫森が、徹底指南。具体的な作品の脚本を読み解く方法を段階的に示し、「役をどう捉えるか」をまとめた実践的一冊。

978-4-8459-1646-7
2017年/四六判・並製/272頁/2000円

シリーズ

70年代アメリカン・シネマ103

もっともエキサイティングだった13年

筈見有弘／フィルムアート社編集部／HOP企画＝編

＊

『俺たちに明日はない』から『地獄の黙示録』まで、70年代の同時代映画を熱いメッセージとして捉え、その代表作103本をピック・アップ。エキサイティングな〈ニューシネマ〉の鼓動を伝えて、“70年代精神史”を定着させる好評シリーズ第1弾。

978-4-8459-8030-7

〈Book cinémathèque1〉　1980年／菊判・並製／352頁／1800円

ヒッチコックを読む

やっぱりサスペンスの神様！

筈見有弘／稲川方人／清水美紗／HOP企画＝編

『北北西に進路をとれ』『サイコ』『鳥』『めまい』など数多くの傑作で知られる今は亡きヒッチコック。詳細なストーリーとコラムで、ヒッチコック・サスペンスの全体像に迫る。和田誠、海野弘、植草甚一など多彩な筆者によるヒッチコックの決定版。

978-4-8459-8032-1

〈Book cinémathèque2〉　1980年／菊判・並製／384頁／1800円

銀幕のいけにえたち

ハリウッド★不滅のボディ＆ソウル

アレグザンダー・ウォーカー＝著

福住治夫＝訳

＊

1959年のカンヌ映画祭でジャン・コクトーは言った。「映画、あのセックスの神殿。女神がいて、守護者がいて、そして犠牲者がいる、あのセックスの神殿！」。クララ・ボウ、メイ・ウエスト、ディートリッヒ、ガルボ、モンローら、性の女神たちの物語。

978-4-8459-8033-8

〈Book cinémathèque3〉　1980年／菊判・並製／360頁／1800円

ヴィスコンティ集成

退廃の美しさに彩られた孤独の肖像

フィルムアート社編集部＝編

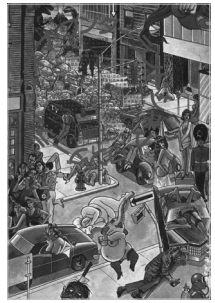
＊

70～80年代、わが国でもその全容があきらかにされてブームを呼び続けるルキノ・ヴィスコンティ全作品カタログ。ネオ・リアリズムの初期作品からデカダンな美しさにみちた晩年の作品まで彼自身の証言をふくめて収録。ヴィスコンティ・ファン必須の書。

978-4-8459-8136-6

〈Book cinémathèque4〉　1981年／菊判・並製／320頁／1800円

シネマ・ワンダーランド



稲川方人／福井晃＝編

＊

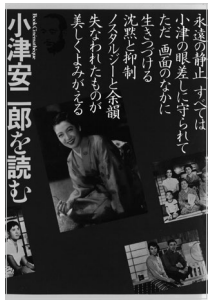
読者開放の映画の本。読者公募原稿を中心に映画へのさまざまな思いを収録して、映画体験の自由と楽しさを表現するユニークな試み。山口百恵から山中貞雄、ヴィスコンティからホラー映画まで、あらゆるジャンルを横断する縦横無尽の映画集成。

978-4-8459-8240-0

〈Book cinémathèque別冊〉　1982年／菊判・並製／304頁／1200円

小津安二郎を読む

古きものの美しい復権



フィルムアート社編集部＝編

＊

独自のスタイルを貫いて日本人の感性を見事に描き続けた、名監督小津安二郎のすべてを収録したテキスト・ブック。処女作『懺悔の刃』から遺作『秋刀魚の味』まで全作品54本の詳細なストーリー・解説に加え、ユニークなディテール分析辞典、年譜、語録を併録。

978-4-8459-8243-1
〈Book cinémathèque5〉　1982年/菊判・並製/392頁/2300円

官能のプログラム・ピクチュア

ロマン・ポルノ　1971-1982全映画

山根貞男＝編

＊

日本映画の崩壊のさなか、1971年11月、停滞する状況を負って突如出現した“ロマン・ポルノ”。その82年までの12年の全史を一巻に収録。全542本のデータ、ストーリー批評とともに、インタビュー、監督・女優名鑑など豊富。

978-4-8459-8347-6
〈Book cinémathèque6〉　1983年/菊判・並製/320頁/2300円

ジョン・フォードを読む

映画、モニュメント・ヴァレーに眠る

リンゼイ・アンダースン＝著
高橋千尋＝訳

＊

アメリカ映画史上最高の巨匠ジョン・フォードの創造的秘密を解き明かした評伝『アバウト・ジョン・フォード』の訳書。加えてヘンリー・フォンダ、ジョン・ウェインをはじめとする出演俳優へのインタビュー、全作品フィルモグラフィー、批評の抜粋を収録。

978-4-8459-8451-0
〈Book cinémathèque7〉　1984年/菊判・並製/352頁/2300円

ベルイマンを読む

人間の精神の冬を視つめる人

三木宮彦＝著

＊

『ファニーとアレクサンデル』で華やかに映画への幕を閉じた巨匠イングマール・ベルイマンの全作品カタログ。その創作の秘密と隠された人間像を明らかにする詳細な評伝に、ディテール分析研究、ベルイマン一家フーズ・フー、充実した文献ガイドを加えて収録。

978-4-8459-8660-6
〈Book cinémathèque8〉　1986年/菊判・並製/344頁/2300円

映画暦

day cinema1986

四方田犬彦／鈴木一誌／稲川方人＝企画・編集・構成

＊

365日毎日映画と出会うための日めくりカレンダー。誰もが知る名画からB級・C級映画まで印象的な名場面、映画スターが次々と登場する。「365日が幸福に終わるころ、あなたは世界をまるで映画のように見る術をいつしか覚えているでしょう」。

978-4-8459-8558-6
〈Book cinémathèque別冊〉1985年/A5判変型・並製函入/380頁/2400円

ATG映画を読む

60年代に始まった名作のアーカイブ

佐藤忠男＝編

＊

隠れた名作を配給・公開しながら、若手監督を積極的に起用するなど低予算で意欲的な非商業映画を製作・支援した日本アート・シアター・ギルド（ATG）。60・70・80年代のカルチュア・シーンを背景に映画ファンを挑発し、鮮烈なイメージを刻んだ172本の作品を再現。

978-4-8459-9192-1
〈Book cinémathèque9〉　1991年/菊判・並製/408頁/2300円

ドイツ・ニューシネマを読む

深々とした時代の森に迷いこんだ39人の映画作家

瀬川裕司／松山文子／奥村賢＝編

＊

オーバーハウゼン宣言以後の代表作59本を厳選して紹介し、ストローブをはじめ、ファスビンダー、ヘルツォーク、ヴェンダースを主脈に80～90年代の話題作家までを網羅。現代ドイツ映画の全貌を多角的に解明する！

978-4-8459-9296-6
〈Book cinémathèque10〉　1992年/菊判・並製/304頁/2000円

フェリーニを読む

世界は豊饒な少年の記憶に充ちている

岩本憲児＝編

＊

『道』『アマルコルド』『8　1／2』そして遺作『ボイス・オブ・ムーン』……数々の傑作を残しながら93年に世を去った映像詩人フェリーニ。悲哀を帯びたカーニバル空間に、自伝的追憶を織り込みながら映画のファンタジーを歌い上げた。“巨匠”の全貌を集成する。

978-4-8459-9425-0
〈Book cinémathèque11〉　1994年/菊判・並製/304頁/2800円

イタリア映画を読む

リアリズムとロマネスクの饗宴

柳澤一博＝著

＊

傑作『無防備都市』から『海の上のピアニスト』まで、激動の社会を華麗に映すイタリア映画の全貌を、映画雑誌、劇場プログラム、記録メディアの解説など、1979年から99年まで20年間にわたって発表された作品論、作家論から解き明かす。

978-4-8459-0115-9
〈Book cinémathèque12〉　2001年/菊判・並製/336頁/2900円

現代映画作家を知る17の〈方法〉

濱口幸一／村尾静二／フィルムアート社編集部＝編

反物語、ソニマージュ、ジャンル派、ハリウッド派、ヌーヴェル・ヴァーグ以後、フェミニズム、クイア、ノーホワイト、ビザール、ロードムーヴィーなど、17のコアな切り口で現代作家300人を明解に整理した攻略本。

978-4-8459-9775-6
〈Cine Lesson 1〉　1997年/A5判・並製/200頁/1900円

アート系映画徹底攻略

曽根幸子／滝本誠／フィルムアート社編集部＝編

＊

フィルムの質感、光と影、不在・無人ショット、夢と狂気、植物・動物・海・大気、鏡と反射など、美学系映画の見方と、グリーナウェイ、タルコフスキー、デュラスなどの代表的作家を紹介。これは映画のアートな楽しみ方だ。

978-4-8459-9880-7
〈Cine Lesson 2〉　1998年/A5判・並製/208頁/2000円

ゴダールに気をつけろ！

杉原賢彦／フィルムアート社編集部＝編

＊

「カッコいいが超難解」なゴダール映画の読み方・見方を最新情報を駆使して平明に解説。年代別作品解読や現代思想、サウンド、モードなど、ドゥルーズからアニエスb.までの「ゴダール現象」がクリアにわかるJLG決定版。

978-4-8459-9886-9
〈Cine Lesson 3〉　1998年/A5判・並製/200頁/1900円

ワールド・シネマ！

フィルムアート社編集部＝編

＊

世界が動く、映画が変わる。アフリカ・南米・東南アジア、中近東、オセアニア、北欧、東欧など世界諸地域の90年代の映画情報をグローバルに初集成。各国映画際などで上映される作品、最重要作家、俳優も合わせて解説。

978-4-8459-9990-3
〈Cine Lesson 4〉 1999年/A5判・並製/200頁/2000円

サウンド派映画の聴き方

小沼純一／杉原賢彦／二本木かおり／フィルムアート社編集部＝編

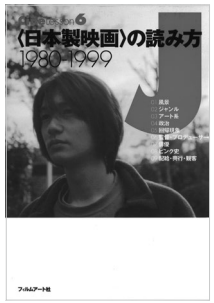
＊

ヒップホップ、電子音、ノイズ、ミニマル・ミュージック、ロックなど、70年代から90年代に起きた「映像のサウンド革命」を捉え、そのコンセプト、代表作、作家をコンパクトに紹介。映画の「音楽史」付き。

978-4-8459-9992-7
〈Cine Lesson 5〉 1999年/A5判・並製/208頁/2000円

〈日本製映画〉の読み方

1980–1999



武藤起一／森直人／フィルムアート社編集部＝編

＊

80年代以降の〈日本製映画〉の軌跡を、代表作家や問題作をピックアップして紹介。物語性、セクシュアリティ、俳優、背景などをキーワードに解読する。ボーダーレス化が進み混沌とした状況を見据えた日本映画の未来に迫る。

978-4-8459-9995-8
〈Cine Lesson 6〉 1999年/A5判・並製/200頁/2000円

〈逆引き〉世界映画史！

濱口幸一／フィルムアート社編集部＝編

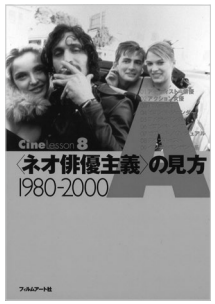
＊

映画はその作品と関連ある過去の情報を知ることで、新たな面白さがうまれてくる。今に生きるレイ、ホークス、ウェルズなど古典作家31人を取り上げ、世界の映画史を改めて見直す。知っておきたい映画のベーシック。

978-4-8459-9998-9
〈Cine Lesson 7〉 1999年/A5判・並製/208頁/2000円

〈ネオ俳優主義〉の見方

1980–2000



杉原賢彦／フィルムアート社編集部＝編

20世紀文化の象徴ともいえる映画へ、新しい視点が注がれつつある。1980～2000年の動向を捉え、複雑な映画シーンを再構成し、映画の見方をクリアに示すこと。限りなく情報を外に開きながら、レッスン感覚で読む新しいテキストブック。俳優が時代を変える。

978-4-8459-0001-5
〈Cine Lesson 8〉 2000年/A5判・並製/208頁/2000円

〈社会派シネマ〉の戦い方

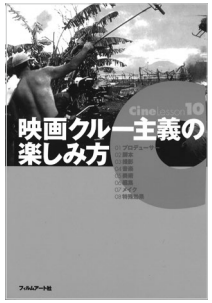
北小路隆志／水原文人／フィルムアート社編集部＝編

＊

ファミリー・クライシス、メディアクラシーなど複雑に絡み合う問題をふまえ、1968年以降の社会と併走する、映画の新しい“社会派”的展開を整理。ワイズマン、クレイマー、ケルコフなどの作家紹介も充実。

978-4-8459-0005-3
〈Cine Lesson 9〉 2000年/A5判・並製/208頁/2000円

映画クルー主義の楽しみ方



杉原賢彦／フィルムアート社編集部=編

＊

映画を作家主義のみにより一面的に語る時代はもう、終わった。映画を、監督＝プロデューサー＝脚本を中心軸としたクルーの立場から捉え直し、作家主義の弊害によって押し込められていた、映画への自由なアプローチを獲得する。

978-4-8459-0010-7
〈Cine Lesson 10〉 2000年/A5判・並製/208頁/2000円

21世紀／シネマX

映画最前線の歩き方

森直人／フィルムアート社編集部=編

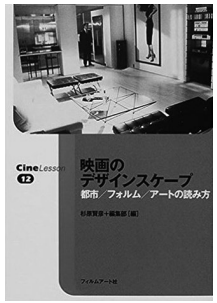
＊

映画を哲学しはじめた途端、我々は映画のX＝謎に直面することになる。映画は謎、未知のもの。既成の価値観を超えてクリエイトする新鋭作家たちのいるシネマX地帯を、力強い足取りで歩いていくための見取り図。

978-4-8459-0014-5
〈Cine Lesson 11〉 2000年/A5判・並製/208頁/2000円

映画のデザインスケープ

都市／フォルム／アートの読み方



杉原賢彦／フィルムアート社編集部=編

＊

『暗殺の森』から『アメリカン・サイコ』まで、眺めのいい映画14作に注目。また、都市ライフデザインの代表的作家40人、世界の10大美術監督なども収録。都市や風景を造形するアートなデザイニングを取り出して、映画の多層的な意味構造を分析 。

978-4-8459-0120-3
〈Cine Lesson 12〉 2001年/A5判・並製/208頁/2000円

映画批評のリテラシー

必読本の読み方／批評の書き方

石原陽一郎／フィルムアート社編集部=編

＊

映像に対するクリティカル（批評的）な態度は、現代人にとっての倫理のひとつのあり方。ベンヤミン、ドゥルーズ、ゴダール、淀川長治などをサンプルとして提示し、「批評の読み方・書き方」など映画評論／批評のエッセンスを紹介する。

978-4-8459-0123-4
〈Cine Lesson 13〉 2001年/A5判・並製/208頁/2000円

スーパー・アヴァンギャルド映像術

個人映画からメディア・アートまで

佐藤博昭／西村智弘／フィルムアート社編集部=編

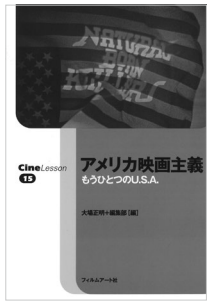
＊

世界映像史をリードしたスーパー・アヴァンギャルド作家21人、時代を変える映像モードの動向、これだけは知っておきたいジャンル別作家、映像アーティストになるためのベーシック技術などを紹介する。

978-4-8459-0228-6
〈Cine Lesson 14〉 2002年/A5判・並製/200頁/2000円

アメリカ映画主義

もうひとつのU.S.A.



大場正明／フィルムアート社編集部=編

＊

アメリカは「映画」を必要としている！　インディーズVSメジャー、カオティックな80年代以降の新展開など、アメリカ映画の現在を新たな視点から読み直す。また80年代までの映画史からも重要なテーマを厳選して紹介。

978-4-8459-0238-5
〈Cine Lesson 15〉 2002年/A5判・並製/200頁/2000円

シネマの宗教美学

服部弘一郎／フィルムアート社編集部＝編

＊

映画のなかに隠されている宗教的なモチーフを読み解き、作品や作家が示そうとする「宗教美学＝聖俗あわせもつ人間の生と世界のあり方の美学」に迫る。なぜ、ブレッソンやジョン・ウーはクリスチャンで映画を撮るのかなど、普遍的テーマを縦横無尽に論じる。

978-4-8459-0346-7
〈Cine Lesson 16〉 2003年/A5判・並製/208頁/2000円

シネマ革命1960

村山匡一郎／フィルムアート社編集部＝編

＊

1960年代、ヌーヴェル・ヴァーグ、実験音楽、ロック、アンダーグラウンド、グラフィズムなど、世界そのものを実験の場として革命的な表現が全ジャンルで開花した。リゾーム、横断性、器官なき身体などの根本的発想の出発点である60's。その今日への衝撃を総特集。

978-4-8459-0353-5
〈Cine Lesson 17〉 2003年/A5判・並製/216頁/2000円

映画でわかるカルチュラル・スタディーズ

カーラ・フレチェロウ＝著
ポップカルチャー研究会＝訳

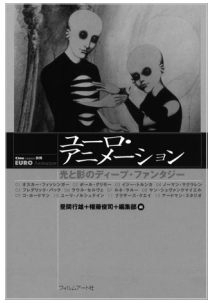
＊

アメリカ最先端の大学講義を再現。ハリウッド・エンターテインメントが芸術映画よりも深い!? 『エイリアン』『羊たちの沈黙』『ブレードランナー』『氷の微笑』など、批評タームを映画で学ぶ、スリリングなポップ・カルチャー読本。

978-4-8459-0121-0
〈Cine Lesson 別冊〉 2001年/A5判・並製/192頁/2200円

ユーロ・アニメーション

光と影のディープ・ファンタジー



昼間行雄／権藤俊司／フィルムアート社編集部＝編

＊

アニマ〈精霊〉が宿る原初の世界へ。アート・アニメーションの歴史的な代表作を多数生み出しているヨーロッパの作家作品に焦点を絞り、その歴史や技法などさまざまな角度からの「深い」鑑賞術を綴った、アート・アニメーションへの手引き。

978-4-8459-0235-4
〈Cine Lesson 別冊〉 2002年/A5判・並製/208頁/2000円

サイバー・メディア・スタディーズ

映像社会の〈事件〉を読む

ケヴィン・ロビンス＝著
田畑暁生＝訳

＊

現代メディアはわれわれにどのような影響をおよぼしているのだろうか。文化／政治の次元からサイバー・メディア時代の映像を徹底検証。「視覚帝国主義」に警鐘を鳴らし、9.11を予言する超映像論。

978-4-8459-0345-0
〈Cine Lesson 別冊〉 2003年/A5判・並製/248頁/2200円

シネ・アーティスト伝説

森直人／石原陽一郎／フィルムアート社編集部＝編

＊

「セックス、ドラック、ロックンロール」「波瀾万丈の破滅的な生きざま」――そんな映画人の英雄像は、今や神話となった。エキセントリック、マルチ、デッド、インディペンデント、4つのファクターをもつ「芸術家のような映画人」44人を紹介。

978-4-8459-0459-4
〈Cine Lesson 別冊〉 2004年/A5判・並製/208頁/2000円

日本発映画ゼロ世代

新しいJムーヴィーの読み方

森直人／フィルムアート社編集部＝編

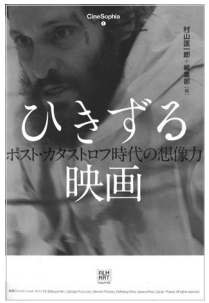
＊

「映画ゼロ世代」とは、日本発の映画と映画人、映画状況の全体の総称である。オーディエンスが理解しやすい内容に立った等身大の物語が作られ始め、コミックや音楽などを複合的に含んだ「ポップカルチャー現象」として映画が見え始めている。

978-4-8459-0682-6
〈Cine Lesson 別冊〉 2006年/A5判・並製/208頁/1700円

ひきずる映画

ポスト・カタストロフ時代の想像力



村山匡一郎／フィルムアート社編集部＝編

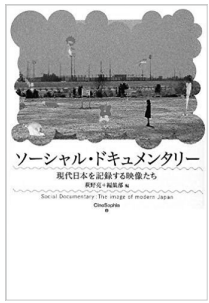
＊

能動的な映画体験を提案する〈CineSophia〉シリーズ第1弾。見終わったあとで心身の奥に沈殿した何かを考え、言語化せずにいられない「ひきずる映画」を、4つのキーワードに分類して紹介。4本の論考、監督名索引、掲載作品のDVD情報も収録。

978-4-8459-1176-9
〈CineSophia1〉 2011年/四六判・並製/256頁/2100円

ソーシャル・ドキュメンタリー

現代日本を記録する映像たち



萩野亮／フィルムアート社編集部＝編

「社会派」から「ソーシャル・ドキュメンタリー」へ。2000年代の主に後半以降の日本のドキュメンタリー映画をアクティビズム・私性・郊外・政治・ケアという5つのキーワードで考える。対談、インタビュー、論考等を収録。

978-4-8459-1294-0
〈CineSophia2〉 2012年/四六判・並製/240頁/2000円

このショットを見よ

映画監督が語る名シーンの誕生

フィルムアート社編集部＝編

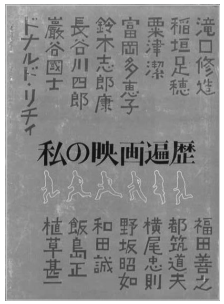
＊

大林宣彦、塚本晋也、岩井俊二など、日本映画を代表するベテラン、気鋭、新鋭の話題の映画監督29人が、自作のなかから選んだ「決定的ショット」を紹介。そこに至るまでの製作プロセスを書き下ろす。

978-4-8459-1201-8
〈CineSophia3〉 2012年/四六判・並製/232頁/2100円

読みもの／ガイド

私の映画遍歴



フィルムアート社＝編

＊

映画といかに出会い、何を吸収したのか。粟津潔、稲垣足穂、滝口修造、横尾忠則、和田誠など、さまざまな分野で活躍する芸術家15人が、スクリーンに見た数々の夢と衝撃の思い出、消しがたく残る“自分だけの映画”について回想する。

978-4-8459-7305-7
1973年/A5判・上製/304頁/1300円

時間を生け捕る

萩原朔美のムーヴィング・アイ

萩原朔美＝著

＊

なにものにもわずらわされない平静な眼の思考――日常の風景のよそおいを変え、灰色の現実からキッチュな色彩をひき出す萩原朔美のムーヴィング・アイ。時代の青春をクールに体現する著者が、言葉とイメージを溶けあわせて作り出した新しい本の世界。

978-4-8459-7615-7
1976年/四六判・並製/216頁/980円

エデンという名の映画館

海野弘＝著

＊

映画のなかで出会う異なった国、異なった時代への旅、「映画館の闇こそ、ぼくたちにとって至福のエデンなのだ！」。映画とその周辺から見る魅惑的なワンダーワールドを活写し、失われた映画の彼方を作品のなかから発見する。

978-4-8459-8662-0
1986年/四六判・並製/320頁/1800円

映画的！

沢田康彦／畑中佳樹／斎藤英治／宇田川幸洋＝著

＊

1950年代後半生まれの新しい映画世代の旗手として注目される4人の若手映画狂が、従来の映画ジャーナリズムや映画批評の枠をはみ出しながら、映画を自由自在に遊泳する待望のマガジン・タイプの本。人気マンガ家・玖保キリコのイラスト付き。

978-4-8459-8767-2
1987年/B5変形・並製/208頁/1800円

［フィルム］スペシャル’89

フィルムアート社編集部＝編

＊

60年代のカルチュア・シーンを突っ切った映画誌「季刊フィルム」のラディカルな精神を受け継いで、20年後を特集。「映画の新地勢図」「ヌーヴェル・ヴァーグ30年」「アメリカン・シネマ80’s〔公共問題〕」、シナリオ『利休』『首相の公務椿道中』（ブレッソン）ほか。

978-4-8459-8979-9
1989年/B5判・並製/248頁/2300円

小津安二郎に憑かれた男

美術監督・下河原友雄の生と死

永井健児＝著

＊

小津安二郎への畏敬、執着、盲従――憑かれたように小津を敬愛した美術監督・下河原友雄の生と死を描きながら、手記や日記など貴重な資料を加え、古き良き時代の日本映画の魂を追ったノンフィクション。

978-4-8459-9085-6
1990年／四六判・上製／264頁／1600円

［映画］眠れぬ夜のために

大森さわこ＝著

＊

眠りにつくことのない都市のストリートでいつも映画は始まる。スパイク・リー、アラン・ルドルフ、フリアーズなどのNYインディーズやイギリス現代映画、さらにグリーナウェイ、リンチなどのカルトを加えて、軽快に疾走するストリート・ムーヴィー・エッセイ。

978-4-8459-9191-4
1991年／四六判・並製／312頁／1900円

ハリウッドインプレッション

映画、その日その日。

ピーター・ボグダノヴィッチ＝著
高橋千尋＝訳

＊

『ラスト・ショー』の監督として有名なピーター・ボグダノヴィッチ。すぐれた映画ジャーナリストでもある彼が、ハリウッドを訪れてH・ボガード、J・ウェイン、ヒッチコック、フォードら、スターや監督の素顔にふれ、生の撮影現場を描いた傑作ルポルタージュ。

978-4-8459-9195-2
1991年／四六判・上製／384頁／2200円

モード・イン・ハリウッド

高橋暎一＝著

＊

メアリー・ピックフォードからヘップバーン、そしてシャロン・ストーンに至るまで、彼女たちの華やかなコスチューム・プレイのイメージを作り続けた衣装デザイナーたち。スターとデザイナーの知られざる関係を軸にハリウッド映画を再読するシネ・ファッションの本。

978-4-8459-9204-1
1992年／A5判・並製／256頁／2400円

実録　日本映画の誕生

平井輝章／林玉樹＝著

＊

瑞々しさを湛えた日本映画の黎明期。本書は『路上の霊魂』から『無法松の一生』に至る戦前映画の傑作54本の背景を追って、伊藤大輔・栗島すみ子・長谷川一夫・片岡千恵蔵ら総85人の関係映画人が、隠された秘話を語る異色の「日本映画名作史」である。

978-4-8459-9316-1
1993年／A5判・並製／304頁／2330円

新興キネマ

戦前娯楽映画の王国

佐藤忠男／登川直樹／丸尾定＝編
山路ふみ子文化財団＝発行

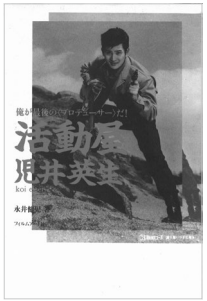
＊

昭和6年から10年間あまり、日本映画がいちばん充実した時期に大衆が安心して楽しめる映画を作り続けた新興シネマ。溝口健二『滝の白糸』、村田実『霧笛』、伊丹万作『忠次売出す』などの作品と、嵐寛寿郎、市川右太衛門などスターをめぐる通史と全作品記録。

978-4-8459-9310-9
1993年／B5判・上製／256頁／4660円

活動屋　児井英生

俺が最後の〈プロデューサー〉だ！



永井健児＝著

＊

「嵐を呼ぶ男」や「渡り鳥」シリーズといった戦後の日本映画の娯楽路線を手がけた代表的なプロデューサー児井英生の生涯を、数々のスターたち、監督たちとの交流を絡めて、彼とともに映画に関わった著者が渾身のタッチで描くノンフィクション。

978-4-8459-9426-7
1994年/四六判・上製/352頁/2330円

「伊豆の踊子」物語

西河克己＝著

＊

一人旅の学生と旅芸人一座の若い踊り子との出会いと別れ——戦前・戦後にわたり6回、映画化されている川端康成の青春の名作を、吉永小百合と山口百恵の主役で2本を監督した筆者が、日本人の心をとらえ続けてきた原作のイメージを興味深く分析して見せる。

978-4-8459-9431-1
1994年/四六判・並製/240頁/1748円

帝都封切館

戦前映画プログラム・コレクション

松田集＝編

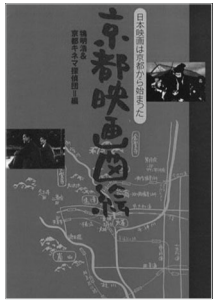
＊

帝都東京を彩った洋画の数々。花開いた大正モダニズムの破天荒な展開が、この一冊に集成されている。武蔵野館、葵館、電気館、帝国劇場など名劇場が発行したプログラムは、現代ジャーナリズムの原型ともなった稀少資料だ。

978-4-8459-9432-8
1994年/A4判・並製/224頁/6311円

京都映画図絵

日本映画は京都から始まった



鴇明浩／京都キネマ探偵団＝編

＊

日本映画は京都から始まった。マキノ、松之助、阪妻、山中貞雄……今世紀初め、古都の隅々に残されたカツドウ屋たちの足跡。さらには『近松物語』から『お引越し』に至る京都を舞台にした傑作の数々。“京都映画”を通して日本映画の原点を知る超面白ブック。

978-4-8459-9433-5
1994年/A5判・並製/256頁/2500円

父と子の長い旅

原将人＝著

＊

映画と音楽に自由を求めて家庭を捨てた父と、今は別々に暮らす中学三年生になった息子が辿った夏の旅。そのふたりの心の交流と信頼の回復を描く感動のオフロード・ノンフィクション。この旅はのちに『百代の過客』という映画に結実した。

978-4-8459-9436-6
1994年/四六判・上製/256頁/1800円

ジャンヌ

ある映画撮影の物語

サンドリーヌ・ボネール＝著
細川晋＝訳

＊

ジャック・リヴェット監督の歴史大作映画『ジャンヌ』でヒロインのジャンヌ・ダルクを演じたサンドリーヌ・ボネールによる貴重な制作裏話。図版やフィルモグラフィも加えた、ボネール独特の人間観あふれるノンフィクション。

978-4-8459-9540-0
1995年/B6判・並製/176頁/1456円

ジャンヌ・ダルク、誰？

聖少女の幻影を追って

三木宮彦＝著

＊

映画や史料に描かれたジャンヌ・ダルクを分析、比較しながら、その伝説の真相へと迫るヒストリー・リーディング。映画化作品の詳細な解説をはじめ、いまだ人々を惹きつけてやまない神秘に満ちた聖少女の世界へと誘う。

978-4-8459-9542-4
1995年／四六判・上製／368頁／2800円

キネマの世紀

松竹映像渉外室＝著

＊

笠智衆、原節子らの名優や、小津、木下らの巨匠を輩出し、「寅さん」を生んだ日本映画のふるさと、松竹。その創業百年を記念して百本の名作を集成したベスト・コレクション。人物辞典など貴重な資料も充実。

978-4-8459-9547-9
1995年／B5判・並製／248頁／2233円

キネマの哲学

日本映画の人生会話101

浦崎浩實＝編

＊

小津、成瀬、溝口……名作には「哲学」が刻まれていた。結婚、死別、旅立ち、誰もが避けて通ることのできない人生の出来事を、一瞬の名セリフが語る。選びぬかれた傑作のなかから人生の知恵が浮かぶ。

978-4-8459-9550-9
1995年／B6判・上製／272頁／2000円

菫色の映画祭

ザ・トランス・セクシュアル・ムーヴィーズ

石原郁子＝著

＊

ゲイ・レズビアン映画は自由な愛と欲望の交感を求めてダナミックに変容する。『眺めのいい部屋』『オルランド』『戦慄の絆』など、話題の「同性愛映画」を豊富な図版、データとともにファナティックに集成。

978-4-8459-9654-4
1996年／A5判変型・並製／288頁／2200円

高知の自主上映から

「映画と話す」回路を求めて

山本嘉博＝著

映画新聞＝発行

＊

一地方都市でさまざまな困難を乗り越えて自主上映に取り組んできた筆者が、映画のつくり手／うけ手とのコミュニケーションを通じて深めた20年にわたる映画愛と活動の記録。映画の回路としての地方の現場を追想する映画文化論。

978-4-8459-9662-9
1996年／四六判・並製／240頁／2000円

ハリウッド・アクション！

ジャッキー・チェンへの挑戦

坂本浩一＝著

＊

ジャッキー・チェンに憧れて単身ハリウッドへ乗り込み、アクション監督となったサカモト。『パワーレンジャー』『マーシャルコップ』などを演出した舞台裏秘話と、アクションシーンのマル秘テクを初公開。

978-4-8459-9664-3
1996年／四六判・並製／232頁／1800円

SFX映画物語

▶新装版

ムービー・マジック

ジョン・ブロスナン＝著
福住治夫＝訳

＊

「トリック」と呼ばれた草創期から1970年代前半までの特殊効果の歴史を、技術者たちのインタヴューと作品紹介をまじえて描く。透明人間の作り方から巨大ビルの破壊まで、不可能を可能にした特殊効果マンたちの破天荒な仕事ぶりをダイナミックに描く。

978-4-8459-9088-7
1996年/A5判・上製/280頁/2500円

クレージー映画大全

無責任グラフィティ

佐藤利明／町田心乱／鈴木啓之＝編

＊

ハイ、それまでヨ！　インディペンデント無責任社員・植木等を中心にくり広げる「クレージーキャッツ」のナンセンス・コメディ、歌、ギャグ、そして美女。60年代東宝黄金期を飾るシリーズ全30本を初集成。

978-4-8459-9770-1
1997年/A5判・並製/208頁/2400円

モンスター・ムービー

石田一＝著

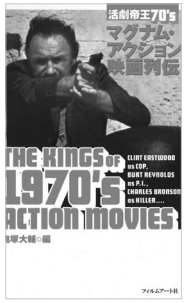
＊

ドラキュラ、フランケンシュタイン、ヴァンパイア、エイリアンなど、映画の想像力が生み出した不滅の怪物たち250体の誕生・成長の秘話を、“怪物ドクター”が含蓄を傾けて書き下ろした「モンスター・バイブル」。

978-4-8459-9887-6
1998年/A5判・並製/232頁/2500円

活劇帝王70's

マグナム・アクション映画列伝



鬼塚大輔＝編

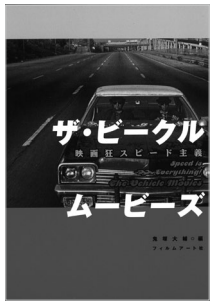
＊

生身のアクションでおのれを貫き、魂の職人芸で観客を唸らせた、ハリウッド70年代の熱き映画人60人。イーストウッド、レイノルズ、ブロンソンなど70年代ハリウッドの活劇スター、監督論、蔵出し作品、ガンアクション分析ほか。

978-4-8459-9900-2
1999年/A5判変型・並製/224頁/2100円

ザ・ビークル・ムービーズ

映画狂スピード主義



鬼塚大輔＝編

＊

打ち震えるような映画体験を生み出すもの、それはスクリーンを駆け抜けるバイク、車、船、飛行機といったビークル＝乗り物。 疾走、飛翔、サスペンス、爆走、爆笑、アクション、航海、そして純愛ロマンに欠かせないドライブ感覚の乗り物映画を徹底集成。

978-4-8459-0012-1
2000年/A5判・並製/224頁/2200円

デストピア聖典

SF＆ホラー映画の黙示録

鷲巣義明＝著

＊

『宇宙戦争』『死霊のえじき』『マトリックス』『砂の惑星』『エイリアン』『ノストラダムスの大予言』『日本沈没』『猿の惑星』……。侵略、地獄、神と科学、大滅亡、変身、黙示録などをテーマに、人類終焉映画を大集成する。デス（死）とトピア（場所）をめぐる映画的快楽。

978-4-8459-0008-4
2000年/A5判・並製/200頁/2200円

ムービー・ラビリンス

映画の謎に答えるQ&A

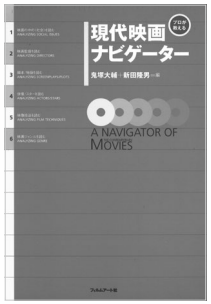
杉原賢彦／フィルムアート社編集部＝編

＊

リュミエール兄弟による映画誕生の秘話からヌーヴェル・ヴァーグの真実、そして『タイタニック』の世界的大ヒットの秘密まで、読み進むうちに映画が身近に感じられ、得した気分になる一冊。映画の秘密や謎、知っていると見るのがもっと楽しくなるポイントを解き明かす。

978-4-8459-0344-3
2003年/四六判・並製/256頁/1500円

プロが教える　現代映画ナビゲーター



鬼塚大輔／新田隆男＝編

＊

身近な映画群から新たな発見をするための手引書。1980年代以降のアメリカ映画を中心に、映画監督、脚本、俳優、映画技法、映画ジャンルなどについて解説する。名作・話題作の疑問に鋭く迫る。〈娯楽〉であり〈芸術〉でもある現代映画に新たな発見を促す。

978-4-8459-0462-4
2004年/A5判・並製/173頁/1500円

タッチで味わう映画の見方

ムーヴィー・リテラシー

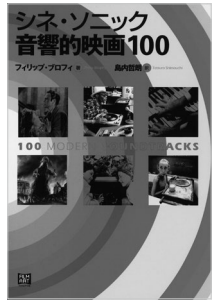
石原陽一郎＝著

＊

映画を意味や物語ではなく、タッチという観点から見つめ直し、自由な映画の見方を切り出すヒントを示す。ヴィジュアルを味わいながら、自分自身で映画の見方を発見するためのガイド。

978-4-8459-0577-5
2005年/A5判・並製/208頁/1600円

シネ・ソニック　音響的映画100



フィリップ・ブロフィ＝著
島内哲朗＝訳

＊

ノイズ、ヴォイス、電子音、メロディ、環境音、オーケストラ音楽以後……。音と映画（映像）の関係を考える上で絶対に知っておきたい映画100作品を紹介。今までにない、耳で考える現代映画ベストセレクション。

978-4-8459-0579-9
2005年/A5判・並製/256頁/1900円

〈映才教育〉時代

映画の学校はどこにでもある！

岡博大＝著

＊

映画人への道は一つではない。今日本で何が起きているのか。なぜ映画学校が急増しているのか。映画人を育成する映画教育にも、時代の変化の余波が押し寄せている。時代を超えて継承できる真の意味での映画の英才教育「映才教育」を探究する。

978-4-8459-0710-6
2007年/四六判・並製/288頁/2000円

イタリアン・ホラーの密かな愉しみ

血ぬられたハッタリの美学

山崎圭司＝編

＊

タランティーノやバートンが偏愛するB級映画のすべて。イタリア製恐怖映画の歴史を追いつつ、その巨大な闇に多方面から切り込み、作品の背景にあるイタリア人の摩訶不思議な気質にも迫る。第3回中原昌也文学賞受賞。

978-4-8459-0816-5
2008年/A5判・並製/208頁/2000円

コンピュータ・グラフィックスの歴史

3DCGというイマジネーション

大口孝之＝著

＊

コンピュータ・グラフィックスという巨大なイマジネーションをカタチにしたパイオニアたちの仕事を紹介。CG、映像技術、VFX、IT技術、グラフィック・デザイン、モーション・グラフィックス、アニメーション、立体3D映像に興味のあるすべての人必読。

978-4-8459-0930-8
2009年/A5判・並製/272頁/2600円

デザイン化される映像

21.5世紀のライフスタイルをどう変えるか？

堀江秀史／椚座基道／水島宏明／暮沢剛巳／るびゑ／岩崎明仁／草彅洋平＝著

＊

都市空間や日常生活に映像があふれる現代、私たちは映像の何を見て、何を考えるべきなのか？　身近な環境から意外な領域まで、21世紀の映像メディアの源泉を探りつつ、社会事象や人間の行動形態にまで影響を与える映像との新しい関わり方を提案する。

978-4-8459-1432-6
2014年/四六判・並製/224頁/1800円

漫画家、映画を語る。

9人の鬼才が明かす創作の秘密

島田一志＝編

漫画家の目から見て、いったい映画のどこが面白いのか。漫画家は作品体験をどのように表現に生かしているか。松本零士、上條淳士、楠本まき、浅田弘幸、五十嵐大介、松本次郎、武富健治、山本美希、諫山創の9人の鬼才が語り下ろした、漫画と映画の新しい可能性。

978-4-8459-1451-7
2015年/B6判・並製/320頁/1800円

空想映画地図［シネマップ］

名作の世界をめぐる冒険

アンドリュー・デグラフ＝画　A・D・ジェイムソン＝著
吉田俊太郎＝訳

一本の映画において、登場人物たちはどのようにその世界を旅するのか？　古典中の古典作品から、映画史に残る超大作、そして最新の話題作まで、気鋭のイラストレーター、アンドリュー・デグラフによる「映画地図」が、名作世界へとあなたを誘う。

978-4-8459-1800-3
2018年/B5判・並製/234頁/3200円

イラストでわかる映画の歴史

いちばんやさしい映画教室

アダム・オールサッチ・ボードマン＝絵・文
細谷由依子＝訳

映画がどのようにつくられてきたかを「人」「テクノロジー（技術）」「テクニック（撮影技法）」を軸にイラストで分かりやすく解説。ポップなイラストで中高生から大人まで楽しめる、知識ゼロから学べる「図解・映画の教科書」。

978-4-8459-1805-8
2018年/A5判・上製/104頁/2000円

芸術

アート
音楽
デザイン
建築
テレビ
アニメ
演劇／舞踏
ファッション
写真
シリーズ
図録

アート

ナンセンス芸術論

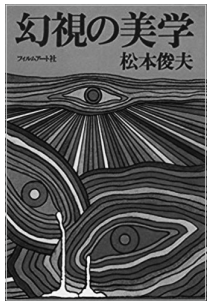
中原佑介＝著

＊

“ナンセンス”とは、想像の世界を基盤にして日常の現実をつき破るもう一つの世界観であり、現代における芸術の可能性を支えるものだとする著者。現代芸術の作家とその作品に新たなアプローチを試み、“ナンセンス”の今日的意味をユニークに解明する。

978-4-8459-7203-6
1972年/A5判・上製函入/256頁/1100円

幻視の美学



松本俊夫＝著

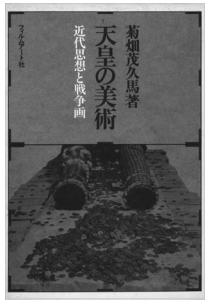
＊

批評家兼映画監督として『西陣』『薔薇の葬列』『16歳の戦争』など数々の話題作を生み出してきた著者が、幻想のもつラディカルな視点に立って、映画・美術・音楽などの現代芸術の諸相から、表現の最先端を解明しようとするユニークな芸術論集。

978-4-8459-7614-0
1976年/四六判・並製/296頁/1400円

天皇の美術

近代思想と戦争画



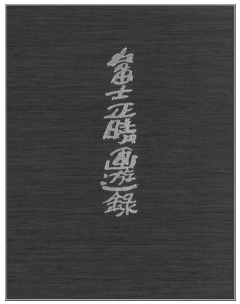
菊畑茂久馬＝著

＊

国家の懐深く封印され続ける膨大な戦争画の群れ——この狂気に彩られた美の謎とは何か。一人の画家が、自己の存在の根源を問い直す作業として、戦争画とそれを生んだ日本近代美術史の構造を、“権力”と“美”との稀有な結節点に生きた人々の思想を通して探る。

978-4-8459-7824-3
1978年/四六判・上製/240頁/1800円

富士正晴画遊録



富士正晴＝著　藤本巧＝写真

＊

竹林の隠者は、竹林の画伯でもあった！　作家富士正晴の知られざる絵図集成。本人のほか、身辺を知る親しい友人——野間宏、桑原武夫、鶴見俊輔、貝塚茂樹、杉本秀太郎、田辺聖子、山田実、飯沢匡らのエッセイを収録。限定800部。

978-4-8459-8454-1
1984年/AB判・上製函入/112頁/10000円

見ることの神話

▶新装版

中原佑介＝著

＊

今日、芸術はいかにして存在し得るか？　それはもはや完結したものとして与えられるのではなく、絶えざる問いかけのなかでのみ姿を表すものではないか？　現代芸術の諸相にわたって、“見る”ことの意味から本質的でラディカルな問題を提示する。

978-4-8459-7201-2
1985年/A5判・上製/388頁/2800円

サイバー・メディアの銀河系

映像走査論

武邑光裕＝著

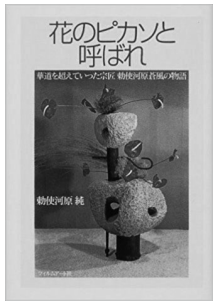
＊

コンピューター・グラフィックス、ビデオ・アートの先端映像から60年代アメリカ・アンダーグラウンド、B級カルト映画まで、先鋭的イメージを走査する80年代もっとも新しい映像論。近未来を予感するサイバー・パンク・エイジに送る注目の映像生態学。

978-4-8459-8872-3
1988年/A5判・上製/240頁/2800円

花のピカソと呼ばれ

華道を超えていった宗匠・勅使河原蒼風の物語



勅使河原純＝著

＊

これが「いけばな」か？　花＝アート＝世界を横断したカリスマ伝説。華道の現代的インスタレーション化を押し進めた草月流の創始者・勅使河原蒼風。“同姓”であるという奇縁から紡ぎだされた俊英・美術批評家によるアート・ノンフィクション。

978-4-8459-9999-6
1999年/四六判・上製/240頁/2000円

ワクのない表現教室

自己創出力の美術教育

小串里子＝著

＊

教えることは共感すること、芸術とは自己の全存在を表出すること、未知のものに挑むこと……。このような美術と美術教育の考えをもとに、主に養護学校や心身障害児学級で実践した、指導例と造形表現を掲載。

978-4-8459-0002-2
2000年/A5判・並製/184頁/2200円

フォトモンタージュ　操作と創造

ダダ、構成主義、シュルレアリスムの図像

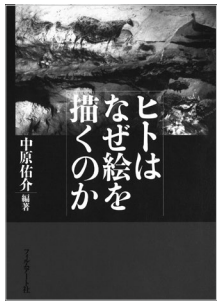
ドーン・エイズ＝著
岩本憲児＝訳

＊

日常を挑発するイメージ編集術。マルチ・デジタル時代の多様な図像表現も、本書の「フォトモンタージュ」をルーツにしてスタートする。異なるイメージの組み立てによって日常を挑発する「フォトモンタージュ」の歴史を、アヴァンギャルドの創造から探る。

978-4-8459-0013-8
2000年/A5判・並製/224頁/2500円

ヒトはなぜ絵を描くのか



中原佑介＝編著

闇の空間に描いた理由は？　なぜ動物が多いのか？「ヒトはなぜ絵を描くのか」という根源的な問いを、先史時代の洞窟画まで遡り、さまざまな分野から探求する。その壮大な謎について、サル学者河合雅雄や民族学者梅棹忠夫、画家前田常作らと対談する。

978-4-8459-0122-7
2001年/A5判・並製/224頁/2400円

輝け60年代

草月アートセンターの全記録

「草月アートセンターの記録」刊行委員会＝発行

＊

1958年より71年にかけて活動した草月アートセンターの全記録。同センターにさまざまなかたちで関係した人々の回想と証言、ならびに同センターの活動をめぐって書かれた主要文献類より抜粋引用した資料から構成される。

978-4-8459-0239-2
2002年/B5判・並製/416頁/7500円

暴力と芸術

ヒトラー、ダリ、カラヴァッジォの生涯

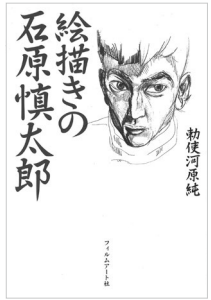
勅使河原純＝著

＊

芸術は野蛮か、崇高か。ナチ党首になった貧乏画家ヒトラー、サディスティックな扇動家ダリ、殺人事件を犯したカラヴァッジォ。暴力と表現の深層に、3人の個性的な人間の生き方を通して迫る挑発的評伝。

978-4-8459-0350-4
2003年/四六判・並製/256頁/2000円

絵描きの石原慎太郎



勅使河原純＝著

＊

10代の頃から絵を描く石原の知られざるナイーブな感性。彼は何をどう描いてきたか。そして、この国の文化をどうするつもりなのか。自ら絵を描き、大胆な文化政策を作るカリスマ政治家の最新評伝。

978-4-8459-0584-3
2005年/四六判・並製/256頁/1900円

イメージ・リテラシー工場

フランスの新しい美術鑑賞法

ジャン＝クロード・フォザ／アンヌ＝マリ・ギャラ／フランソワーズ・パルフェ＝著
犬伏雅一／前川陽郁／前田茂＝訳

＊

フランスの大ベストセラーがついに上陸。どのようにイメージを読み解き、また自らどのようにイメージを生み出すか。絵画、写真、映画から漫画やインターネットまで扱う、21世紀のヴィジュアル教科書。

978-4-8459-0681-9
2006年/B5判変型/336頁/3200円

われらが時代のビッグ・アーティスト

高松宮殿下記念世界文化賞受賞者12人へのインタビュー

辻川一徳＝著

＊

芸術家の光と影、その知られざる素顔。国際的な業績をあげた芸術家に授与される「高松宮殿下記念世界文化賞」受賞者のなかから、日本ではあまり知られていない芸術家12人を追って、その魅力的な「人となり」と芸術の本質にふれる。

978-4-8459-0696-3
2006年/菊判・並製/392頁/3000円

芸術の設計

見る/作ることのアプリケーション

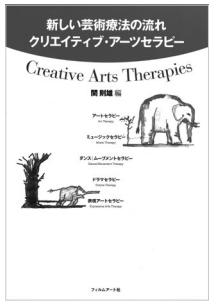
岡崎乾二郎＝編著

＊

素人から抜け出すための秘密の方法がある。技術を理解すること、把握すること、習得するということはいかなることなのか。本書は、美術、音楽、建築、ダンスといった芸術諸ジャンルの表現形式を横断して、それぞれの技術的特性に迫る。

978-4-8459-0706-9
2007年/A5判・並製/256頁/2600円

新しい芸術療法の流れ　クリエイティブ・アーツセラピー



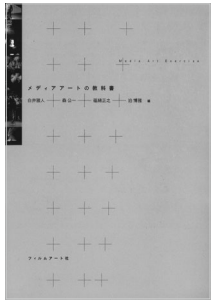
関則雄＝編

＊

自由な遊びの世界が“癒し”につながっていく。日米最前線のクリエイティブ・アーツセラピストによる書き下ろしで、あらゆる感覚を解放させる癒しの世界を案内する。

978-4-8459-0715-1
2008年/A5判・並製/240頁/2500円

メディアアートの教科書



白井雅人／森公一／砥綿正之／泊博雅＝編

＊

美しく、クリティカルなデジタルテクノロジー時代の表現とは。本書は、歴史、思想、ソフトウェアの使い方まで、メディアアートのすべてを解説。メディアアートの本質的な理解を促す一冊。

978-4-8459-0817-2
2008年／菊判・並製／288頁／2500円

「芸術」の予言！！

60年代ラディカル・カルチュアの軌跡

「季刊フィルム」コレクション編集部＝編

＊

1968〜74年にかけて刊行されていた雑誌「季刊フィルム」「芸術倶楽部」に掲載された、荒木経惟、赤瀬川原平、篠田正浩、大島渚ら執筆陣たちのテキスト、座談会などをよりすぐってアーカイヴ化した一冊。

978-4-8459-0929-2
2009年／四六判変型・並製／400頁／2700円

写楽面

SHARAKU-MEN

cochae＝作

海外でも人気の折り紙ユニットcochae（こちゃえ）によるポストカードブック。江戸の浮世絵師＝写楽のユニークな役者絵が、アイマスク（ポストカード）になってよみがえる。送って、着けて、楽しもう！

978-4-8459-0931-5
2009年／四六判・並製／48頁／1300円

じぶんを切りひらくアート

違和感がかたちになるとき

高橋瑞木／フィルムアート社編集部＝編

もはや造形技術に長けていたり、美術館で作品を展示するひとだけが「アーティスト」ではない。閉塞した制度や習慣に違和感を抱きながらも、自分の内部に耽溺することなく、表現の「場」を自ら開拓し続けている8人の表現者たち。世界との結節点（ノード）を探るインタビュー集。

978-4-8459-1049-6
2010年／四六判・並製／264頁／2000円

IQ84以下！

中原昌也＝著

ミュージシャン、小説家、映画批評家、画家——。異能の表現者中原昌也が放つ100枚の描き下ろしドローイングと物語、そして音楽が一体となった大人の「絵本」。すべての価値観が交錯する分岐点で、絶望のループを突き詰めた不可思議な明るさを堪能せよ。

978-4-8459-1053-3
2010年／A5判変型・並製／136頁／3600円

アーティストのためのハンドブック

制作につきまとう不安との付き合い方

デイヴィッド・ベイルズ／テッド・オーランド＝著
野崎武夫＝訳

全米で20年間読み継がれたアーティストのための手引書が待望の邦訳。アーティストである限り襲われる、答えの出ない不安と共存しながら、いかに自分の制作を諦めずに続けていくか。自分で自分の仕事を永遠につくり出さなければならない、すべての制作者たちに効く一冊。

978-4-8459-1175-2
2011年／四六判・並製／224頁／1700円

おとなりのおんがくか

渋谷純子＝著

アパートメントのある一室。隣に新しい住民が来るのを待っている男の子は、窓辺でヴァイオリンを練習する。やがて隣の部屋に女の子が引越してきて……。ヨーロッパで静かな感動を呼んだ、文字のない音楽の絵本。小沼純一、枡野浩一ほか豪華執筆陣による小冊子付き。

978-4-8459-1208-7
2012年/A5判変型・上製/64頁/2000円

仕事や人生や未来について考えるときにアーティストが語ること

あなたはなぜつくるのですか？

野崎武夫＝編

不確かな時代、報われることが困難な道を、わたしたちはどのように進めばよいのか。ヒントを探るべく投げかけた3つの問いに、アーティスト38人が真摯に対峙し、思考し、紡ぎ出した、すべての人々の精神に深く寄り添う知恵と勇気がつまった一冊。

978-4-8459-1301-5
2013年/四六判・並製/240頁/1900円

ラッセンとは何だったのか？

消費とアートを越えた「先」

原田裕規＝編著

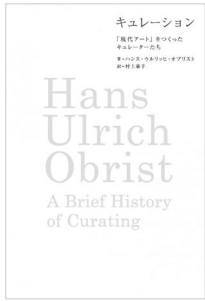
＊

バブル期以後、イルカやクジラをモチーフにしたリアリスティックな絵で一世を風靡しながら、美術界では黙殺されてきたクリスチャン・ラッセン。美術批評をはじめ、社会学、都市論、精神分析など多彩なフィールドに立つ論者たちによる初のラッセン論。

978-4-8459-1314-5
2013年/四六判・並製/268頁/2200円

キュレーション

「現代アート」をつくったキュレーターたち



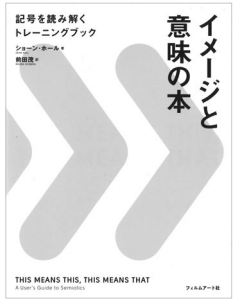
ハンス・ウルリッヒ・オブリスト＝著　電子版あり
村上華子＝訳　＊

「現代アート」「キュレーション」という概念の黎明期に活躍した伝説のキュレーター11人へのオブリストによるインタビュー集。キュレーターという職業の成立、展示の方法や展覧会の作り方の歴史を追いながら、現代アートの未来をも見すえる必読の一冊。

978-4-8459-1312-1
2013年/四六判・並製/360頁/2400円

イメージと意味の本

記号を読み解くトレーニングブック



ショーン・ホール＝著
前田茂＝訳

世界に溢れるイメージに織り込まれたさまざまなコンテクスト（文脈）から情報を正しく受け取るために、また自らがより効果的に意図や狙いを発信するためにも、隠された「記号」を読み解く力は不可欠だ。発想力と論理力を身につけるための、たのしい記号学入門。

978-4-8459-1305-3
2013年/B5判・並製/200頁/2600円

色と意味の本

明日誰かに話したくなる色のはなし

ジュード・スチュアート＝著
細谷由依子＝訳　＊

日常のどこにでも存在し、普段は意識することもない「色」を、子どもが赤い消防車を見るように「見る」ことができるようになる、たのしい色彩学入門書。色が持つ無限のミステリーの世界へと導き、色にひそむ意味を知ることでまったく新しい視界が拓ける。

978-4-8459-1427-2
2014年/A5判・並製/208頁/2300円

フリープレイ
人生と芸術におけるインプロヴィゼーション

スティーヴン・ナハマノヴィッチ＝著
若尾裕＝訳 ＊

私たちはみな、即興的に表現をしながら生きている――音楽や演劇／舞踏の領域に限らず、創造的に活動するすべての人にインスピレーションを与える方法論「インプロヴィゼーション」の真髄に迫る。米国で読み継がれてきた普遍的名著、待望の翻訳。

978-4-8459-1308-4
2014年/四六判・並製/336頁/2600円

ソーシャリー・エンゲイジド・アート入門
アートが社会と深く関わるための10のポイント

パブロ・エルゲラ＝著
アート＆ソサイエティ研究センターSEA研究会＝訳

パブリック・アート、リレーショナル・アート、参加型アートなど、さまざまな歴史的な実践を踏まえて登場し、アートによる社会創造を目指す国際的な潮流「ソーシャリー・エンゲイジド・アート」。その試みと手法について、理論と実例を交えながらその可能性を検証する。

978-4-8459-1450-0
2015年/四六判・並製/196頁/2000円

アートプロジェクトのつくりかた
「つながり」を「つづける」ためのことば

森司＝監修
坂本有理／佐藤李青／大内伸輔／芦部玲奈＝編著

アートプロジェクトを運営、参加する上で考えるべき問題点、知っておくべき方法論、モノ・ヒト・コトをより効果的につなげ、創造性を深めるためのノウハウを現場の声から学ぶ。一過性のイベントで終わらせない、地域とアートを適切に接続する実践的な一冊。

978-4-8459-1455-5
2015年/四六判変型・並製/192頁/1500円

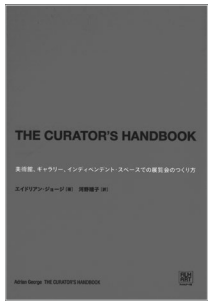
「クリエイティブ」の処方箋
行き詰まったときこそ効く発想のアイデア86

ロッド・ジャドキンス＝著 電子版あり
島内哲朗＝訳 ＊

古今東西の“クリエイティブな思考の成功者”からその方法論の要点をまとめ、誰にでも応用できるようにした待望の一冊。どんな仕事に就く人でも自分を分析し、理解できていれば壁を乗り越え、自分の創造性に気づくことができる。そんな生き方のためのヒントが満載。

978-4-8459-1569-9
2015年/四六判・並製/416頁/1800円

THE CURATOR'S HANDBOOK
美術館、ギャラリー、インディペンデント・スペースでの展覧会のつくり方



エイドリアン・ジョージ＝著
河野晴子＝訳

キュレーターが担う「新しい価値観の創造者・教育者・仲介者・管理者・資金調達者」の全行程を、12のプロセスに整理・解説。さらにアート業界の第一線で働く専門家たちのワールドワイドで実践的な生きた言葉から「これからのキュレーター像」を浮き彫りにする。

978-4-8459-1561-3
2015年/四六判・並製/424頁/2400円

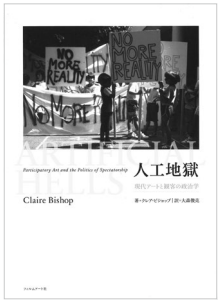
めくるめく現代アート
イラストで楽しむ世界の作家とキーワード

筧菜奈子＝文・絵

カラフルなイラスト付きの現代アート入門書。〈アーティスト編〉〈キーワード編〉の2章立てで、おさえておきたいアーティストやその代表作、現代アートを知る上で役に立つ知識を習得することができる。作家のことばやエピソードも豊富に収録。

978-4-8459-1579-8
2016年/A5判・並製/160頁/1500円

人工地獄
現代アートと観客の政治学



クレア・ビショップ＝著
大森俊克＝訳
電子版あり

アートと社会の関係性は、いかに変化してきたか？　芸術史において見逃されてきた「参加」の系譜をアクロバティックに再編集し、現代アートの動向を批判的に読解する。「敵対」と「否定」に価値を見出しつつ、それらを多層的にとらえ直す、現代美術批評の最重要書。

978-4-8459-1575-0
2016年/A5判・上製/536頁/4200円

自由な反逆のすゝめ
流れに逆らえば時代はついてくる

huck＝著
江口研一＝訳

ポップカルチャーの賢人たちが、こんな時代だからこそ贈る、「世界」に対峙するためのアドバイス。自由に動いて、自分のやり方を貫けば、おのずと時代はついてくる。ユースカルチャーを代表する自由な反逆者たちに学ぶ、「流されない」生き方のススメ。

978-4-8459-1570-5
2016年/四六判変形・上製/160頁/1500円

模様と意味の本
明日誰かに話したくなる模様のはなし

ジュード・スチュアート＝著
細谷由依子＝訳

誰もが知っている模様からフラクタル、超越数論など科学と数学の分野に見られるパターンまで、さまざまな模様を紹介。模様にまつわる歴史や逸話、雑学、文芸、芸術、文化史的トリビアまでがテキストとイラストで楽しめる一冊。

978-4-8459-1593-4
2016年/A5判変型・並製/264頁/2300円

アートプロジェクトの悩み
現場のプロたちはいつも何に直面しているのか

小川希＝編

日本全国で急速的に広まり、開催されているアートプロジェクトの数々。アートと地域を繋げる役割を担い、最前線で活躍している人が直面する、いろいろな問題や悩みを紹介。普段からアートプロジェクトに関わる／関わりたい人が知っておくべきヒントが満載。

978-4-8459-1610-8
2016年/四六判・並製/240頁/1800円

社会の芸術／芸術という社会
社会とアートの関係、その再創造に向けて

北田暁大／神野真吾／竹田恵子＝編著

＊

研究者、アーティスト、キュレーターがアートワールドを人文・社会科学的な側面から検討し、アートという社会、あるいはアート「と」社会の関係を問い直す。「アートと社会の相互反映性」を領域横断的に考察し、アートの実践、批評の言語の新しい形を模索する。

978-4-8459-1609-2
2016年/A5判・並製/352頁/2800円

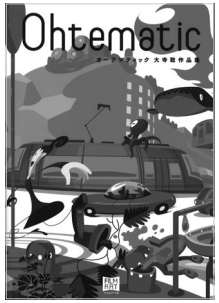
サザビーズで朝食を
オークショニア 競売人が明かす美とお金の物語

フィリップ・フック＝著
中山ゆかり＝訳
電子版あり

世界最古の国際競売会社サザビーズでディレクターを務めるフィリップ・フックが、長年の経験をもとに作品の様式からオークションの裏側まで、美術に関するさまざまなトピックを解説。誰もが気になる「美」と「お金」に関する疑問に対する答えがここにある。

978-4-8459-1632-0
2016年/A5判・並製/472頁/3000円

オーテマティック
大寺聡作品集



大寺聡＝著
井原慶一郎＝監修

イラストレーター大寺聡、初の作品集。大寺聡の半生を振り返るHIStory、21世紀型の暮らしと創作のアイデアを詰め込んだCONcept、機械文明と原始文明の対話と融合を壮大なスケールで描いたPANorama、本編の内容を解説したinterVIEWを収録。

978-4-8459-1724-2
2018年/A5判・並製/168頁/2200円

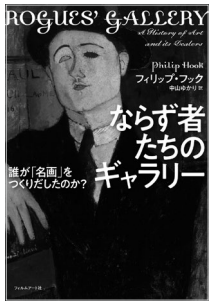
ソーシャリー・エンゲイジド・アートの系譜・理論・実践
芸術の社会的転回をめぐって

アート＆ソサイエティ研究センター SEA研究会＝編

対話、参加、協働、コミュニティの芸術実践としてのソーシャリー・エンゲイジド・アート――その系譜、〈社会的転回〉をめぐる理論と実践の諸問題、可能性を探る。歴史的背景、ますます活性化する議論、アーティストによる実践を概観できる先駆的アンソロジー。

978-4-8459-1711-2
2018年/A5判・並製/292頁/2600円

ならず者たちのギャラリー
誰が「名画」をつくりだしたのか？



フィリップ・フック＝著
中山ゆかり＝訳

レンブラントを雇い、才能を開花させたアイレンブルフ、セザンヌの市場価値をつくったヴォラール、ピカソを応援したカーンワイラー……。サザビーズの競売人（オークショニア）が案内する、美術史と美術品の価値に影響を与えた、ずる賢くも魅力的な画商列伝。

978-4-8459-1715-0
2018年/A5判・並製/512頁/3000円

音楽

森の中からジャズが聞こえる
パット・メセニーのギターを作る

リンダ・マンザー＝著
菊池淳子＝訳編 ＊

ジャズの巨人、パット・メセニーのギターを作るリンダ・マンザー。10時間以上に及ぶインタビューによりカナダの森とともに生きるギター制作者が、ギター制作に限らず、自分の内面や生きる姿勢、自然との関係などを語り下ろす。

978-4-8459-9656-8
1996年/四六判・上製/216頁/1800円

シネ・ミュージック講座
映画音楽の100年を聴く

秋山邦晴＝著
武満徹＝ゲスト ＊

映像は音がプラスされてはじめて活きた表現となる。伴奏や主題歌だけではない“作品を演出する”映画音楽の新しい構造を解き明かしながら、映画100年の歴史に登場した代表的な作曲家たちの仕事を詳しく紹介する。

978-4-8459-9888-3
1998年/A5判・並製/248頁/2400円

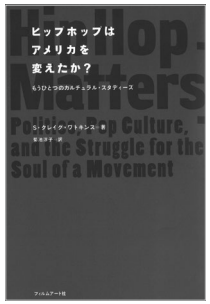
ピアノを弾くということ。
ピアニストは八百屋さん？

花岡千春＝著

難しく考えない。軽く考えない。技法的なことではなく、「現代」という状況のなかで、「ピアノを弾く」ということの意味を考え、これからのピアニストの可能性を探る。本当にベーシックな演奏の手引き。

978-4-8459-0707-6
2007年/四六判・並製/200頁/1600円

ヒップホップはアメリカを変えたか?
もうひとつのカルチュラル・スタディーズ

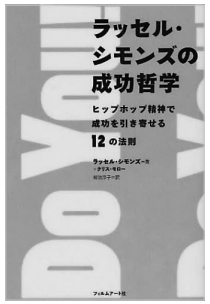


S・クレイグ・ワトキンス＝著
菊池淳子＝訳 ＊

病める現代アメリカの社会・政治・経済を刺激してきたヒップホップ・カルチャー。その誕生から絶頂、そして明らかになるさまざまな問題を突き、ヒップホップの新たな可能性を考察する、ヒップホップ文化研究の画期的入門書。

978-4-8459-0824-0
2008年/四六判・並製/272頁/2200円

ラッセル・シモンズの成功哲学
ヒップホップ精神で成功を引き寄せる12の法則



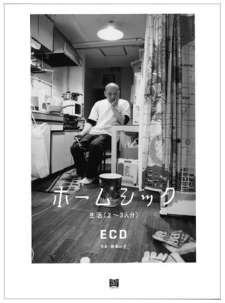
ラッセル・シモンズ／クリス・モロー＝著
菊池淳子＝訳

ストリートから現代アメリカのビジネスやカルチャーでもっとも影響力のある一人となった“ヒップホップのCEO”ことラッセル・シモンズが語る、人生を豊かにし、仕事に成功する知恵とひらめきを呼ぶ12の法則。ビジネスマン、起業志望者、転職志望者、求職者必読の書。

978-4-8459-0935-3
2009年/四六判・並製/320頁/1700円

ホームシック

生活（2〜3人分）



ECD＝著
植本一子＝写真 ＊

日本語ラップのオリジネイターとしてリスペクトされるECDが、アル中、閉鎖病棟入院といった“失点”な日々を乗り越え、新進カメラマン植本一子との結婚へと至る怒濤の人生の転換を独特の視点で綴ったリアルライフ文芸。植本による写真も多数収録。

978-4-8459-0937-7
2009年/A5判変型・並製/168頁/1800円

音楽から解き放たれるために

21世紀のサウンド・リサイクル

原雅明＝著

閉塞した状況のなかで音楽を聴き続けるために。音楽モデルの破綻と解体の向こうに広がる、新しい音の感じ方／聴き方とは。音楽の最深部をさまざまな側面から提示してきた著者の、時代と社会の変容を鋭く捉えた音楽論集。

978-4-8459-0939-1
2009年/四六判変型・並製/336頁/1900円

ジミ・ヘンドリックスとアメリカの光と影

ブラック・ミュージック＆ポップ・カルチャー・レヴォリューション

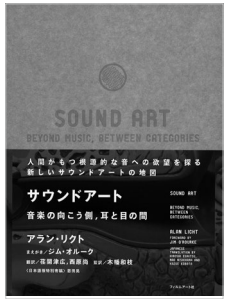
チャールズ・シャー・マリー＝著
廣木明子＝訳

あらゆる既成概念を打ち壊した革命児ジミ・ヘンドリックス。彼の音楽に、社会、文化、世相などを縦横無尽に絡ませて、米国及び戦後ポップカルチャー史という大きな背景をあぶり出した、ジミ・ヘンドリックス研究書。

978-4-8459-0943-8
2010年/A5判・並製/360頁/2600円

サウンドアート

音楽の向こう側、耳と目の間



アラン・リクト＝著
木幡和枝＝監訳　荏開津広／西原尚＝訳

美術館を脱し、野外、自然、環境へ。あるいは、アカデミックを脱し、ロック、ポップ、クラブ・カルチャー、デジタル・マテリアリズムへ。人間がもつ根源的な音への欲望を探り、その歴史と発展、新たな展望を示す、NYの気鋭の音楽家による新しいサウンドアート研究の決定版。

978-4-8459-0942-1
2010年/四六判変型・並製/352頁/2500円

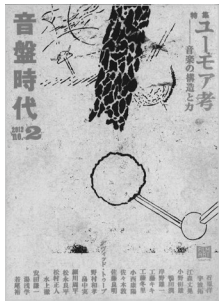
野外フェスのつくり方

MASSAGE編集部＝編 ＊

プライベートな野外パーティから大規模フェスまでを網羅。野外フェスをつくり出すためのオーガナイズの方法と、そのための具体的な知識を提供。また、そのプロセスにあるさまざまな課題や現代的な意義も検証する。

978-4-8459-1051-9
2010年/四六判変型・並製/224頁/2100円

音盤時代 vol.2



浜田淳＝編 ＊

「音盤時代」は、音楽について考え／書かれた文章を、生産／発掘していく雑誌。「音」について「ことば」で考えるという試みを実践し、「音楽」と「世界」との関わり方のさまざまな形を模索していく。そして、まだ見ぬ「読む音楽」という“桃源郷”を目指す。

978-4-8459-1291-9
2012年/B6判・並製/256頁/1600円

ミュージック

「現代音楽」をつくった作曲家たち

ハンス・ウルリッヒ・オブリスト＝著
篠儀直子／内山史子／西原尚＝訳

1950年代以来、西洋で生み出されてきた音楽とその形式が、視覚芸術・文芸・建築・映画における前衛と取り結ぶ関係についての研究書。50〜90年代の特に重要な音楽家17人による知性と魂の証言は、人々を新たな結合と新領域の確立へと導くガイドである。

978-4-8459-1438-8
2015年/四六判・並製/416頁/2600円

レコードは風景をだいなしにする

ジョン・ケージと録音物たち

デイヴィッド・グラブス＝著
若尾裕／柳沢英輔＝訳

現代における録音物の氾濫とオンライン・アーカイヴによって変容したリスナーの「聴取」と「体験」を思考する。録音物を否定したジョン・ケージや再現不可能なフリーインプロの音楽に、「録音の不可能性」というアプローチから迫る、21世紀の前衛音楽・聴取論。

978-4-8459-1441-8
2015年/四六判・上製/368頁/2800円

音楽と美術のあいだ

大友良英＝著

音楽家・大友良英の「演奏」と「展示」のすべて。音楽と美術のあいだをめぐる、大友良英の思索と、毛利悠子、刀根康尚、梅田哲也、堀尾寛太、Sachiko M、鈴木昭男の6人のアーティストとの対話。「札幌国際芸術祭2017」の推奨副読本。

978-4-8459-1568-2
2017年/A5判・並製/440頁/3000円

デザイン

見立て狂い

草森紳一＝著

＊

デザインを一つの標識灯としながら、幅広い対象に視線を向け、そこから「野趣」と「粋」に生きる日本人独自の感性を鮮やかに浮かび上がらせる。江戸・明治・昭和にかかわる豊富な図版を駆使した、名著『江戸のデザイン』につづく著者快心の一書。

978-4-8459-8245-5
1982年/A5判・上製/400頁/3800円

装幀＝菊地信義

菊地信義／フィルムアート社編集部＝編著

＊

「レイアウトとは、水槽だ」と語る注目の装幀家・菊地信義の本。古井由吉・坂本龍一・谷川俊太郎・横尾忠則・澁澤龍彦ら24人の論考をタテ組みに、この本が生成するプロセスを同時ドキュメントしたインタビューをヨコ組みにおさめた異色のテキスト・ブック。

978-4-8459-8664-4
1986年/A5判・並製/224頁/1800円

近代日本のデザイン文化史

1868–1926

樋野八束＝著

＊

〈近代〉を外国から買い、欧米のモノに触れながら“学習”した明治の日本。本書は明治・大正の時代の細部を照射して、美術・建築・生活史のさまざまな断面を引用しながら、日本人の伝統的感性が変容するなかに近代デザインが成立た過程を鮮やかに描き出す。

978-4-8459-9205-8
1992年/A5判・上製/472頁/4500円

怪獣玩具の冒険

神谷僚一＝著　小林健二＝撮影

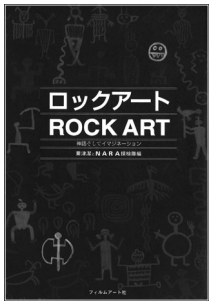
＊

ウルトラマン、ブースカにはじまる1966年のおもちゃウォーズ。それは、怪獣玩具の世界に技術革命を起こした新興メーカーの冒険だった。甘く過激な怪獣ノスタルジーの粋を写真とともに鋭い鑑識眼で読み解く。

978-4-8459-9767-1
1997年/A5判変形・上製/144頁/2300円

ロックアート

神話そしてイマジネーション



粟津潔とN·A·R·A探検隊＝編

＊

荒野にたたずむ原始の絵画（岩絵）に古代人からのメッセージを読む。日本人と共通の祖先（モンゴロイド）を持つアメリカ先住民が洞窟や岩肌に刻描した図像を追って、その神話的世界を遡行する。

978-4-8459-0233-0
2002年/A5判・並製/192頁/2200円

粟津潔　デザインする言葉

粟津潔＝著　粟津デザイン室＝編

＊

アトリエから都市へ。デザイナー・粟津潔が、1960年代から今日に至るまで、さまざまな書籍媒体で考察してきたデザインについての重要発言を抜粋し、粟津の原画やスケッチ、美術セット写真を付した最初で最後のメッセージ集。

978-4-8459-0580-5
2005年/四六判・上製/224頁/1900円

共生のデザイン

禅の発想が表現をひらく

枡野俊明＝著

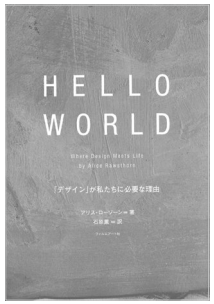
＊

禅寺の住職であり、世界で活躍する庭園デザイナーでもある著者が、現代に求められる日本ならではの禅の思想と「デザイン」の関係性、その発想法を明かす。表現が自我を越え、突き抜けるために必要なことは何か。表現者、ビジネスマンにとって精神の強度を増す必読書。

978-4-8459-1178-3
2011年/A5判変型・並製/216頁/1800円

HELLO WORLD

「デザイン」が私たちに必要な理由



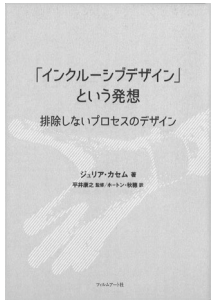
アリス・ローソーン＝著
石原薫＝訳

誰もが影響を受けながら誤解され続けるデザインとは何なのか。日々動的文脈のなかで更新されているデザインを、品性と先見性をもってより自由に、強力に活用するために、その意味を深く理解することができる決定的書籍。

978-4-8459-1309-1
2013年/四六判・並製/464頁/2600円

「インクルーシブデザイン」という発想

排除しないプロセスのデザイン



ジュリア・カセム＝著
平井康之＝監修　ホートン・秋穂＝訳

デザインが無意識のうちにはらむ「排除」の思想を明らかにし、商品のプロセスから関わることで人と社会を「インクルーシブ（包み込む）」する、21世紀の新しいデザイン理論。社会の片隅から生まれたデザインによって新たなイノベーションを起こす挑戦。

978-4-8459-1302-2
2014年/四六判・並製/280頁/2200円

にほんのきれいのあたりまえ

新しいくらし方をデザインする

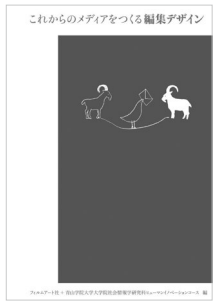
きれいのデザイン研究室＝編著

＊

古から受け継がれる日本の「きれい」の精神性を、単なるデザイン論、文化論にとどまらない日本独自の価値観と捉え、現代においてより良い暮らし方を志向する第一人者たちから生活の基準を聞きながら、未来につながる「デザイン」のヒントを見出す。

978-4-8459-1447-0
2014年/四六判・並製/264頁/1300円

これからのメディアをつくる編集デザイン



フィルムアート社／青山学院大学大学院社会情報学研究科ヒューマンイノベーションコース＝編　＊

「編集デザイン」とは、「コラボレーション（協働）」「異なるものを結びつける（編集）」「価値のデザイン（フィロデザイン）」の3つの能力を組み合わせた表現方法。マスメディアでもSNSでもない、ボトムアップ型メディアのつくり方を探る。

978-4-8459-1448-7
2014年/四六判変型・並製/232頁/1800円

フィログラフィックス

哲学をデザインする

ジェニス・カレーラス＝著
関未玲＝訳

抽象的かつ複雑で難解な95の哲学をシンプルな形と色でデザインしたビジュアル版辞書＝フィログラフィックス。視覚的なメタファーや既存のシンボルを用い、その普遍性を表現し、直感的に理解、解釈させることに挑戦しながら、読者を哲学のさらなる深淵へと誘う。

978-4-8459-1556-9
2015年/四六判変型・並製/204頁/1500円

ポートフォリオをつくろう！

新しい自己PRのための「編集デザイン」

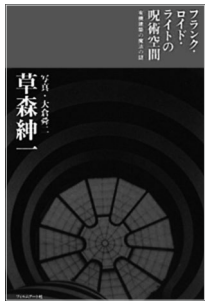
フィルムアート社／青山学院大学大学院社会情報学研究科ヒューマンイノベーションコース＝編

履歴書だけでは見えてこない「自己アピール」のための新しいコミュニケーション・ツール、それが「ポートフォリオ」である。ポートフォリオ作成にあたり、徹底した「自己の客体化」を根幹に据え、自分自身を編集デザインするあり方を説く。

978-4-8459-1576-7
2015年/四六判・並製/160頁/1200円

建 築

フランク・ロイド・ライトの呪術空間
有機建築の魔法の謎



草森紳一＝著
大倉舜二＝写真

稀代の物書き・草森紳一がフランク・ロイド・ライトの「有機建築」の概念から、自然・魔法・神秘思想と近代建築のミッシング・リンクを探る旅。ライトの建築を巡る「内的な旅」の軌跡を綴る。著者一流の謎解きの「見立て」が冴えわたる摩訶不思議な建築論。

978-4-8459-0932-2
2009年/A5判変型・仮フランス装/288頁/2600円

WindowScape
窓のふるまい学

東京工業大学塚本由晴研究室＝編
塚本由晴／能作文徳／金野千恵＝著 ＊

光、風、熱などの自然を引き寄せ、人々を呼び寄せ、憩いと潤いとともに文化、都市そして社会を生成させる世界各地の窓の「ふるまい」を28ヵ国におよび調査。大量生産のもとにその豊かさが失われてしまった窓から、新しい建築空間の創作の可能性を描出する！

978-4-8459-1058-8
〈窓学〉 2010年/A5判・並製/352頁/3500円

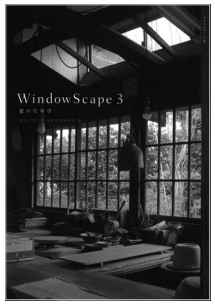
WindowScape2
窓と街並の系譜学

東京工業大学塚本由晴研究室＝編
塚本由晴／能作文徳＝著

気候風土や文化慣習と結びつき、自然に対する試行錯誤を繰り返しながらバランスや整合性をとって洗練されてきた窓が、反復することでつくりだされる卓越した街並の事例集。時代とともに変容し、受け継がれる窓の知性と社会的役割の変遷を読みとく。

978-4-8459-1322-0
〈窓学〉 2014年/A5判変型・並製/288頁/3200円

WindowScape3
窓の仕事学



東京工業大学塚本由晴研究室＝編
塚本由晴／能作文徳＝著

働くのは人だけではない。自然とともに窓も働く。ものを照らす光、干す風、加工する熱、燻す煙、蒸す湯気——窓がつなぐ、自然要素と人のふるまい、物質のふるまい。日本の手仕事の現場における、もの、人、自然、街を相互に連関させる窓のあり方を捉える。

978-4-8459-1611-5
〈窓学〉 2017年/A5判・並製/288頁/2600円

窓と建築の格言学

五十嵐太郎／東北大学五十嵐太郎研究室＝編著

「文化としての窓」「内外の調整としての窓」「機能としての窓」の3章に分け、窓と建築に関する格言を多くの名著から収集。見開き構成で、格言、収録された書籍情報や社会背景について解題を付し、建築家たちのユニークな思想を楽しむことができる。

978-4-8459-1321-3
〈窓学〉 2014年/四六判・並製/256頁/1600円

やわらかい建築の発想

未来の建築家になるための39の答え

フィルムアート社編集部＝編

若手建築家たちに、シンプルな質問をランダムに投げかける。建築以外についても、どのような関心や問題意識を持ち、未来にどんな文脈を作りだしていくのか。いえつく、猪熊純、大西麻貴、木内俊克、田根剛らがさまざまな「やわらかさ」の可能性を提案する。

978-4-8459-1202-5
2013年/四六判・並製/272頁/1700円

テレビ

悪のりドンファン

テレビ・コマーシャルの二〇年史

草森紳一＝著

＊

広告はたえず時代を先取りし、ファッションと流行語をつくりあげる。人間の欲望の集塵所として時代の風俗絵巻を描きつづけてきたテレビ・コマーシャルの20年を、特異な視点から快刀乱麻に解き明かした痛快エッセー集。テレビCM年表を付す。

978-4-8459-7613-3
1976年/四六判・並製/400頁/1900円

今野勉のテレビズム宣言

今野勉＝著

＊

「テレビはぼくらに与えられた“字”であり、“剣”であり“玩具”である」——。日常性渦巻くテレビと生理的にかかわり、すぐれた仕事を発表してきた著者が、醒めた自由な眼で、テレビ・ビデオの未知の沃野を語った体当たりメディア論。

978-4-8459-7617-1
1976年/四六判・並製/288頁/1200円

ザッツTVグラフィティ

外国テレビ映画35年のすべて

乾直明＝著

＊

1953年、日本でテレビ放送が開始されると、視聴者は実に多彩な外国テレビ映画を楽しみ、これらは後の日本製番組のお手本となった。本書では、1988年までの35年間にオンエアされた外国テレビ番組の変遷を紹介し、年度別・ジャンル別全作品リスト収録した。

978-4-8459-8874-7
1988年/A5判・並製/304頁/2000円

蔵出し絶品TV時代劇

近藤ゆたか＝編

＊

1967年から88年、勧善懲悪型の人気番組の陰で、B級というより絶品といったほうがよいハードコア時代劇が作られていた。アナーキー、バイオレンス、涙、狂気のまぼろしの時代劇、60本がついに集結。

978-4-8459-9768-8
1997年/A5判・並製/224頁/1900円

人気テレビ番組の文法

見る人・出る人・作る人のために

純丘曜彰＝著

＊

ワイドショー、バラエティ、トレンディドラマなど、ヒットさせる秘密のコツを集大成。アイデアの生み出し方から、現場での実践技術まで、業界を知り尽くした著者が番組制作のすべてを体系的、かつ実践的に紹介。

978-4-8459-0697-0
2006年/A5判・並製/218頁/2000円

サタデー・ナイト・ライブとアメリカン・コメディ

ジョン・ベルーシからジャック・ブラックまで

みのわあつお＝著

＊

アメリカの生放送バラエティ番組「サタデー・ナイト・ライブ」の魅力の全貌が一冊に。また、この番組の成功によって、アメリカン・コメディ・シーンが変化・進歩していった様相を、ポップカルチャー評論家が徹底解明する。

978-4-8459-0702-1
2007年/A5判・並製/304頁/2000円

結局、どうして面白いのか

「水曜どうでしょう」のしくみ

佐々木玲仁＝著

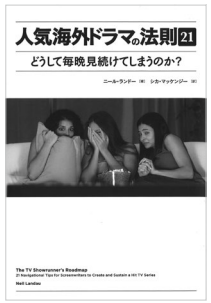
電子版あり

北海道から全国区へ瞬く間に成長した超人気番組「水曜どうでしょう」。説明困難なその面白さの秘密に、藤村忠寿・嬉野雅道の両ディレクターとの対話を通して、臨床心理学の方法論から紐解いていく、唯一無二の「水曜どうでしょう」の構造分析本。

978-4-8459-1298-8
2012年/四六判・並製/240頁/1800円

人気海外ドラマの法則21

どうして毎晩見続けてしまうのか？



ニール・ランドー＝著
シカ・マッケンジー＝訳

電子版あり

全米をはじめ世界中を熱狂させる人気海外ドラマがどのようにして作られるか、選りすぐりのショーランナー（映画でいう監督、製作総指揮者）にヒットし続けるための法則を聞き出し、その仕組みの裏側に迫る。テレビ業界、映像制作者のみならず、海外ドラマ中毒者必読の一冊。

978-4-8459-1577-4
2015年/四六判・並製/400頁/2000円

アニメ

まぼろしのルパン帝国

ルパン三世ザ・ファーストTVシリーズ

高橋実＝著

＊

テレビ・アニメの神話的シリーズとして、今なお高い評価を得ている旧「ルパン三世」。その23話の全体像を、原作、コンテ、シナリオなど一次資料を駆使して、ルパン世代の若手批評家がスリリングなタッチで描く待望の一書。

978-4-8459-9435-9
1995年/A5判・並製/304頁/2200円

どろろ草紙縁起絵巻

武村知子＝著

＊

戦国時代初期、身体48箇所をなくして生まれた百鬼丸は、失われたパーツを取り戻すべく孤児どろろと共に妖怪退治の旅を続ける……。69年放映の幻の手塚治虫アニメ「どろろ」を愛する著者がその封印を解く、丹念な「どろろ」研究書。

978-4-8459-9657-5
1996年/A5判変型・並製/272頁/2200円

ディズニーとライバルたち

アメリカのカートゥン・メディア史

有馬哲夫＝著

＊

今や世界で最も愛されるキャラクター、「ミッキーマウス」を生んだウォルト・ディズニーを筆頭に、数多くの作家たちがアイデアと技術で互いにしのぎを削り合いながらアニメーションという新しい表現メディアの可能性を広げていった、その興亡と変遷の物語。

978-4-8459-0461-7
2004年/A5判・並製/400頁/3200円

宮崎駿全書

叶精二＝著

＊

世界の創造に向かう宮崎ファンタジーの壮大な闘いとは。全作品の企画発想から制作・公開までを徹底検証。長年にわたって宮崎監督をはじめ制作スタッフ関係者に丹念に取材してきた資料の集大成。

978-4-8459-0687-1
2006年/菊判・並製/344頁/2400円

アニメーターが教える線画デザインの教科書

リクノ＝著

絵は「理論」を理解すれば上手く描ける。受け手が主体的に判断していた「絵の上手さ」を構造的に分析し、「立体」を理解しつつ、「線」をどのように使い、デザインし、利用していくか、作画のための基本技術を理論体系化した、アニメーター志望者必読の教科書。

978-4-8459-1557-6
2015年/B5判・並製/384頁/2600円

アニメーターが教える線画デザインの教科書 2

キャラクター創造編

リクノ＝著

『アニメーターが教える線画デザインの教科書』の著者による、オリジナルキャラクターをデザインするための理論とテクニック。自分だけの独りよがりな感動を、他人にも伝わる感動にするための知識と経験則は、多くのクリエイターにとって手助けとなるヒントが満載。

978-4-8459-1581-1
2016年／B5判・並製／208頁／1900円

個人的なハーモニー　ノルシュテインと現代アニメーション論

土居伸彰＝著

ユーリー・ノルシュテインの代表的作品『話の話』を糸口に、個人作家たちの創造性の系譜と達成を読み解き、初期アニメーションからディズニー、世界の長編アニメーション、宮崎駿・高畑勲など現代日本のアニメまでを見通していく、「アニメーション正史」への挑戦の書。

978-4-8459-1628-3
2016年／四六判・上製／400頁／2800円

21世紀のアニメーションがわかる本

土居伸彰＝著

電子版あり

2016年から17年の日本の長編アニメを、世界のアニメーションの文脈から読み解くことでアニメーションの分岐点が見えてくる。現在進行形の世界のアニメーションを知り尽くす気鋭の論客による、まったく新しいアニメーション入門。

978-4-8459-1644-3
2017年／四六判・並製／232頁／1800円

演劇／舞踏

密室から市街へ

寺山修司対談集

寺山修司＝著

＊

“対談の名手”寺山が最適の対談者を得て、演劇／舞踏・美術・音楽・映画を語る――奔放な想像力と絶妙のウィットでくりひろげた対談集。鈴木忠志／別役実／唐十郎／ニコラ・バタイユ／フェルナンド・アラバール／高松次郎／横尾忠則／武満徹／粟津潔らが登場。

978-4-8459-7619-5
1976年／四六判・並製／272頁／1200円

田園に死す・草迷宮

▶増補改訂版

寺山修司＝著

＊

惜しまれつつ急逝した寺山修司の表題映画作品二編のシナリオに加えて、ユニークな演出ノート、映画論、詳細なフィルモグラフィーなどを収録。素晴らしいイメージの奔流によって観る者を圧倒した『田園に死す』、個人映画のなかの宝石といえる『草迷宮』が甦る。

978-4-8459-8349-0
1983年／四六判・並製／224頁／1800円

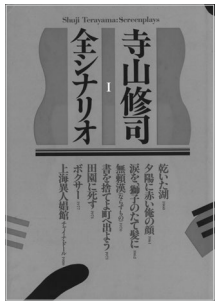
寺山修司イメージ図鑑

寺山修司＝著

観る者を挑発し続ける詩人・寺山修司の魅力溢れる映像＝イメージの軌跡を、自筆のイメージコンテ、映画ノート、映画論、シナリオ等を中心に立体構成。その発想の原点とプロセスを如実に辿る好著。全実験映画にもとづく写真240点を収録。

978-4-8459-8661-3
1986年/A5判・並製/288頁/2200円

寺山修司全シナリオ 1



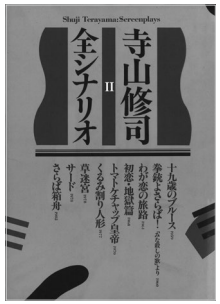
寺山修司＝著

＊

西欧のアヴァンギャルドの表現を巧みに駆使しながら、日本的〈母層〉の原イメージを鋭利に掘り起こした寺山修司。彼の多彩な感性に彩られた映像＝シナリオ全17本を没後10年を期して2巻で集成。1では『田園に死す』『ボクサー』など8作品を収録。

978-4-8459-9309-3
1993年/A5判・上製/382頁/3495円

寺山修司全シナリオ 2



寺山修司＝著

＊

西欧のアヴァンギャルドの表現を巧みに駆使しながら、日本的〈母層〉の原イメージを鋭利に掘り起こした寺山修司。彼の多彩な感性に彩られた映像＝シナリオ全17本を没後10年を期して2巻で集成。2では処女作『十九歳のブルース』、遺作『さらば箱舟』など9作品を収録。

978-4-8459-9312-3
1993年/A5判・上製/376頁/3495円

大野一雄　稽古の言葉

大野一雄＝著　大野一雄舞踏研究所＝編

「母親の胎内で、あなたは足指を動かしたでしょう」。1966年から96年にかけて横浜の保土ヶ谷の稽古場で語られた未公開テープの肉声を、154編のアフォリスムにまとめた〈舞踏〉の聖典。

978-4-8459-9766-4
1997年/A5判・並製/224頁/2100円

自由へのスパイラル・ダンス

ホン・シンジャ（洪信子）＝著
ユ・ジンジャ（兪澄子）＝訳　＊

アメリカ、インドで舞踊や瞑想を学び、シャーマニックな宇宙的動きで世界的評価を受ける前衛舞踊の第一人者・洪信子。本書は、彼女の破天荒な人生と繊細にして大胆な感受性を告白した舞踊と人生の書である。

978-4-8459-9884-5
1998年/A5判・並製/256頁/2500円

大野一雄　百年の舞踏

大野一雄舞踏研究所＝編

1908年から2006年までに撮影された165点の写真と、80年代以降の公演批評、詩文、50年代の書信、年譜で構成し、人間・大野一雄の個人史を見つめる。時代の極北を生きた舞踏家、奇跡のアルバム。

978-4-8459-0703-8
2007年/A5判・並製/240頁/2100円

生きるための試行

エイブル・アートの実験

エイブル・アート・ジャパン／フィルムアート社編集部＝編

＊

エイブル・アートの活動の中から、2004年から08年の5年間にわたって試行／実験された舞台芸術「エイブルアート・オンステージ」を再検証。境界のないインクルーシブな未来世界を描く。

978-4-8459-1044-1
2010年／B5判変型・並製／160頁／1800円

「飛び石プロジェクト」戯曲集　血の婚礼/Stepping Stones

エイブルアート・オンステージ国際交流プログラム

「飛び石プロジェクト」戯曲集制作委員会＝編
吉野さつき＝監修

障害のある人たちとアーティストのコラボレーションが、舞台芸術と社会の新しいカタチを切り開く……。エイブルアート・オンステージの国際交流プログラムから生まれた「飛び石プロジェクト」の公演2本をまとめた本。

978-4-8459-1045-8
2010年／四六判・並製／144頁／1500円

オペラティック！

女子的オペラ鑑賞のススメ

小田島久恵＝著

純愛、色事、愛憎、エロス、嫉妬、裏切り……。かくも素晴らしく、奇妙で、エグい。さまざまなオペラを取り上げて、その魅力を紹介した、愛と欲望の“色恋オペラ”入門。オペラの作曲家、オペラのキーパーソンなども掲載。

978-4-8459-1179-0
2012年／四六判・並製／264頁／1800円

日本演劇現在形

時代を映す作家が語る、演劇的想像力のいま

岩城京子＝編著

演劇／舞踏批評家・岩城京子が聞き手となり、演劇／舞踏論のみならず、社会、文化、政治などの多角的な観点から、チェルフィッチュ以降の80年代生まれの作家たちの想像力を説きあかす。現代日本を代表する作家8人が、演劇／舞踏の現在と表現の可能性について語り尽くす。

978-4-8459-1703-7
2018年／四六判・並製／304頁／2200円

ファッション

流行の神話

ファッション・映画・デザイン

海野弘＝著

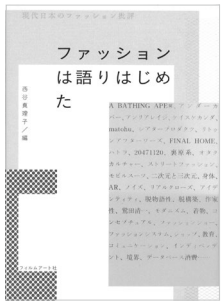
＊

世紀末から1920～30年代を中心に、モード・デザイン、黄金時代のハリウッド映画、アール・ヌーヴォー、アール・デコなどの流行の変遷を当時の時代相とともに描きだす風俗の社会史。流行という華美ではない現象をとおして、動乱と狂気の時代を鋭く透視する。

978-4-8459-7618-8
1976年/四六判・並製/232頁/1200円

ファッションは語りはじめた

現代日本のファッション批評



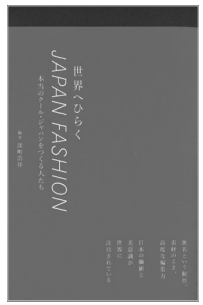
西谷真理子＝編

現在進行形の日本のファッションをめぐる言葉を結集し、変わりはじめているファッションの輪郭を引き直す。蘆田裕史×千葉雅也対談、NIGO、UNDERCOVER、ANREALAGE、matohuのブランド論などを所収。ファッション理論のカッティング・エッジがここにある。

978-4-8459-1169-1
2011年/A5判・並製/280頁/2200円

世界へひらく　JAPAN FASHION

本当のクール・ジャパンをつくる人たち



深町浩祥＝編

日本の価値と美意識が世界に注目されている。クラスターファッション、自己編集力、ライフスタイルの共有、無名性という日本のファッションの独自性を解明し、今後を予測する上で5つのスペシャリティーを紹介する。

978-4-8459-1173-8
2011年/四六判・並製/248頁/2200円

テキスタイルとは何か

隠されたメッセージへの旅

宮本享子＝著

ファッションの原点はテキスタイルであり、そのテキスタイルの原点の多くは中央アジアにある。この原点を遡る旅をライフワークとする著者が、ファッションテキスタイルの仕事をしてきた経験をもとにまとめた一冊。

978-4-8459-1168-4
2011年/四六判・並製/228頁/2200円

相対性コム デ ギャルソン論

なぜ私たちはコム デ ギャルソンを語るのか

西谷真理子＝編

＊

クリエイション全般にインパクトを与え続ける稀有なブランド、コム デ ギャルソンが持つ、語りたくなる「何か」とは？　ファッションはもっと言語化されなくてはならないという信念のもと、建築、哲学、都市論、社会学など、さまざまな視点からファッションの「向こう側」を照らし出す。

978-4-8459-1299-5
2012年/四六判・並製/400頁/2600円

ファッションは更新できるのか?会議

人と服と社会のプロセス・イノベーションを夢想する

水野大二郎／ファッションは更新できるのか？会議実行委員会＝編著

（インターネット＋テクノロジー＋SF＋アート＋ものづくり＋コミュニティ＋FAB＋デザイン＋情報社会＋法律＋アーカイブズ＋複雑系＋哲学）×ファッション――現在と未来を照射しながら、ファッションをアップデートする、実験と実装の格闘の軌跡。

978-4-8459-1559-0
2015年/四六判・並製/456頁/2600円

写 真

写真と芸術

接触・影響・成果

オットー・シュテルツァー＝著
福井信雄／池田香代子＝訳 ＊

写真は美術に、また美術は写真に何をもたらしたか？写真の起源と発達を美術史と関連させて展望する。遠近法や動体描写など両者の間に見られた影響とは？マニエリスムからシュールレアリスム、未来派、ポップ・アートに至るまでを豊富な図版を駆使して説き明かす。

978-4-8459-7407-8
1974年/A5判・上製/256頁/2500円

韓くにの風と人

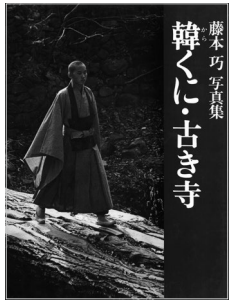
藤本巧＝著

＊

釜山の町の雑踏にまぎれこみ、韓国の人のたたずまいを直截にとらえた写真集。著者の目は、みずみずしいモノクロームの粒子となって定着されている。ここには、日本の遠い祖先にめぐりあったかのような心のときめきと血のさわぎを覚えずにはいられない何かがある。

978-4-8459-7927-1
1979年/B4判変型・上製/88頁/2500円

韓くに・古き寺



藤本巧＝著

＊

著者の眼と心を捉えた、李朝初期以来の斥仏運動により崇高美を失い、衰退したと言われている仏教建築。宿がないときは寺の僧房に泊めてもらい、入禅、清掃、朝供と修行僧の暮らしを撮影するなかで、民衆の荒々しさのなかにある優しさ、美しさを浮き彫りにする。

978-4-8459-8244-8
1982年/B4判変型・上製/80頁/2800円

韓くに幾山河

藤本巧＝著

＊

しゃがみ、佇み、腰に手を当て、笑う老人たち。草花を持ち、妹を背負い、こちらを見つめ、やはり笑う子供たち。空・木・藁屋根・土壁、そして石積みが美しく構成され、自然に一体化して佇んでいる韓国の原風景を切り取った、“生きた美しさ”が押し寄せてくる写真集。

ISBNコードなし
1984年/B4判変型・上製/88頁/2800円

風韻

日本人として

鶴見俊輔＝文　藤本巧＝写真

＊

飯沼二郎、貝塚茂樹、柳悦孝、羽田澄子ら文化人の肖像と風景の写真に、鶴見俊輔が思い出を綴った、ひとつの時代の記憶。折々の時代を生きた人びとの顔に共通して柔和な日本人の年輪が漂う、風格ある写真集。

978-4-8459-0576-8
2005年/A5判・仮フランス装/224頁/2800円

韓くに、風と人の記録

藤本巧＝編著・写真

＊

韓国には、日本の祖先に繋がる原風景、親しみと共感がある。1969年から37年間、韓国の人と風土を取材した写真の集大成に、鶴見俊輔、司馬遼太郎、中上健次、岡本太郎など著名人の「時代の証言」を重ねる。

978-4-8459-0691-8
2006年/A5判・並製/272頁/2500円

写真屋・寺山修司

摩訶不思議なファインダー

田中未知＝編

＊

寺山は人間の、わざとらしさ、虚構、仮面、修辞、空々しさといった“虚”に惹かれて写真を撮り続けた。限りなく「私」から遠ざかっていく人々……。寺山修司没後25周年、フィルムアート社創立40周年記念出版。

978-4-8459-0823-3
2008年/菊判・並製函入/196頁/3200円

写真のキーコンセプト

現代写真の読み方

デイヴィッド・ベイト＝著
犬伏雅一＝訳

歴史を整理し、理論を読み解き、ジャンルの観点から考えることで、「写真」という「行為」をめぐる重要な視点を掴む。いま写真を学びたい人、必携の一冊。各章ごとに、コンパクトに要点をあげた「章のまとめ」付き。

978-4-8459-1057-1
2010年/A5判・並製/328頁/2400円

極意で学ぶ写真ごころ

伊藤みろ＝著

「アサヒカメラ」誌で大反響を呼んだ連載がついに書籍化。「記録」「創造的視点」「詩情」の3つすべてを兼ね備えた作品づくりを実践的に説きながら、“表現とは何か”という「心構え」、多くの人が正確には理解できていない世界水準のテクニックも多数収録。

978-4-8459-1180-6
2011年/B5判・並製/152頁/2400円

まなざしのエクササイズ

ポートレイト写真を撮るための批評と実践

ロズウェル・アンジェ＝著
大坂直史＝訳

ポートレイトの特徴である「対象を見る」という行為にスポットを当て、写真家が被写体へ向けた視線を分析。また、多くの思想家や哲学者の言葉を交えた解説を展開する。120点におよぶ歴史的ポートレイトを掲載。

978-4-8459-1206-3
2013年/A5判・並製/432頁/3200円

キーワードで読む現代日本写真

飯沢耕太郎＝著

現代日本写真の転換期である2009～17年のトピックから厳選し、105の用語、72組の写真家、170の展覧会・写真集を網羅。基本的な用語を押さえながら、不確かな時代に変わりゆく写真の現在形をとらえ直した、格好の「写真入門」。

978-4-8459-1701-3
2017年/四六判変型・上製/452頁/3800円

シリーズ

ピナ・バウシュ

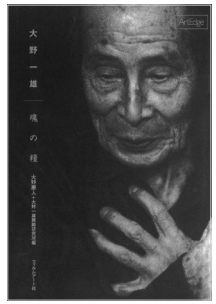
怖がらずに踊ってごらん

ヨッヘン・シュミット＝著
谷川道子＝訳 ＊

独創的な〈タンツテアター〉の手法を切り開いた国際的舞踏家ピナ・バウシュは、ダンサーたちに質問しながら、彼らの記憶と動きを編集して新しいダンスを構築する。彼女の人生の軌跡と作品の秘話を明かした本邦初の最新評伝。

978-4-8459-9994-1
〈ArtEdge〉 1999年/A5判・並製/248頁/2000円

大野一雄　魂の糧



大野慶人／大野一雄舞踏研究所＝編著

＊

舞踏家・大野一雄の身体運動について、自身が持っていた約4000枚の写真からデータベースを作り、顔、口・声、落ちる、立つ等の項目を立てて写真を分類。そのグループごとの写真を見ながら、息子である大野慶人に話を聞く。

978-4-8459-9997-2
〈ArtEdge〉 1999年/A5判・並製/256頁/2200円

響きの生態系
ディープ・リスニングのために

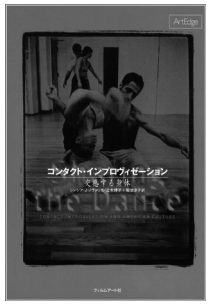
藤枝守＝著

＊

「聴くこと」の意識のなかでジョン・ケージをあらたに捉えてみると、それまでのラディカルな姿が消えて、ネイチャーに目覚めた「もうひとりのケージ」が見える。自らの耳を信じ、自らの身体と自らが根ざす場所にこだわった13人のアメリカの実験作曲家たちの実践。

978-4-8459-0004-6
〈ArtEdge〉 2000年/A5判・並製/256頁/2600円

コンタクト・インプロヴィゼーション
交感する身体



シンシア・J・ノヴァック＝著
立木燁子／菊池淳子＝訳

＊

コンテンポラリーダンスからジェンダー間の差別のない動き、障害者同士の動きに至るまで、ダンス人間学へ向かう新ダンスの手法。ふれあいと即興。コンテンポラリーダンスに衝撃をあたえた文化変革への身体技法。

978-4-8459-0006-0
〈ArtEdge〉 2000年/A5判・並製/312頁/2800円

パスト・フューチュラマ
20世紀モダーン・エイジの欲望とかたち

長澤均＝著

＊

デザイン、建築、モード、PC、映画、ハイヒール……。幻の雑誌「パピエ・コレ」の編集長が書き下ろすペダントリーに満ちた20世紀のポップ的美学。スピーディでスマートな近代の幻影。

978-4-8459-0009-1
〈ArtEdge〉 2000年/A5判・並製/256頁/2400円

キッズ・サバイバル
生き残る子供たちの〈アートプロジェクト〉

ニコラス・ペーリー＝編著
菊池淳子／三宅俊久＝訳

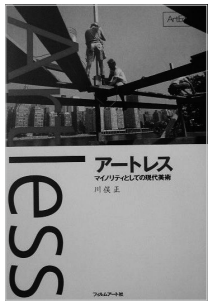
＊

現代教育とアートの関係について研究している著者が、アメリカ東海岸で起き、全米で大きな話題となったティーンエージャーたちの3つの芸術的・教育的なプロジェクトを紹介。21世紀の子供たちの「アート革命」。

978-4-8459-0116-6
〈ArtEdge〉 2001年/A5判・並製/248頁/2400円

アートレス
マイノリティとしての現代美術

▶増補改訂版



川俣正＝著

＊

著者がたずさわったアート・プロジェクトの現場からの素朴な疑問と、まわりからのリアルな反応を通して、現在のアート、特にパブリックな場での作品の成立と地域社会におけるアート・イヴェントの実状などを紹介。

978-4-8459-0118-0
〈ArtEdge〉 2001年/A5判・並製/256頁/2400円

アメリカ実験音楽は民族音楽だった
9人の魂の冒険者たち

柿沼敏江＝著

＊

ホーボー、女性作曲家……。誰も知らなかったソングキャッチャーの旅。アメリカに住み、または出入りした作曲家たちが、西洋芸術音楽とは異なる独自の表現を獲得しようとした、個々の探求スタイルをあぶり出す。

978-4-8459-0571-3
〈ArtEdge〉 2005年/四六判・並製/272頁/2200円

フルクサスとは何か
日常とアートを結びつけた人々

塩見允枝子＝著

＊

60年代、ハイアートに対抗し、アートと日常の壁を打ち破り、「流れる」ことを目指す感性革命が世界を駆け抜けた。あらゆる境界を越えて世界同時多発的に発生、感性革命を促した伝説的ムーヴメントを生きた作家が過去を振り返り、自身のフルクサス体験を伝える。

978-4-8459-0581-2
〈ArtEdge〉　2005年/四六判・並製/256頁/2300円

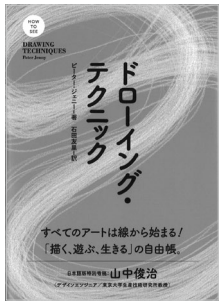
アーティストの目

ピーター・ジェニー＝著
石田友里＝訳

「どんな人でもアーティストの視点を持つことができる」をテーマに、自分の身の回りからアイデアを得る方法、新鮮な目で世界を再発見する方法を指南。図工の授業に再入門するような気持ちですべてのレッスンを終える頃には、イメージを生み出す力がおのずと身についてくる。

978-4-8459-1571-2
〈HOW TO SEE〉　2015年/A6判・並製/216頁/1100円

ドローイング・テクニック

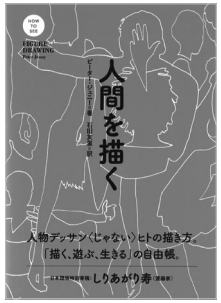


ピーター・ジェニー＝著
石田友里＝訳

すべてのアートは線から始まる。デジタル技術の浸透した現代こそ、鉛筆1本で実践するアナログなドローイング（「線」の描き方）のなかに、新しい発想の種がある。誰にでも経験のある「線をひく」というシンプルなアクションから豊かなドローイングの世界を楽しむ。

978-4-8459-1572-9
〈HOW TO SEE〉　2015年/A6判・並製/168頁/1100円

人間を描く

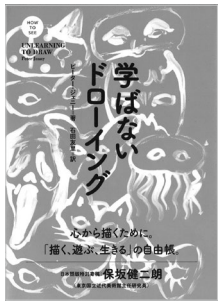


ピーター・ジェニー＝著
石田友里＝訳

「人物を対象にしたドローイング」をテーマに、鉛筆一本で無限に可能性が広がるヒトの描き方について学ぶ。ありふれた人物画デッサンにとどまらず、人間という対象の本質をどうとらえるか？　「ヒトをときほぐす」「ヒトの芯をとらえる」ことを目指す。

978-4-8459-1573-6
〈HOW TO SEE〉　2015年/A6判・並製/188頁/1100円

学ばないドローイング

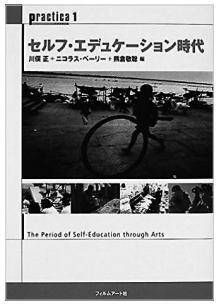


ピーター・ジェニー＝著
石田友里＝訳

子どもやアウトサイダー・アーティストに着目し、経験やすりこみで凝りかたまった価値観から解き放たれて自分らしく生き生きと描く方法を学ぶ。出来上がる作品だけにこだわらず、描く過程を楽しむことから新たなインスピレーションを得ることを提唱する。

978-4-8459-1574-3
〈HOW TO SEE〉　2015年/A6判・並製/212頁/1100円

セルフ・エデュケーション時代



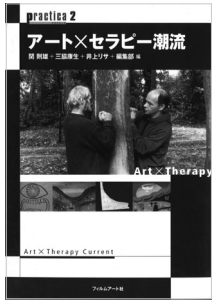
川俣正／ニコラス・ペーリー／熊倉敬聡＝編

＊

「自らが自らの力で学ぶ」とは何か。このシンプルな問いに対して、新たな手法（脱芸術、アートレス）を使って大胆に応答する試み。現代の新しいマイノリティが参加するアートプロジェクト、その理論を紹介。実践を呼びかける。

978-4-8459-0127-2
〈Practica〉　2001年/A5判・並製/224頁/2200円

アート×セラピー潮流



関則雄／三脇康生／井上リサ／フィルムアート社編集部＝編

＊

アートセラピーは、自分自身のより深い部分と対話したり、他者との開かれた関係を築く手段をつくる。作品という無意識の世界と直接に対話できる場を持つアートセラピーと現代アートの関係を問い、その最新情報を収録する。

978-4-8459-0240-8
〈Practica〉 2002年/A5判・並製/208頁/2200円

アート・リテラシー入門

自分の言葉でアートを語る

フィルムアート社編集部／プラクティカ・ネットワーク＝編

＊

美術、写真、映画、建築……拡張し続ける“アート”を、最小の知識と最大の感性を使って自分の力で読み解く新しい時代の鑑賞法とは？　単なる受け手から〈表現するオーディエンス〉となるカギを与える画期的な一冊。

978-4-8459-0467-9
〈Practica〉 2004年/B5判・並製/158頁/1900円

アートという戦場

ソーシャルアート入門

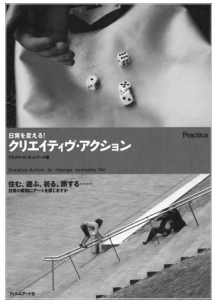
フィルムアート社編集部／プラクティカ・ネットワーク＝編

アーツ＆クラフツ、ダダイズム、バウハウス、フルクサスから現代を生きるアーティストへ……。ライフをアートで表現する、社会に役立つアートの新潮流とは。ソーシャルアートの世界への入門ガイド。

978-4-8459-0578-2
〈Practica〉 2005年/B5判・並製/176頁/2000円

日常を変える！

クリエイティヴ・アクション



プラクティカ・ネットワーク＝編

日常に溢れている人と人、人と環境との葛藤を見つめ、ポジティヴなものに変えていく問題解決型のアクション＝クリエイティヴ・アクション。本書では、日常の何気ない所作に潜むクリエイティヴィティを探っていく。

978-4-8459-0692-5
〈Practica〉 2006年/B5判・並製/160頁/2000円

図 録

大辻清司の写真
出会いとコラボレーション

大日方欣一／光田由里＝編

＊

見る、撮る、書く……。写真の特性と表現をめぐって、常に実験精神の火種を絶やさず、新たな潮流を示し続けた写真家・大辻清司の作品とアンソロジー。大辻の全貌が明らかになる必見の一冊。優れた教育者でもあった大辻の作品と評論／批評を集大成。

978-4-8459-0709-0
〈展覧会図録〉 2007年/B5判・並製/248頁/2400円

粟津潔　荒野のグラフィズム

金沢21世紀美術館＝企画　フィルムアート社編集部＝編

＊

ゼロの荒野から怒濤の60〜70年代を駆け抜けた伝説のデザイナー、ジャンルを軽々と越境していったイメージの狩人・粟津潔。その自在、果敢な時代への挑戦の軌跡を一冊に。粟津潔と浜田剛爾の対談も収録。

978-4-8459-0714-4
〈展覧会図録〉 2007年/B5判・並製/264頁/3000円

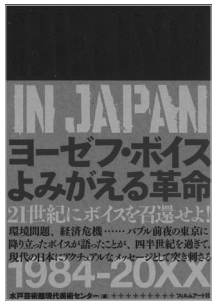
DEEP IMAGES
映像は生きるために必要か

横浜国際映像祭実行委員会＝編

HD、ケータイアプリ、YouTube……。一人一人の発信が、革命的な「映像生態系」を作り出す。「世界の深み」に触れる映像作家たちの見方／作り方を完全収録。「ヨコハマ国際映像祭2009」公式カタログ。

978-4-8459-0938-4
〈展覧会図録〉 2009年/B5判変型・並製/168頁/1800円

ヨーゼフ・ボイス　よみがえる革命



水戸芸術館現代美術センター＝編

＊

バブル前夜の東京に8日間滞在した現代美術家ヨーゼフ・ボイス。来日に関わった関係者の証言、写真、ボイスを読み解く気鋭の論考やキーワード解説、関連年表を収録。環境問題、経済危機など諸問題を抱える現代に必要とされるボイスの真骨頂に迫る。

978-4-8459-0941-4
〈展覧会図録〉 2010年/A5判・並製/216頁/2600円

高嶺格　とおくてよくみえない

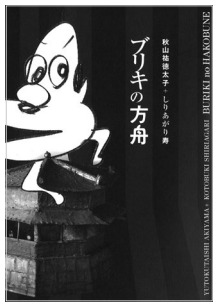
横浜美術館／広島市現代美術館＝企画・監修

＊

現代美術シーンにおいて、特異な輝きを放つ美術家・高嶺格。なぜ美術家の道を選んだのか、制作におけるスタンス、現代社会における違和感などのロングインタビューを収録。

978-4-8459-1162-2
〈展覧会図録〉 2011年/A5判変型・上製/240頁/2400円

秋山祐徳太子＋しりあがり寿　ブリキの方舟

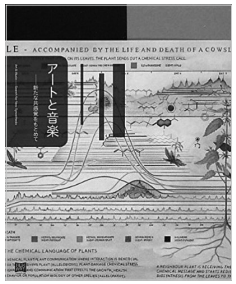


広島市現代美術館／フィルムアート社編集部＝協同企画

秋山祐徳太子の創作の原点となる「ブリキ」と、しりあがり寿が20世紀の終わりに発表した作品『方舟』を大胆に融合。闘争の60年代から3・11以降までの2人の軌跡を集大成的に紹介し、「ブリキの方舟」という切り口から新たな側面を導きだす。

978-4-8459-1181-3
〈展覧会図録〉　2011年/A5判・並製/208頁/2200円

アートと音楽
新たな共感覚をもとめて



東京都現代美術館＝監修

＊

音楽、音に影響をうけて制作された視覚芸術作品やサウンド・インスタレーション、パフォーマンスなどの多様な表現を通して、音楽が感性や想像力に与える本質的な意味を問い直す。東京アートミーティング（第3回）「アートと音楽　新たな共感覚をもとめて」公式書籍。

978-4-8459-1207-0
〈展覧会図録〉　2012年/A5判変型・上製/208頁/3000円

路上と観察をめぐる表現史

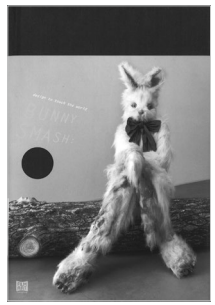
広島市現代美術館＝監修

＊

「路上」の事物を「観察」することで市井の創造力に注目し、その系譜をたどりながら、観察／発見という行為が「表現」に昇華する様子を検証する。出品作家による作品図版・貴重資料、さまざまなフィールドの論考を収録した、路上と観察をめぐるクロニクル。

978-4-8459-1209-4
〈展覧会図録〉　2013年/A5判・並製/240頁/2200円

うさぎスマッシュ
世界に触れるアートとデザイン



東京都現代美術館＝監修

複雑化し多様化した21世紀の社会に、人々の意識に変化を与えるデザインに着目し、アートとデザインがいざなう「世界」への無数の入り口となる表現を提示する。東京アートミーティング（第4回）「うさぎスマッシュ　世界に触れるアートとデザイン」公式書籍。

978-4-8459-1317-6
〈展覧会図録〉　2013年/A5判・上製/208頁/2800円

ヤンキー人類学

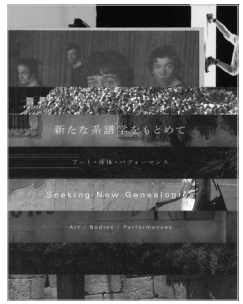
鞆の津ミュージアム＝監修

＊

改造単車、デコトラ、デコチャリ、「成人祭」の貸衣装店……異形の表現の背景を読み解き、ど派手な超絶徒労系の突破者たちの、美術の垣根を凌駕する作品から日本文化を考える。アール・ブリュットに特化した鞆の津ミュージアム「ヤンキー人類学」展の公式書籍。

978-4-8459-1437-1
〈展覧会図録〉　2014年/A5判・並製/224頁/2200円

新たな系譜学をもとめて
アート・身体・パフォーマンス



東京都現代美術館＝監修

身体を横断的に捉え、ダンス、能・狂言や歌舞伎、舞踊、演劇、スポーツなど、身体に残された記憶や痕跡の系譜を紐解く。パフォーマンスの新たな可能性を切りひらく、東京アートミーティング（第5回）「新たな系譜学をもとめて　アート・身体・パフォーマンス」公式書籍。

978-4-8459-1435-7
〈展覧会図録〉　2014年/A5判変形・上製/240頁/3000円

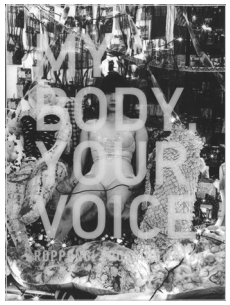
ガブリエル・オロスコ
内なる複数のサイクル

東京都現代美術館＝監修

見慣れた光景に異化作用を与え、物と人に新たな関係を生み出す――1990年代前半から現代美術を代表する作家として活躍するガブリエル・オロスコの代表作から新作までを網羅した、日本初の待望の作品集。

978-4-8459-1443-2
〈展覧会図録〉 2015年/B5判変型・上製/208頁/3600円

六本木クロッシング2016展
僕の身体（からだ）、あなたの声



森美術館＝編

「六本木クロッシング2016展」公式図録。5回目となる本展では、日本、韓国、台湾の4人のキュレーターによって選ばれた、20組のアーティストの表現を通して、日本の現代アートを幅広い視野から検証し、今日の社会とアートについて考察する。

978-4-8459-1606-1
〈展覧会図録〉 2016年/A4判変型・並製/208頁/2600円

人文／社会／科学

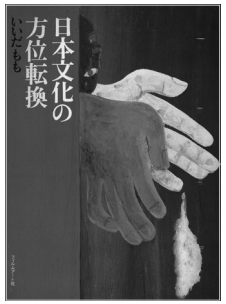
人文
（哲学／歴史／文化論）

社会
（教育／現代社会論）

科学
（自然科学／医学）

人 文
（哲学／歴史／文化論）

日本文化の方位転換



いいだもも＝著

＊

1960年代後半、三島由紀夫、川端康成の自死に〈美しい日本〉の破綻と近代日本文化の危機を見たいいだもも。文明史を遥かに遡源する新しい歴史意識の立場から単一構造化状況に対決して日本文化の方位転換を提言する文化論集。

978-4-8459-7304-0
1973年／A5判・上製函入／248頁／1200円

都市の神話学
一九二〇年代の影

海野弘＝著

＊

メグレ警視を道案内人に都市のアンダーワールドを探索し、ディートリッヒの衣装にファッションの意味を探る。“都市”という新しい環境が文化の転換を促した1920〜30年代を、大衆文芸や映画の細部に分け入り、通俗性のなかに時代の息吹を捉えた異色の文化論。

978-4-8459-7925-7
1979年／四六判・並製／304頁／1500円

視覚文化「超」講義

石岡良治＝著

電子版あり

映画、ゲーム、アニメ、PV、アート、CG、マンガ……。ハイカルチャー／ポップカルチャーの枠組みを超えて、コンテンツ過多な時代のあらゆる視覚文化を多層的に再編する。動画以降の世紀を生きるための、「ポピュラー文化のタイム・トラベル」的現代文化論。

978-4-8459-1430-2
2014年／四六判・並製／336頁／2100円

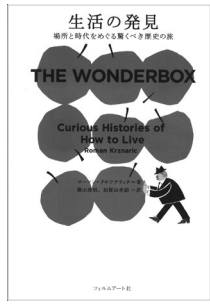
ヒロインの旅
女性性から読み解く〈本当の自分〉と創造的な生き方

モーリーン・マードック＝著
シカ・マッケンジー＝訳

ヒロインはどのような旅をたどるのか？　英雄にはない複雑なステップや、一見目には見えない大きな心の変化、内面の世界の変遷について丁寧に追い、神話やおとぎ話、古代のシンボルや女神、現代人が見る夢を分析しながら、女性性の価値と意義を解き明かす。

978-4-8459-1630-6
2017年／四六判・上製／296頁／2400円

生活の発見
場所と時代をめぐる驚くべき歴史の旅

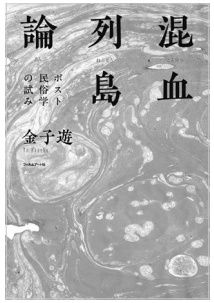


ローマン・クルツナリック＝著
横山啓明／加賀山卓朗＝訳

「歴史」という魔法の箱を開ければ、たちまち好奇心が刺激され、私たちの生活に新しいアイデアが見つかる。愛、家族、感情移入、仕事、時間、お金、感覚、旅、自然、信念、創造性、死生観など、誰もが人生でぶつかる問題に、「歴史」が答えてくれる。

978-4-8459-1604-7
2018年／四六判・並製／464頁／2300円

混血列島論
ポスト民俗学の試み



金子遊＝著

サントリー学芸賞受賞の批評家が、文芸、映像、フォークロア研究を交差させながら、太平洋の島嶼という視点で日本列島（ヤポネシア）に宿る文化の混淆性を掘り起こす、新たな民俗学。サハリンから蝦夷、沖縄、台湾まで、異なる文化の邂逅を追う。

978-4-8459-1709-9
2018年/四六判・上製/288頁/3000円

眼がスクリーンになるとき
ゼロから読むドゥルーズ『シネマ』

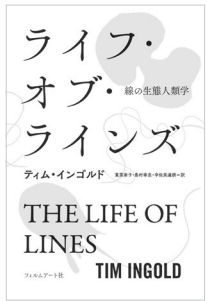
福尾匠＝著

電子版あり

イメージがそれ以上でもそれ以下でもなく見たままで現れる「眼がスクリーンになるとき」とは、どのようなことか。ドゥルーズ『シネマ』の解説書であり、「見る」ことと「読む」ことの復権を同時に実現する、新鋭のデビュー作。

978-4-8459-1704-4
2018年/四六版・並製/304頁/2200円

ライフ・オブ・ラインズ
線の生態人類学



ティム・インゴルド＝著
筧菜奈子／島村幸忠／宇佐美達朗＝訳

結ぶこと、天候、歩くこと、成長すること、人間になること——自由な発想でこの世界にさまざまなラインを見いだす人類学者ティム・インゴルドのライフワーク「ライン学」の到達点。哲学、生態学、気象学、人類学の境界を踏み超える、驚くべき「線」の探求の旅。

978-4-8459-1626-9
2018年/四六判・上製/344頁/2800円

ファッションと哲学
16人の思想家から学ぶファッション論入門

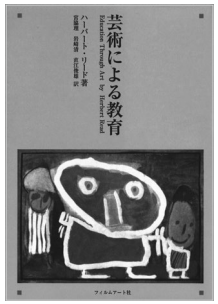
アニェス・ロカモラ／アネケ・スメリク＝編
蘆田裕史＝監訳

マルクスからバルト、ドゥルーズ、ラトゥール、バトラーまで、厳選された主要な現代の理論家16名の鍵となる概念をわかりやすく紹介。その理論が今日のファッション、衣服、文化にどう関係しているかを考察する、哲学から読み解く新しいファッション理論入門。

78-4-8459-1716-7
2018年/四六判・並製/512頁/3000円

社 会
（教育／現代社会論）

芸術による教育

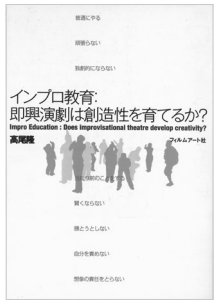


ハーバート・リード＝著
宮脇理／岩崎清／直江俊雄＝訳 ＊

心理学、生理学、社会学、哲学の諸分野を横断し、21世紀の芸術教育の役割を立証。感性と知性を統合させる、いま必須な教育改革への原典であり、初版から半世紀を経てもなお世界の教育関係者が注目する名著が、著者自身による詳細な註記と参考文献を全面収録して蘇る。

978-4-8459-0124-1
2001年／A5判・上製／424頁／5200円

インプロ教育：即興演劇は創造性を育てるか?



高尾隆＝著 ＊

闘わず、逃げない、自然体で人と交流するしなやかな力。インプロ（即興）によって受け容れあう人間教育を行うことは可能なのか。アメリカの学校・企業で注目されている教育実践方法を本邦初紹介。

978-4-8459-0701-4
2006年／A5判・並製／368頁／2800円

横井軍平ゲーム館 RETURNS
ゲームボーイを生んだ発想力

横井軍平／牧野武文＝著 ＊

幻の名著、堂々復刊。親本に忠実ながら、現在において横井軍平の仕事を改めて読み解くために、編集部による注を加え、年表をリニューアル。ゲームの開発者として知らない人はいない横井軍平の創作のアイデアが蘇る。

978-4-8459-1050-2
2010年／B6判・並製／224頁／2000円

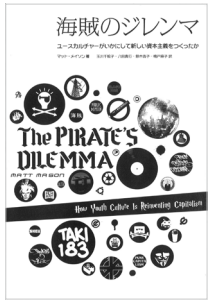
フリーカルチャーをつくるためのガイドブック
クリエイティブ・コモンズによる創造の循環

ドミニク・チェン＝著

ポスト・インターネット時代における創造性のあり方と社会発展のためのヒントをわかりやすく解説した、フリーカルチャーがわかる・参加する・つくりだすためのガイドブック。文化のオープンソース化の視点からまとめた、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスのケース・スタディ集付き。

978-4-8459-1174-5
2012年／四六判・並製／312頁／2200円

海賊のジレンマ
ユースカルチャーがいかにして新しい資本主義をつくったか



マット・メイソン＝著
玉川千絵子／八田真行／鈴木沓子／鳴戸麻子＝訳

アイデアを凝らした自由な精神で神出鬼没に跳梁する、イノベーションの主役＝“海賊”たちの物語。若者文化の新しい価値感と挑戦、DIYの智慧、自由な創造性に焦点をあてた、新時代のクリエイティヴ啓蒙書。クリス・アンダーソン推薦。

978-4-8459-1288-9
2012年／四六判・並製／424頁／2600円

フィンランドで見つけた「学びのデザイン」

豊かな人生をかたちにする19の実践

大橋香奈／大橋裕太郎＝著

＊

フィールドワーク・ユニット「ユタカナ」がフィンランドで見つけた「学びのデザイン」とは？　未来を自ら照らすために必要な、完成も正解もない「学び」に着目し、子どもも大人も楽しむ、柔軟で開かれた実践の場をレポート。人生に役立つ、十人十色の「学び」の原点を探る。

978-4-8459-1170-7
2011年／四六判・並製／208頁／2000円

世界を変えるSHIEN学

力を引き出し合う働きかた

舘岡康雄＝著

＊

あなたが他者に与えれば、社会があなたを幸せにする。SHIENとは不思議な生き方だ。「支援」から「SHIEN」へ。新しい時代の問題解決法を紹介し、読者を新しいパラダイムに運ぶための一冊。

978-4-8459-1295-7
2012年／四六判・並製／224頁／1800円

のめりこませる技術

誰が物語を操るのか

フランク・ローズ＝著
島内哲朗＝訳

すさまじい勢いで進むメディア的混沌のなかで、いつしかわたしたちは“物語”に参加し、やがて自ら語りはじめ、作品のなかに役割を得て夢中になり、深くのめりこんでいく……。あらゆる業界で必須な「虚構を現実に変える魔法」とインタラクティヴに拡張する未来の戦略を探る。

978-4-8459-1205-6
2012年／四六判・並製／440頁／2200円

「教える」ことの覚え書き

等身大の教師であるために

シェリー・ヘンドリックス／ラッセル・ライシ＝著
坂東智子＝訳

世界各国の学校で教師を務めてきた著者による、鋭くも愛情に満ちた184のアドバイス。さまざまな問題が山積している現代の教育現場において、本書は、あらためて「教える」ことの本質を根本から見つめ直す。

978-4-8459-1313-8
2013年／四六判・並製／280頁／2000円

FABに何が可能か

「つくりながら生きる」21世紀の野生の思考

田中浩也／門田和雄＝編著

「ものづくりの新時代」のマインドである「FAB」の概念とは。そしてその可能性はどこにあるのか。多様な視点と異質な要素の混淆から、今こそ考えるべき「つくりながら生きる」ことの本来の姿を提示する。

978-4-8459-1304-6
2013年／四六判・並製／328頁／2200円

子どもの創造力スイッチ！

遊びと学びのひみつ基地CANVASの実践

石戸奈々子＝著　電子版あり

＊

子どもの創造力と表現力を育てるNPO法人「CANVAS」を立ち上げた著者が、子どもたちの興味・主体性を引き出す場作りに奔走。あらゆる組織と協同して新しい学び方を探ってきた道のりは、大人にも子どもにもイノベーションのヒントを与えてくれる。

978-4-8459-1315-2
2014年／四六判・並製／272頁／1300円

つながるカレー

コミュニケーションを「味わう」場所をつくる

加藤文俊／木村健世／木村亜維子＝著

道具一式をキャラバンに積みこみ、知らない場所でカレーをつくってみんなで食べたら何が起きたか——。人と出会い、居心地のいい場所をつくることを目指したプロジェクトが映し出す「まち・ひと・こと」の新しいコミュニケーション学。

978-4-8459-1431-9
2014年／四六判・並製／208頁／1800円

シビックエコノミー

世界に学ぶ小さな経済のつくり方

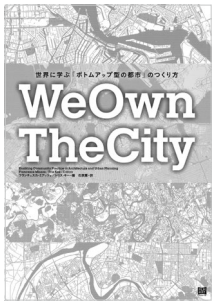
00＝著
石原薫＝訳

海外の「地域イノベーション」実例集であるだけでなく、具体的な結果を開示し、コミュニティやプロジェクト成立の背景、問題解決までのストーリーを年代ごとにイラストで図説。問題意識を持つ誰もがプロジェクトを立ち上げられる具体策を丁寧に解説する。

978-4-8459-1429-6
2014年／B5判・並製／196頁／2600円

WeOwnTheCity

世界に学ぶ「ボトムアップ型の都市」のつくり方



フランチェスカ・ミアッツォ／トリス・キー＝編
石原薫＝訳

世界の5都市（アムステルダム、香港、モスクワ、ニューヨーク、台北）それぞれの事例から、「ボトムアップ型」の都市づくりについて現場の知恵とノウハウを徹底的に開示した実践者のための本。市民やコミュニティとの対話、協働を通じて実現のプロセスとメカニズムを探る。

978-4-8459-1564-4
2015年／B5判・並製／304頁／3000円

コミュニケーションのデザイン史

人類の根源から未来を学ぶ

高橋裕行＝著

地図、本、学校、美術館、手紙など、「コミュニケーション」から生まれた「デザイン」の歴史的役割と理念を、社会のなかで形作られてきたさまざまな道具、技術、制度、思想などから横断的に検証。人、モノ、コトが生み出す21世紀のコミュニケーショ ンのありかたを模索する。

978-4-8459-1558-3
2015年／四六判変型・並製／280頁／2400円

日本のシビックエコノミー

私たちが小さな経済を生み出す方法

紫牟田伸子／フィルムアート社編集部＝編

＊

既存のジャンルを横断し、民間・行政・第三セクターの枠を超えたシビックエコノミーに関する日本における初めての入門書。シビックエコノミーに必要なこと、特徴、日本ならではの定義を試み、20の国内の事例を、それぞれコンパクトに整理する。

978-4-8459-1567-5
2016年／A5判・並製／248頁／2000円

ニコニコ学会βのつくりかた

共創するイベントから未来のコミュニティへ

江渡浩一郎／くとの＝編著

大学や専門機関に属さなくても研究者として自分の興味のあることを追求する「野生の研究者」を応援することをモットーに、さまざまな広がりを生み出した「ニコニコ学会β」。「作るをつくる」イベントのアーキテクチャと実践をまとめ、そのノウハウを伝授する一冊。

978-4-8459-1591-0
2016年／A5判変形・並製／208頁／1800円

釜ケ崎で表現の場をつくる喫茶店、ココルーム

上田假奈代＝著

アートやデザイン、場づくりなどジャンルを越えた活動に注目が集まる「ココルーム」。福祉、地域社会、貧困と格差など、現代の多様な問題と事柄に、「釜ヶ崎」で孤軍奮闘してきた時代から現在までの約15年の歩みを振り返り、関係者たちの証言をまとめた一冊。

978-4-8459-1600-9
2016年／四六判・並製／240頁／1700円

18歳からの選択

社会に出る前に考えておきたい20のこと

上木原弘修／横尾俊成／後藤寛勝＝著

選挙権が18歳に引き下げられることをきっかけに、今後、選択肢が増える若い世代に、恋愛や結婚、就職や仕事のことなど身近な話題から、戦争、震災、高齢化、ストレスや鬱についてまで、問題になっている事柄の背景や論点をコンパクトにまとめて伝える一冊。

978-4-8459-1612-2
2016年／四六判・並製／276頁／1400円

N女の研究

中村安希＝著

電子版あり

「N女」=「NPOで働く女子」たちとは一体何者なのか？N女の出現の背景には何があるのか、また彼女たちの出現によって今、NPO業界では何が起きつつあるのか。開高健ノンフィクション賞作家、中村安希が「N女」たちの生き様に迫る。

978-4-8459-1615-3
2016年／四六判・上製／296頁／1700円

〈教師〉になる劇場

演劇的手法による学びとコミュニケーションのデザイン

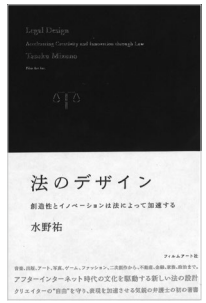
川島裕子＝編著

学校教育における「関係性」を、豊かなものに編み直していくための「演劇／舞踏×コミュニケーション×教育」という新しい方法論とその可能性とは。教員志望者、教育研究者にとって刺激的な一冊。

978-4-8459-1616-0
2017年／A5判・並製／272頁／2800円

法のデザイン

創造性とイノベーションは法によって加速する



水野祐＝著

電子版あり

インターネット・カルチャーと法が交錯するなかで、今、何が起きているのか？　アフターインターネット時代における法をとりまく環境を考察し、ルールメイキングしていくための、「法」×「デザイン思考」＝「リーガルデザイン」という新しい考え方を提唱する。

978-4-8459-1605-4
2017年／四六判・並製／344頁／2200円

アイコン的組織論

超一流のコンサルタントたちが説く「能力の好循環」

ザビエ・ベカルト／フィリス・ヨンク／ヤン・ラース／フェボ・ウィベンス＝著　稲垣みどり＝訳

どのジャンルにおいても他の追随を許さない「アイコン」＝象徴的な存在である14の組織を調査・研究。共通する厳密な人選、完全な能力主義、分散型リーダーシップ、限りない向上心など、長期に渡って成功し続ける要因＝「能力の循環」について解き明かす。

978-4-8459-1635-1
2017年／四六判・並製／268頁／2000円

科 学
（自然科学／医学）

アリス博士の人体メディカルツアー
早死にしないための解剖学入門

アリス・ロバーツ＝著
田沢恭子＝訳

体のことをもっとよく知れば、もっとシンプルな方法で健康になれる。体をなるべく健康に保つ方法について、余分なお金を使うことなく、現実的で実行可能なアプローチを提案。BBCの人気サイエンス・ナビゲーターが切り開く「臓器の教養」。

978-4-8459-1590-3
2016年／A5判・並製／272頁／2800円

動物学者が死ぬほど向き合った「死」の話
生き物たちの終末と進化の科学

ジュールズ・ハワード＝著
中山宥＝訳　　電子版あり

死なないように進化できないのはなぜか？　あらゆる生物に共通して訪れる「死」について、大きな連鎖の中からその役割を考えていく。さまざまな生物の死にまつわるエピソードをユーモア交えて紹介。生き物たちの死と生をめぐる驚くべき冒険の旅へ！

978-4-8459-1638-2
2018年／四六判・並製／356頁／2100円

文 芸

物語創作技法
文学
エッセイ／生き方

物語創作技法

アウトラインから書く小説再入門

なぜ、自由に書いたら行き詰まるのか？

K·M·ワイランド＝著　　電子版あり
シカ·マッケンジー＝訳

小説を執筆するために必要なプロット作り「アウトライン」の構築について独自のメソッドをステップごとにナビゲート。特に、既に小説を書いている人の再入門書として、最後まで書ききるまで背中を押してくれる、理論化された実用度の高い創作技術書である。

978-4-8459-1310-7
2013年/四六判·並製/232頁/2000円

ストラクチャーから書く小説再入門

個性は「型」にはめればより生きる

K·M·ワイランド＝著　　電子版あり
シカ·マッケンジー＝訳　　＊

ハリウッド式三幕構成をもとに、どんな創作にも欠かせない「構成＝ストラクチャー」の作り方を伝授。「型にはめたら個性がなくなる」という誤解をとき、むしろ独創性を最大限に引き出しながら整合性のある強度の強い作品を書くための大切な技術として徹底解説。

978-4-8459-1325-1
2014年/四六判·並製/304頁/2000円

はじめての批評

勇気を出して主張するための文章術

川崎昌平＝著

＊

今、なぜ批評が重要なのか？　SNSやブログなどのウェブ媒体において、「文章」に誰もが恒常的に触れる現代、言葉に強さを持たせ、澱みなく主張をアウトプットさせる術を伝授！　批評＝「価値を伝える」。伝えたいことを、ちゃんと書けるようになろう。

978-4-8459-1588-0
2016年/四六判·並製/184頁/1250円

クリエイターのための占星術

キャラクター、ストーリーと世界観の作り方

コリーン·ケナー＝著
シカ·マッケンジー＝訳

ゲームのシナリオやアニメのキャラクターなど、さまざまなコンテンツのなかに占星術や神話アイデアが取り込まれている。構成やテーマ、人物を特徴づける描写や衣裳デザインから職業などの詳細な背景設定まで、ネタ探しや物語の作り込みに役立つ必須ガイド。

978-4-8459-1442-5
2015年/A5判·並製/376頁/2500円

世界を創る女神の物語

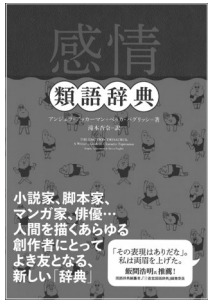
神話、伝説、アーキタイプに学ぶヒロインの旅

ヴァレリー·エステル·フランケル＝著
シカ·マッケンジー＝訳

世界各地の神話、伝説、民話や民間伝承を楽しみながら、「ヒロインの旅」をステップごとに追う「女神たちのストーリーテリング」を凝縮。アニメやマンガ、ゲーム、小説などの物語創作のヒントとなることはもちろん、心理学、神話学やジェンダー研究にも必携。

978-4-8459-1607-8
2016年/A5判·並製/496頁/2600円

感情類語辞典



アンジェラ・アッカーマン／ベッカ・パグリッシ＝著
滝本杏奈＝訳
電子版あり

人間の喜怒哀楽を項目化し、それぞれの感情に由来する行動や反応を集めた、創作者のための新しい「類語辞典」。言葉にならない感情をお決まりの表現に頼らずに、登場人物をより人間らしくリアルに描き、物語を引っ張っていく魅力的なキャラクターを生み出すことができる。

978-4-8459-1584-2
〈類語辞典〉
2015年/A5判・並製/180頁/1600円

性格類語辞典 ポジティブ編

アンジェラ・アッカーマン／ベッカ・パグリッシ＝著
滝本杏奈＝訳
電子版あり

類語辞典シリーズ第2弾。キャラクターが持ちうる「属性」のポジティブな面を列挙し、その要因、行動、態度、思考パターンなどを類語としてまとめた。1つの言葉を通じて、登場人物の性格がみるみる深まり、無限に連鎖していく発想と創作のヒントが生まれる。

978-4-8459-1601-6
〈類語辞典〉
2016年/A5判・並製/272頁/1300円

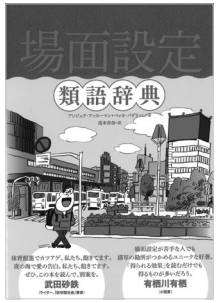
性格類語辞典 ネガティブ編

アンジェラ・アッカーマン／ベッカ・パグリッシ＝著
滝本杏奈＝訳
電子版あり

類語辞典シリーズ第3弾。あえてキャラクターの暗い面に対して光を投げかけることで、ポジティブな面も明るみになり、魅力的な「欠点」をつくることができる。頑固、悲観的、わがまま……共感を呼び、応援したくなる「ネガティブ」キャラのすべて。

978-4-8459-1602-3
〈類語辞典〉
2016年/A5判・並製/288頁/1300円

場面設定類語辞典



アンジェラ・アッカーマン／ベッカ・パグリッシ＝著
滝本杏奈＝訳
電子版あり

類語辞典シリーズの第4弾。物語の舞台・世界観をつくりあげる「場面設定」のノウハウを「郊外編」「都市編」合わせて全225場面収録。「見えるもの」「聴こえるもの」「味」等の要素から、「物語が転回する状況や出来事」まで例文とともに徹底解説。

978-4-8459-1623-8
〈類語辞典〉
2017年/A5判・並製/584頁/3000円

トラウマ類語辞典

アンジェラ・アッカーマン／ベッカ・パグリッシ＝著
新田享子＝訳
電子版あり

シリーズ累計10万部突破！　読者の共感を呼ぶ多面性のある豊かなキャラクターやリアリティのある状況設定の作り方を、「トラウマ」という観点から徹底網羅する。すべての創作者必携の、大ヒット類語辞典シリーズ第5弾。

978-4-8459-1721-1
2018年/A5判・並製/352頁/2200円

脳が読みたくなるストーリーの書き方

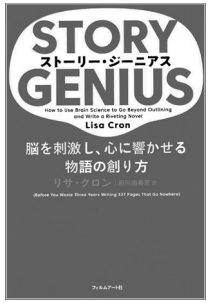
リサ・クロン＝著
府川由美恵＝訳
電子版あり

ストーリーを書くうえで重要なポイントとは、「次に何が起こるか知りたい」という脳の欲求を引き出し続けること。小説、映画脚本などの実例を参考にしながら、脳を満足させるための創作術を指南。人間の「認知的無意識」が明らかにする物語創作の実践ガイド。

978-4-8459-1608-5
2016年/四六判・並製/416頁/2000円

ストーリー・ジーニアス

脳を刺激し、心に響かせる物語の創り方



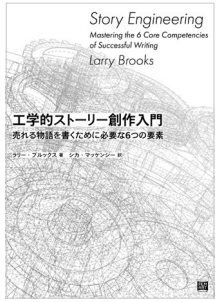
リサ・クロン＝著
府川由美恵＝訳

「感情」が他の何よりも早く脳に関わる、という脳科学の知識を応用し、ストーリーライティングの本質を解き明かす。物語を動かすのは主人公の内面的な葛藤だった。「どうしたら印象的で魅力的な物語が書けるのか?」に対する明確な答えがここにある。

978-4-8459-1640-5
2017年/四六判・並製/416頁/2000円

工学的ストーリー創作入門

売れる物語を書くために必要な6つの要素



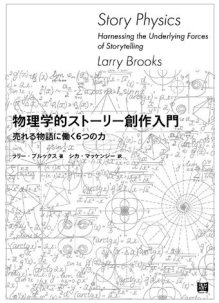
ラリー・ブルックス＝著
シカ・マッケンジー＝訳

売れるストーリーには原則がある。つまりストーリー創作には工学的な側面があるということだ。本書では、直感に頼ることなく、物語創作に必須の6つの要素から包括的に秩序立てて書き始める方法を解説する。

978-4-8459-1722-8
2018年/A5判/328頁/2100円

物理学的ストーリー創作入門

売れる物語に働く6つの力



ラリー・ブルックス＝著
シカ・マッケンジー＝訳

売れる物語に必然的に働いている6つの力を分析するとともに、その力を生かした読者の記憶に残るストーリーの執筆を提案する。多くの創作者に影響を与えた、同著者による『工学的ストーリー創作入門』に続く実践編。

978-4-8459-1806-5
2018年/A5版・並製/272頁/2000円

文学

本を読むときに何が起きているのか

ことばとビジュアルの間、目と頭の間

ピーター・メンデルサンド＝著
細谷由依子＝訳

本を読むとき、わたしたちは何を見て、何を思い描いているのか?　アメリカの老舗出版社で活躍するブックデザイナーが、視覚的・現象学的な見地から人間の認識力の根源に迫り、まったく新しいアプローチで文学の読み方を思考実験する。

978-4-8459-1452-4
2015年/A5判・並製/430頁/2600円

文学効能事典

あなたの悩みに効く小説

エラ・バーサド／スーザン・エルダキン＝著
金原瑞人／石田文子＝訳
電子版あり

心身の不調を改善するためには、古今東西の名作文芸作品＝「薬」を読めばよい。『百年の孤独』『華氏451度』『老人と海』『一九八四年』『嵐が丘』『ねじまき鳥クロニクル』……。小説で愉しむ「病」と「悩み」の処方箋。

978-4-8459-1620-7
2017年/四六判変形・並製/424頁/2000円

わたしの名前は「本」

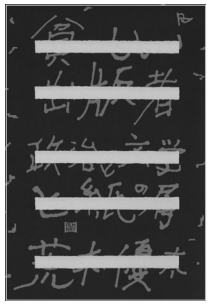
ジョン・アガード＝著 ニール・パッカー＝画
金原瑞人＝訳

時代によってさまざまな形に変化して、ほかの人々の物語を語ってきた「本」が、自分の物語を語ったとしたら……？　文字が生まれる前から、わたしたちがこの手でページをひらくまでの、つつましくもけなげな「本」の冒険譚。

978-4-8459-1624-5
2017年/四六判変形・上製/144頁/1600円

貧しい出版者

政治と文学と紙の屑



荒木優太＝著

同時代の小説家／活動家でありながら、出会うことのかなわなかった小林多喜二と埴谷雄高。彼らを軸に、政治と文芸の不思議なつながりを鮮やかに描き出す、貧しくも冒険的な文芸研究の書。新進気鋭の在野研究者、荒木優太の処女作が大幅増補で復活。

978-4-8459-1705-1
2017年/四六判・上製/312頁/2800円

川端康成をめぐるアダプテーションの展開

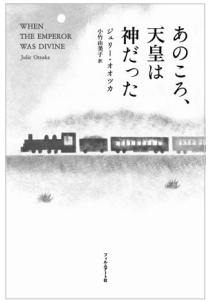
小説・映画・オペラ

福田淳子＝著

プレオリジナルの再構成など、広い意味での自作のアダプテーションから、川端作品がどのように映画化され、オペラ化されたのか、原作小説のアダプテーションの方法や様態、あるいは享受のされ方までを論じた、川端とアダプテーションをめぐる論文集。

978-4-8459-1717-4
2018年/四六判・上製/376頁/4500円

あのころ、天皇は神だった



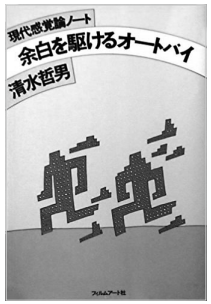
ジュリー・オオツカ＝著
小竹由美子＝訳

第二次世界大戦中のアメリカで、強制退去によって追われた日系人の一家。彼らはユタ州の砂漠にある収容所に送られることとなる……。『屋根裏の仏さま』でPEN／フォークナー賞を受賞した、ジュリー・オオツカのデビュー作が新訳で復刊。

978-4-8459-1706-8
2018年/四六版・上製/192頁/2300円

エッセイ／生き方

余白を駆けるオートバイ
現代感覚論ノート



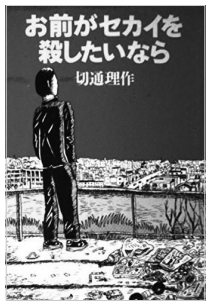
清水哲男＝著

＊

語り手は、ショー・ウィンドーの街を一台のオートバイとなって走る。行き過ぎるものは、聞き慣れた歌、映画、広告、さまざまな出来事といった日常の束。詩人であり、ユニークなエッセイストである著者が、都会の喧騒のなかに、現代人の風俗、情緒を鋭くとらえる。

978-4-8459-7616-4
1976年／四六判・並製／224頁／980円

お前がセカイを殺したいなら



切通理作＝著

＊

イヤになっても戦え！　もう逃げるところはないんだ！阪神大震災、いじめ自殺、ゴーマニズム宣言、完全自殺マニュアル、大江健三郎など衝撃の出来事をターゲットに展開される渾身の世紀末批判。

978-4-8459-9543-1
1995年／四六判・上製／328頁／1900円

コズミック・ファミリー
アクエリアスの夢を生きる女

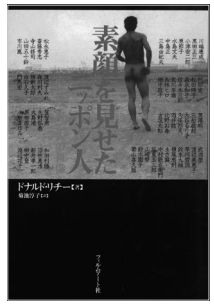
明本歌子＝著

＊

自分らしく、いきいきと生きることがアートだ。60〜70年代のカルチャーシーンを天衣無縫の自由さで生きつづけて、世界を巡る自分探しの旅。つぎつぎと奇想天外なエピソードが展開する波乱万丈の不思議エッセイ。

978-4-8459-9883-8
1998年／四六判・上製／352頁／2200円

素顔を見せたニッポン人
心に残る52人の肖像

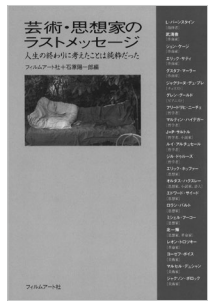


ドナルド・リチー＝著
菊池淳子＝訳　＊

滞日50年におよぶアメリカ人批評家の眼で描かれた、インディヴィジュアルな日本人の肖像を公開。有名・無名の多彩な人生が息づく、ピュアで、どこか微笑ましいジャパニーズ曼陀羅。

978-4-8459-0351-1
2003年／四六判・並製／352頁／2000円

芸術・思想家のラストメッセージ
人生の終わりに考えたことは純粋だった



フィルムアート社編集部／石原陽一郎＝編

＊

彼らは死の直前に何を考えたのか。ピアニスト、哲学者、小説家、建築家など、現代カルチャーを作り変えてきた思想家、アーティストを取り上げ、晩年の状況を紹介しながら、その生身の姿から発せられた言葉に迫る。

978-4-8459-0469-3
2004年／四六判・並製／192頁／1700円

フィンランドという生き方

目莞ゆみ＝著

＊

GNP世界一、教育水準世界一、高福祉社会、自然を愛し、自立心を育み、効率的に仕事をする人々……。明暗ともにさまざまな角度からフィンランドという生き方にアプローチし、フィンランドが注目される理由を探る。

978-4-8459-0583-6
2005年／四六判・並製／256頁／2000円

記入式　自分史の本

▶増補改訂版

バイオグラフ社＝編

＊

思い出を手繰り寄せ、記入するだけで、あなたが著者。時代を浮き彫りにする上段年表に対応させながら、自分と家族の足跡を下段記入欄に組み入れ、ライフストーリーが完成。

978-4-8459-0700-7
2006年／A5判・上製／240頁／1800円

あなたの人生を愛するノート

アルフォンス・デーケン＝著

遺産相続を記入するだけの「エンディングノート」とは違う、自分の「人生を愛する」ためのノート。デーケン先生の静かな問いかけとともに、第1の人生（青年期）、第2の人生（社会人）、第3の人生（定年後）を振り返り、ノートに書く、新しい終活のすすめ。

978-4-8459-0705-2
2007年／A5判・上製／144頁／1500円

グラグラな社会とグラグラな僕のまんが道

福満しげゆき＝著

＊

不安定な社会を生きるための小規模な人生論。漫画家・福満しげゆきが、この不景気な現代の格差社会のなかで、どうやってしのいでいくのかを語る。福満ワールド満載の、コラムやマンガも収録。

978-4-8459-1048-9
2010年／B6判・並製／240頁／1200円

変わる人々

3．11後のソーシャル・アクション

岡本俊浩＝著

＊

自分たちの場所・暮らし・メディア・政治のために。西への移住、移住受け入れ活動、脱原発運動、新たなメディアを作る試みなど、3.11後に新しく動き始めた人々を訪ね、対話し、思考した東京～福島～九州取材記。

978-4-8459-1287-2
2012年／四六判・並製／256頁／1900円

minimalism

30歳からはじめるミニマル・ライフ

ジョシュア・フィールズ・ミルバーン／ライアン・ニコデマス＝著　吉田俊太郎＝訳

電子版あり

＊

大切なものだけにフォーカスして、より充足した「今」を生きるためには、過剰なものを取り除くちょっとした発想の転換が必要。本書では、都会で無理をせず、自分らしいシンプルライフを考えるためのヒントを凝縮。幸福とは、自らのなかにあることに気づくはず。

978-4-8459-1324-4
2014年／四六判・並製／224頁／1700円

あるミニマリストの物語

僕が余分なものを捨て人生を取り戻すまで

ジョシュア・フィールズ・ミルバーン／
ライアン・ニコデマス＝著　吉田俊太郎＝訳

誰もが羨む「勝ち組」であったはずの著者が、消費と物欲から決別し、自分の人生に向き合っていく。自分を幸せにしてくれると思っていた品物から遠ざかることで見えてきた「本当に必要なもの」。「Wi-Fiを持った現代のソロー」が綴った幸せのストーリー。

978-4-8459-1585-9
2016年／四六判・並製／336頁／1800円

じぶんの学びの見つけ方

フィルムアート社編集部＝編

学校での“勉強”と違い、大人の“学び”にはその人ならではの体験、問題意識や価値観、多くの関係性などから成り立つさまざまなかたちがある。本書では、多彩な分野で活躍する26人に学びのかたちにまつわるストーリーを聞き、その原動力の秘密を探る。

978-4-8459-1434-0
2014年／四六判・並製／256頁／1800円

天才たちの日課

クリエイティブな人々の必ずしもクリエイティブでない日々

メイソン・カリー＝著
金原瑞人／石田文子＝訳　電子版あり

偉大な成果を出すため、創造的な生活を維持するために、天才たちはどのような生活を送っていたのか。日々の日課や一日のスケジュール、部屋での様子や欠かせない嗜好品など、「周辺」から見えてくる意外で納得の日常が、実は大きなヒントを与えてくれる。

978-4-8459-1433-3
2014年／四六判・並製／376頁／1800円

漫画編集者

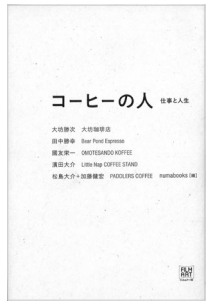
木村俊介＝著

漫画が生まれる現場の第一線に立つ5人の漫画編集者の命の痕跡を丹念に紡いだインタビュー集。漫画家にとって編集者はどのような存在なのか、読者とつながるとはどういうことなのか、もの作りにまつわる本質や矛盾にさらされながら奮闘するすべての人に必読の書。

978-4-8459-1446-3
2015年／四六判・並製／344頁／1800円

コーヒーの人

仕事と人生



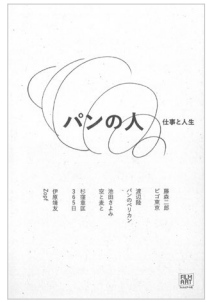
numabooks＝編

コーヒーに人生を捧げ、コーヒーに情熱を注ぐ6人へのロング・インタビュー集。仕事と人生のストーリーを通し、美学とプロフェッショナルの本質を映し出す。大坊勝次、田中勝幸、國友栄一、濱田大介、松島大介、加藤健宏のインタビューを収録。

978-4-8459-1586-6
2015年／B6判変型・上製／216頁／1500円

パンの人

仕事と人生

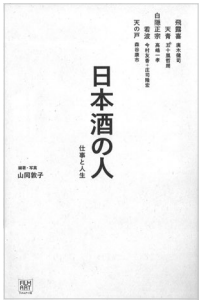


フィルムアート社編集部＝編

パン文化を牽引し、パン好きの間でも大人気の5店舗をつくったプロフェッショナルたちの、人生と仕事のストーリーをまとめた一冊。藤森二郎、渡辺陸、池田さよみ、杉窪章匡、伊原靖友のインタビューを収録。

978-4-8459-1625-2
2017年／B6判変型・上製／200頁／1600円

日本酒の人
仕事と人生

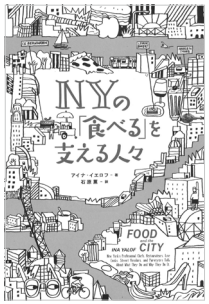


山同敦子＝編著

高い人気を誇る日本酒5蔵の杜氏たちが、これまでの人生や酒造りについて語る。廣木健司、五十嵐哲朗、高嶋一孝、今村友香、庄司隆弘、森谷康市のインタビューを収録。

978-4-8459-1645-0
2018年/B6判変型・上製/240頁/1800円

NYの「食べる」を支える人々



アイナ・イエロフ ＝著　　電子版あり
石原薫＝訳　　＊

一流シェフ、ハラルの屋台オーナー、牡蠣の殻剥き職人、ダック農家、肉屋、セレブ専属ケータリング、卸商、企業雇われシェフ、ウエイトレス、パティシエ、寿司職人から刑務所の料理担当者まで。NYの食を支える、働き者たちが人生を語る。

978-4-8459-1621-4
2017年/四六判・並製/448頁/2300円

大根の底ぢから！

林望＝著

電子版あり

食いしん坊のリンボウ先生が煩悩する折々の美味、そして珍味怪味なるエッセイ集。日本人が感じる、自然な素材の「底ぢから」を愛してやまないリンボウ先生。四六時中「食べる」ことを思い、日本全国を行脚しながら、未知の美味・珍味に出会う。

978-4-8459-1712-9
2018年/四六判・上製/224頁/1800円

十八番（おはこ）の噺
落語家が愛でる噺の話

春風亭昇太／桃月庵白酒／柳家喬太郎／立川生志／林家正蔵＝著

当世落語界を突っ走る人気真打5人と、期待の若手真打・二ツ目6人が魅せられた“噺”の奥に見えるものとは——。いかにして、噺に「魂」を込めるのか。噺をさらに深く捉え、落語を聴くときの手引きとなる、新たな魅力が見つかる一冊。

978-4-8459-1702-0
2017年/四六判・並製/248頁/1700円

やっぱ志ん生だな！

ビートたけし＝著

電子版あり

ビートたけしが敬愛する落語家として挙げる5代目古今亭志ん生。戦後の東京落語界を代表し、「天衣無縫」とも言われた芸風で愛された落語家は、なぜこれほどまで人の心を掴んだのか。そんな志ん生の“凄さ”を独自の視点で分析。お笑い界、落語界を斬りながら語る！

978-4-8459-1708-2
2018年/四六版・並製/168頁/1400円

シリーズ

Next Creator Book
101のアイデア
クリティカル・ワーズ

Next Creator Book

ドキュメンタリー;リアルワールドへ踏み込む方法

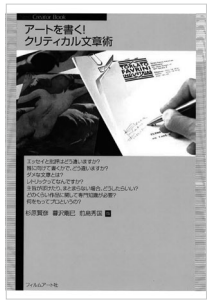
村山匡一郎=編

*

リアルとは。私とは。ドキュメンタリーブームを背景に、撮ること／見ることのアティチュードをプロ作家が指南。ワイズマンからワン・ビンまで、代表作家20人のスタイルも紹介。森達也×土屋豊の対談付き。

978-4-8459-0698-7
2006年/四六判・並製/224頁/1600円

アートを書く！　クリティカル文章術



杉原賢彦／暮沢剛巳／前島秀国=編

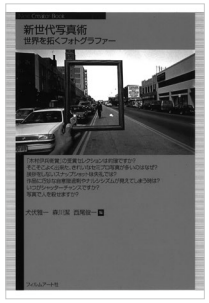
*

美術、音楽、映画……。言葉にできない感動をどう言葉にするか。マニュアルには載っていない、プロの文章を目指す書き方講座。ダ・ヴィンチからヒッチコックまで、書き方の核心に大胆に迫る。添削文付き。

978-4-8459-0699-4
2006年/四六判・並製/224頁/1600円

新世代写真術

世界を拓くフォトグラファー



犬伏雅一／森川潔／西尾俊一=編

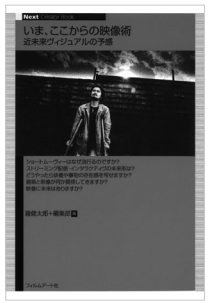
*

ブログ、カメラ、映像配信など、個人の表現をパブリックに発信する時代。ツールを使いこなすだけでは物足りない次世代クリエーターのために、表現の発想法、リテラシー、クリエイティヴ・コンテンツのつくり方など、インテリジェントでコアな情報をコンパクトに提供する。

978-4-8459-0713-7
2007年/四六判・並製/216頁/1700円

いま、ここからの映像術

近未来ヴィジュアルの予感



瀧健太郎／フィルムアート社編集部=編

劇映画、実験映像、ストリーミング配信……。異なる映画鑑賞の仕方、異なる映画制作のアプローチを横断的に俯瞰。激変する現代、一人一人に本当に必要なヴィジュアル表現はあるのか。“近未来”の映像を発見する本。

978-4-8459-0925-4
2009年/四六判・並製/208頁/1700円

キュレーターになる！

アートを世に出す表現者

住友文彦／保坂健二朗／
フィルムアート社編集部=編

*

美術館内の展示、美術館ではないスペースでの展示、個人的なものからインターナショナルな展覧会にいたるまで、アーティストでも評論／批評家でもない大切な仕事、キュレーターのエッセンスと醍醐味を紹介。アートとキュレーションの可能性を多角的に捉える。

978-4-8459-0926-1
2009年/四六判・並製/208頁/1700円

編集進化論

editするのは誰か？

仲俣暁生／フィルムアート社編集部＝編

＊

紙媒体、デジタル化、ウェブ、コミュニティとの連携、個人の日常レベルまで、これからの編集はディレクター、デザイナーなどとも重なる、職業を超えた幅広い行為となる。進化する「編集」を自ら発見していこう。

978-4-8459-1054-0
2010年／四六判・並製／192頁／1700円

これからのアートマネジメント

〝ソーシャル・シェア〟への道

中川真／フィルムアート社編集部＝編

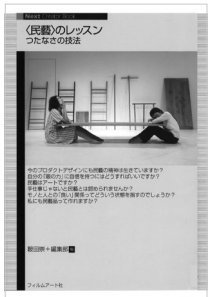
＊

あらゆる“場”を再生させるアートの戦略。社会におけるアートの存在についてダイナミックに捉え直しながら、多様なジャンルの第一線で活躍中の執筆陣が、アートマネジメントにおける大切な考え方や実践論を語る。

978-4-8459-1163-9
2011年／四六判・並製／192頁／1700円

〈民藝〉のレッスン

つたなさの技法



鞍田崇／フィルムアート社編集部＝編

＊

人や物との出会いを自分たちの感性で創造していくこと、それを力強く肯定してくれるのが民藝。民藝にまつわる16のスタイルや民藝の歴史、民藝をめぐる質問、中沢新一×鞍田崇の対談などを収録。

978-4-8459-1183-7
2012年／四六判・並製／208頁／1700円

クリエイティブ・コミュニティ・デザイン

関わり、つくり、巻き込もう

紫牟田伸子／フィルムアート社編集部＝編

＊

「パブリック」への意識が変化し、まちや社会を「自分たちごと」としてとらえる生き方が見直されている。多様に展開する現代の「コミュニティ」は関わり方もさまざま。「デザイン」の力でアイデアと関係性の新しい可能性を切り拓く。

978-4-8459-1290-2
2012年／四六判・並製／224頁／1700円

現代アートの本当の学び方

フィルムアート社編集部＝編

絶対的な評価軸が定まっておらず、学ぶことが難しいとされる現代アート。思考は前へと進むものの立ち往生している作り手や受け手が、学ぶ上で出現する課題に呼応する視点（の入り口）を獲得することで、広大で豊かな世界への出口が見つかるきっかけとなること目指す。

978-4-8459-1326-8
2014年／四六判・並製／208頁／1700円

現代アートの本当の見方

「見ること」が武器になる

フィルムアート社編集部＝編

＊

多彩な技法や思想が充満し、解釈も多岐にわたる「現代アート」を「見る」ことを、技術、社会、精神の3つのカテゴリに分類し、多様な視点から作品と向かい合うための方法を提案。作品を経て自分のなかに生まれる変化まで、「見る」ことの面白さを論じる。

978-4-8459-1445-6
2014年／四六判・並製／208頁／1700円

キュレーションの現在

アートが「世界」を問い直す

フィルムアート社編集部＝編

グローバルなアートの歴史を踏まえつつ、日本というローカルな場所を起点にその第一線に立つ執筆陣の言葉から、キュレーションの現在を立体的に浮き彫りにする。キュレーションもまたクリエーションであり、必然的にアートの未来をつくるヒントとなるはず。

978-4-8459-1453-1
2015年/四六判・並製/230頁/1700円

マンガの現在地！

生態系から考える「新しい」マンガの形

島田一志／フィルムアート社編集部＝編

激しい変化にさらされるマンガの「現在」を収集。その生態系の見取り図をつくることにより、「マンガ」と呼ばれる表現そのものを問うと同時に、さまざまな立場の実践者たちから〈世界にまだないマンガ〉を生み出す誰かに向けた、全身全霊のエールを送る。

978-4-8459-1578-1
2015年/四六判・並製/192頁/1700円

現代アートの本当の楽しみ方

表現の可能性を見つけにいこう

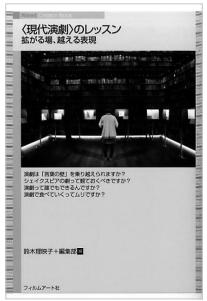
フィルムアート社編集部＝編

現代アートの「正しい楽しみ方」は存在しないが、楽しむきっかけを増やすための提案書。集中できる環境で、思い込みを捨ててアートに向き合ったとき何を感じられるか。考えたり経験したりつくったりしながら、価値とは自分でつくれることに気づけるかもしれない。

978-4-8459-1560-6
2015年/四六判・並製/184頁/1700円

〈現代演劇〉のレッスン

拡がる場、越える表現



鈴木理映子／フィルムアート社編集部＝編

演劇／舞踏の「環境・社会」「表現」「経済・経営」で、何が起きているのか。日本の演劇／舞踏界を牽引する劇団やその作品の考察にとどまらず、文化政策、助成金制度など、社会学的なアプローチも網羅。歴史的文脈も踏まえ、演劇／舞踏を総合的に捉えた一冊。

978-4-8459-1603-0
2016年/四六判・並製/192頁/1700円

文芸翻訳入門

言葉を紡ぎ直す人たち、世界を紡ぎ直す言葉たち

藤井光＝編

＊

文芸翻訳の最前線で活躍する著名な翻訳家・作家たちが、翻訳に関する疑問やテクニックについて執筆。明治から平成までの英米文芸の和文翻訳150年の歴史変遷などの記述もあり、翻訳初心者、あるいは海外小説の読者にもおすすめの一冊。

978-4-8459-1618-4
2017年/四六判・並製/280頁/1800円

落語の入り口

想像と創造のコミュニケーション

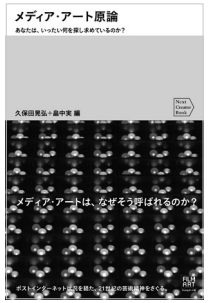
東京かわら版／フィルムアート社編集部＝編

江戸時代からの大衆芸能である落語について、一から知り、実際に足を運んで楽しむための入門書。落語の面白さ、今聴いておくべき落語家、知っておくと「通」な専門用語などを、現役の落語家や漫画家、作家、認知科学者、社会学者などが多角的に紹介し、分析する。

978-4-8459-1642-9
2017年/四六判・並製/192頁/1700円

メディア・アート原論

あなたは、いったい何を探し求めているのか？



久保田晃弘／畠中実＝編

電子版あり

メディア・アートはなぜそう呼ばれているのか？　明確な定義が難しく、言説も錯綜した状態が久しいメディア・アートについて、インターネット以後の状況に重要な論点をわかりやすく整理した入門書。メディア・アートの歴史や重要なキーワードもコンパクトに解説。

978-4-8459-1718-1
2018年／四六判・並製／208頁／1700円

絵本の冒険

「絵」と「ことば」で楽しむ

小野明＝編

イラストレーター、デザイナーなどのクリエイターたちの発想や想像力に影響を与える可能性のある絵本の世界。「絵」と「ことば」の解釈方法は、どのようになっているのか？　絵本作家、小説家、デザイナー、ミュージシャンらが、絵本の魅力を多角的に探る。

978-4-8459-1707-5
2018年／B6版・並製／232頁／1700円

101のアイデア

建築デザイン 101のアイデア

マシュー・フレデリック＝著
藤原恵洋＝訳　＊

ドローイングの基礎から、対位法、空間分節の考え方、目からウロコの格言まで、基礎的かつ見落としがちな諸問題を解決するヒントを、101のイラストとシンプルなテキストに凝縮。建築、インテリア、都市計画はもちろん、デザインに携わるすべての人必読。

978-4-8459-0933-9
2009年／四六判変形・上製／224頁／1900円

ファッションデザイン 101のアイデア

アルフレッド・カブレラ／マシュー・フレデリック＝著
深町浩祥＝訳　＊

ファッションを“本当に”学ぶための101のアイデア。コンセプトの立て方から、生地の選び方、マーケティングの考え方、ファッションの本質、美的感覚を育む発想法まで、創造力を刺激するエッセンスが満載。

978-4-8459-1161-5
2011年／四六判変型・上製／224頁／2100円

ビジネススクールで学ぶ 101のアイデア

マイケル・W・プライス／マシュー・フレデリック＝著
美谷広海＝訳 ＊

MBA・米国ビジネススキルの基礎を集約。ビジネスはひとつの分野だけの活動ではない。仕事人生のなかで直面するさまざまな課題を受け入れ、倫理、情熱、機転をもって適切な対処をするために知っておくべきこととは。行動派のビジネスマンが読んでおくべき単語帳。

978-4-8459-1164-6
2011年／四六判変型・上製／224頁／1800円

フィルムスクールで学ぶ 101のアイデア

ニール・ランドー／マシュー・フレデリック＝著
石渡均＝訳 ＊

魅せる撮影術、飽きさせないシナリオ構成、時間・予算との戦い、制作現場の在り方……。豊富なイラストと短いセンテンスで、映画作りを深める知識をコンパクトに伝授する。101のアイデアシリーズ第4弾。

978-4-8459-1167-7
2011年／四六判変型・上製／224頁／1900円

料理スクールで学ぶ 101のアイデア

ルイス・エグアラス／マシュー・フレデリック＝著
関未玲＝訳

食材、調理スキル、道具、盛りつけから、食の安全、調理場でのマネジメントまで。料理学校で学ぶ人から、日々の食卓にちょっとしたスパイスがほしい人にも最適な、今の時代に知っておきたい、西洋料理の“ABC”。

978-4-8459-1166-0
2011年／四六判変型・上製／224頁／1900円

アートスクールで学ぶ 101のアイデア

キット・ホワイト＝著
村上華子＝訳 ＊

アートの“本質”を身につけるための発想とは何か。作り、観て、深く感じるための方法が満載。ドローイングの基本、表現形式や素材の選び方から、構図の作り方、観察力の養い方まで。制作のテクニックと世界と対話するためのすべて。

978-4-8459-1297-1
2012年／四六判変型・上製／224頁／1900円

エンジニアに学ぶ 101のアイデア

ジョン・クプレナス／マシュー・フレデリック＝著
美谷広海＝訳

21世紀のものづくりのあり方と、技術についての知識と哲学が身に付く101のTips集。建築物や乗り物の設計制作、品質工学、環境工学など、今必要とされるアイデアをコンパクトにまとめ、伝授する。

978-4-8459-1316-9
2013年／四六判変型・上製／224頁／2000円

クリティカル・ワーズ

現代美術を知るクリティカル・ワーズ

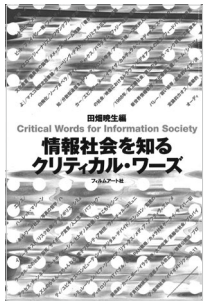
暮沢剛巳＝編

＊

現代美術を理解するために必要な特色、要点をわかりやすく解説する。本格的な美術評論／批評に負けるとも劣らない、多くの論点とアイデア、現代思想、映画、音楽、政治などあらゆるジャンルから、最新アートを283のキーワードで読み解く。

978-4-8459-0236-1
2002年/四六判・並製/278頁/2000円

情報社会を知るクリティカル・ワーズ



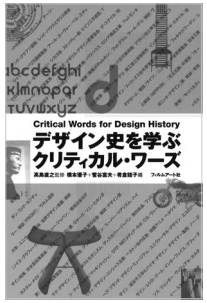
田畑暁生＝編

＊

情報化する社会を知るための用語集。情報社会と現代思想の両方を射程に入れ、思想系、芸術系の用語を積極的に取り上げた。ほぼ10年を単位として、その時代背景と思想とを描き出した概説と、その時代を代表すると思われる用語および人名から成っている。

978-4-8459-0460-0
2004年/四六判・並製/248頁/1800円

デザイン史を学ぶクリティカル・ワーズ



高島直之＝監修
橋本優子／菅谷富夫／肴倉睦子＝編

モダン・デザインが立ち上がった19世紀の状況を序章として、20世紀を10年単位で区切り、ファッション、プロダクト、グラフィックなど、時代を創造するデザインの流れを新しい視点でまとめたキーワード事典。

978-4-8459-0689-5
2006年/四六判・並製/328頁/2000円

映画史を学ぶクリティカル・ワーズ

▶増補改訂版

村山匡一郎＝編

映画前史からフィルムカルチャー全盛期、そしてデジタルが加速する2010年代まで。映画の歴史には、技術や産業、世相が色濃く反映され、作品や表現は常に更新されている。21世紀を歩み始めた映画を読み解き、映画をもっと深く、もっと面白く見る／学ぶための必携書。

978-4-8459-1307-7
2013年/四六判・並製/352頁/2000円

雑 誌

『季刊フィルム』
『芸術倶楽部』
『カイエ・デュ・シネマ・ジャポン』
『BOOKEND』

雑誌について
・本目録では、小社出版物の記録の観点で、
全雑誌のバックナンバーを記載しましたが、
すべてのバックナンバーは絶版となります。
あらかじめご了承ください。

『季刊フィルム』

1968年10月から72年12月まで発刊された季刊映画雑誌。編集委員は草月アートセンターの奈良義巳によって組織され、粟津潔、飯村隆彦、武満徹、勅使河原宏、中原祐介、松本俊夫、山田宏一の7名（7号で山田が、11号で飯村が脱退。11号から石崎浩一郎と今野勉が加わる）が名を連ねた。

その時、突然、ぼくらは、今日の世界の迷路の真只中で、〈もうひとつの映画〉への意志にめざめていた。映画を観念として、理論として、思想として、感覚として、行動としてぼくらの生活の次元に放ち、映画の中にみずからとびこみ、その無限の無方向性の中であがきつつ、ぼくらは、まず、季刊〈フィルム〉を創った。もちろん、それば万里の長征の第一歩にしかすぎない。
今日、芸術のジャンルは崩壊し、相互に混合と拡大を求めあう苦悶（アゴニー）が世界をゆさぶっている。それは、〈創造〉という美しい錦の御旗の下で、単に状況（反状況的イデオロギーも含めて）に対応していた芸術というものの死を意味する。ブレヒトのメッセージを、今日、ぼくらなりに敷衍すれば、世界をその変化と変革の中で捉えない限り、世界を芸術によって再生することはできないということだ。芸術ジャンルの境界を破壊し、そして、芸術そのものを〈仮象〉や〈虚構〉から脱出させる、その変革的機能において、映画ほど、今日の迷宮世界に突き刺さる強力な武器はないはずだ。
ぼくらはヒステリックに映画＝芸術の権威回復を叫ばない。
ぼくらは、映画を芸術として限定はしない。映画を、ひとつの、ワルター・ベンヤミンのいう〈破壊的性格〉として捉え、所有するのだ！
《破壊的性格は持続を認めない。だからこそ、逆に、いたるところに道が見えるのである。他のひとびとが壁にぶつかったり、山塊に出くわしたりするところでも、破壊的性格は道をみつける。しかしまた、いたるところに道が見えるからこそ、逆に、いたるところで道から外れていかねばならなくなる》（ワルター・ベンヤミン　高原宏平訳）
来たれ、大いなる魂よ！　ぼくらはきみをよぶ。きみをまねく。

季刊〈フィルム〉編集委員会
文責＝山田宏一／粟津潔　1968年10月創刊号「発刊のことば」より

季刊フィルム　NO.1　創刊号
特集1＝感覚の開放
「混沌が意味するもの」松本俊夫/「光像の鉱脈」粟津潔
特集2＝ジャン＝リュック・ゴダール
「ふたつの戦線の闘争を行う」　ゴダールインタヴュー
1968年10月/B5判・並製/160頁/500円

季刊フィルム　NO.2
特集1＝日本映画をどうする
映像作家インタヴュー　今村昌平／大島渚／鈴木清順／羽仁進／増村保造
特集2＝エクスパンデッド・シネマ
座談会「未来に向き合っているもの」磯崎新＋武満徹＋松本俊夫＋宮井陸郎
1969年2月/B5判・並製/176頁/550円

季刊フィルム　NO.3
特集1＝映像の錬金術
「ガリガリ博士の犯罪」寺山修二
特集2＝溝口健二
「溝口健二の芸術」ジャン＝リュック・ゴダール
1969年6月/B5判・並製/176頁/550円

季刊フィルム　NO.4
特集1＝ルイス・ブニュエル
「『アンダルシアの犬』における映像機能について」別役実／ブニュエル自作を語る
特集2＝転換期のシネマ
座談会「今日の政治的現実とゴダール映画」粟津潔＋島田恭一＋津村喬＋平岡正明＋藤田基夫
1969年10月/B5判・並製/176頁/550円

季刊フィルム　NO.5
特集＝表現を廃棄しうるか?
座談会　粟津潔＋足立正生＋今野勉＋篠田正浩
特集＝ピエル・パオロ・パゾリーニ
シナリオ　「大きな鳥と小さな鳥」ピエル・パオロ・パゾリーニ
1970年3月/B5判・並製/184頁/550円

季刊フィルム　NO.6
特集＝言語と映像
座談会　粟津潔＋飯村隆彦＋武満徹＋中原佑介＋松本俊夫
特集＝映画作家インタヴュー　ゴダール／フェリーニ／アントニオーニ
特集＝飯村隆彦
1970年7月/B5判・並製/184頁/600円

※各号で紹介している内容は、主な記事タイトルです。

季刊フィルム　NO.7
特集＝俳優論
特集＝第三世界の映像作家　グラウベル・ローシャ
特集＝［東風］
座談会　粟津潔＋飯村隆彦＋中原佑介＋松本俊夫

1970年11月/B5判・並製/168頁/550円

季刊フィルム　NO.8
特集＝映画眼　ジガ・ヴェルトフ
ジャン＝リュック・ゴダール／マルセル・マンタン　インタヴュー
特集＝グラウベル・ローシャ論
シナリオ　「狂乱の大地」グラウベル・ローシャ

1971年3月/B5判・並製/200頁/650円

季刊フィルム　NO.9
特集＝アンディ・ウォーホル
「私は修理工場になりたい」　ウォーホル　インタヴュー／「アンディはリュミエールに戻った」ジョナス・メカス
特集＝危機意識からの表現

1971年7月/B5判・並製/184頁/600円

季刊フィルム　NO.10
特集＝死をめぐる想像力
「歌を歌うように人は死ねない」吉田喜重
特集＝映画宣言集
J・メカス／G・メリエス／R・カヌード／V・メイエルホリドほか

1971年10月/B5判・並製/168頁/600円

季刊フィルム　臨時増刊号
特集＝アニメーション
「アニメーション・フェスティバル東京 '71」に合わせて刊行
座談会　粟津潔＋宇佐美圭司＋月岡貞夫＋真崎守
種村季弘／木村恒久／赤瀬川原平／和田誠ほか

1971年11月/B5判・並製/112頁/500円

季刊フィルム　NO.11
特集＝ポルノグラフィ的想像力
ドゥシャン・マカヴェイエフ　インタヴュー
「〈見世物〉的世界と映像文化」山口昌男
「映画『サマーソルジャー』をめぐって」対談　安部公房＋勅使河原宏

1972年4月/B5判・並製/176頁/600円

季刊フィルム　NO.12
特集＝メディアの共有と複写の思想
「歌を歌うように人は死ねない」吉田喜重
座談会「複写時代の仕事」寺山修司（司会）＋高松次郎＋横尾忠則
シナリオ　「皆殺しの天使」ルイス・ブニュエル

1972年7月/B5判・並製/176頁/600円

季刊フィルム　NO.13
特集＝映画史をいかに超えるか?
「映像からの離脱」飯村隆彦
特集＝現代映画状況事典（100項目）
シナリオ　「エル・トポ」アレハンドロ・ホドロスキー

1972年12月/B5判・並製/176頁/750円

『芸術倶楽部』

1973年7月から74年6月まで、『季刊フィルム』の後継誌として発刊された月刊雑誌。責任編集者として粟津潔、石崎浩一郎、今野勉、勅使河原宏、寺山修司、中原佑介、松本俊夫らが関わった。

『季刊フィルム』を廃刊した。理由はあまりにも明瞭であった。赤字がつづき、つまり物理的にできなくなった。季刊といっても、年間三度発行するのがやっとであったが、編集に加わったものは、これを精魂込めて作った。内容もふり返ってみると、自賛するのもおかしいが、かなり充実していたと思っている。もし経済的なことに関わりなくこんな雑誌が継続できたら、私たちはそのすべての労を惜しまないだろう。多少の赤字は覚悟の上のことであったが、やはり出血多量となると、それぞれの負担が大きくなる。

出版物販売機構の変革がないかぎり、このような雑誌が世に出ることの困難さは大きく、ここで私たちはイヤというほど味わった。そこで例によって借金は棚上げにして、ここで引き下がるのではなく、これを契機として逆に積極的に再出発することにした。それが、今回の『芸術倶楽部』の発刊である。すでに様々な条件が私達の上にのしかかってはいるが、やはり、われら自身のメディアをここで確保することがなによりも積極的な解決の仕方のように思えた。年間3回程度の、しかも高価な雑誌より、毎月発行という、日常のアクティビティを、この雑誌が背負い込むことも、私達が反省した点であった。

今日ほど、芸術存在そのものが揺れ動いている時代はない。それは60年代後半から今もなお続いており、これからもそれが続くだろう。しかし、今日の芸術情況を再度総体としてとらえる月刊誌の必要は、今、私達の問題だけではなく、芸術そのもの、演劇・映画・写真・建築・デザイン・美術に関わる者にとって、同一の地平に置かれていると思う。『芸術倶楽部』は、そうしたただ中に飛びだしていく。

編集は前『季刊フィルム』のメンバーに、新たに寺山修司が加わった。この7人が、共同討議によって編集にあたるが、毎月の問題提起の責任編集担当制にした。今回は私の「メディア信仰の幻想」（アウラからデーモンへ）であり、次は松本俊夫の担当による「逆宇宙」、更に寺山修司による「半世界――受け手の表現」など、とりわけ芸術創造にかかわる、いわば“根”の部分に目を向けて、特集を組むことにし、更に各ジャンルの時評、小論と連載などでまとめることにしている。しかし、果たしてこれがどこまで続くのか、それにどんなことができるのか。芸術創造そのものが、たえず闇に向かって、砂漠に向かって突進するしかないとすれば、私達はやはり、ドンキホーテのようなものかもしれない。

編集委員　粟津潔　1973年7月創刊号「編集後記」より

※各号で紹介している内容は、主な記事タイトルです。

芸術倶楽部　1973年7月創刊号
責任編集　粟津潔
特集＝アウラからデーモンへ　メディア信仰の幻想
エンツェンスベルガー氏を迎えてのシンポジウム　メディア論のための積木箱
リトアニアへの旅の追憶　コメンタリー全文　ジョナス・メカス
小松左京／山口昌男／平岡正明／高橋悠治／原広司ほか
3649-7　1973年7月/A5判・並製/204頁/390円

芸術倶楽部　1973年8月号（第2号）
責任編集　松本俊夫
特集＝逆宇宙　もしくは怪異幻想
誌上個展　山下菊二の世界
写真報告・ピアノを燃やす音　山下洋輔
唐十郎／東野芳明／草森紳一／紀田順一郎／堀切直人ほか
3649-8　1973年8月/A5判・並製/208頁/390円

芸術倶楽部　1973年9月号（第3号）
責任編集　寺山修司
特集＝半世界　受け手の表現
イラストレーション　建石修志〈ミノタウルスの飾棚〉　薄奈々美〈家族合わせ〉
座談会　計画的に夢を見る方法　黒井千次＋山野浩一＋中原佑介
津村喬／松岡正剛／蓮實重彦／海野弘／山口勝弘ほか
3649-9　1973年9月/A5判・並製/208頁/390円

芸術倶楽部　1973年10月号（第4号）
責任編集　石崎浩一郎
特集＝南方憧憬　文明と自然
対談　南方との対話　文化の乱反射のなかに身をおいて　杉浦康平＋武満徹
イラストレーション　横尾忠則〈南方浄土〉
饗庭孝男／武内健／巌谷國士／エイゼンシュテイン／栗田勇ほか
3649-10　1973年10月/A5判・並製/192頁/480円

芸術倶楽部　1973年11月号（第5号）
責任編集　中原佑介
特集＝記憶
対談　記憶がつくるもの　モニュメント不在の時代にむけて　磯崎新＋高松次郎
イラストレーション　福田繁雄〈素病の素描〉
多木浩二／種村季弘／森山大道／麿赤兒／中平卓馬ほか
3649-11　1973年11月/A5判・並製/190頁/480円

芸術倶楽部　1973年12月号（第6号）
責任編集　今野勉
特集＝方法としての旅
インタビュー　風景に出合いたい　つげ義春／萩原朔美
対談　旅への戦略　佐藤信・足立正生
原正孝／中条省平／丸谷才一／タージ・マハル旅行団ほか
3649-12　1973年12月/A5判・並製/192頁/480円

芸術倶楽部　1974年1月・2月合併号（第7号）
責任編集　ロシア・アヴァンギャルド研究会
特集＝ロシア・アヴァンギャルド芸術
中原佑介／前田耕作／多木浩二／S・ユトケヴィチ／K・マレーヴィチほか
図版構成　ロシア・アヴァンギャルドの実験
ロシア・アヴァンギャルド芸術　年譜　福島紀幸編
3649-2　1974年2月/A5判・並製/224頁/750円

芸術倶楽部　1974年4月号（第8号）
特集＝概念芸術
座談会　事物と言語　様式から状況へ　宮川淳＋高松次郎＋中原佑介
図版構成　コンセプチュアル・アートスケープ
誌上展　世界蜂起　The World up-Rising
塩見允枝子／松沢宥／柏原えつとむ／J・コスス／R・P・ウィッテンほか
3649-4　1974年4月/A5判・並製/224頁/750円

芸術倶楽部　1974年6月号（第9号）
特集＝個人映画
座談会　なぜ、個人映画か?　おおえまさのり＋岡部道男＋桂宏平＋瀬尾俊三
誌上展　日本を衝撃した個人映画／個人映画　誌上アーカイヴ
資料　個人映画作家カタログ（日本）／個人映画上映史（ドキュメント1955〜74年）
蓮實重彦／飯村隆彦／萩原朔美／かわなかのぶひろ／M・レグリースほか
3649-6　1974年6月/A5判・並製/224頁/750円

『カイエ・デュ・シネマ・ジャポン』

フランスの映画雑誌『Cahiers Du Cinéma』の日本語版として1991年3月に創刊。梅本洋一を編集長にフランス本誌の批評を翻訳して紹介しながら、独自の批評活動を展開。1995年12月までフィルムアート社で発刊し、版元を変遷して2001年に休刊。

1951年パリで映画雑誌が創刊された。33歳の映画研究家のアンドレ・バザンを中心に、やっと30代になったエリック・ロメール、そしてまだ20代になったばかりのリヴェット、シャブロル、ゴダール、さらにまだ19歳のトリュフォーが集い、彼らの仲間たちと共にその映画雑誌が始められた。『カイエ・デュ・シネマ』がその雑誌の名前だった。めくるめく映画の世界への彼らの熱狂を唯一の武器にして、彼らの映画への接近が開始された。彼らの文章は、対象である作品に距離を置く冷静な分析からは遠かった。映画を見ることが生活の全てだった。彼らにとって、映画とは世界の全てだった。

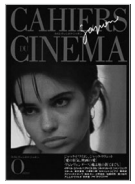
それから40年後、パリの『カイエ・デュ・シネマ』は執筆者を入れ替えつつ、今でも創刊当時の熱い感情を保ちながら、延々と刊行され続けている。確かに時代は変わった。40年前、『カイエ』の若い執筆者たちの愛の対象だったハワード・ホークスも、アルフレッド・ヒッチコックも、彼らが〈親父さん（パトロン）〉と敬意と親しみを込めて呼んだジャン・ルノワールもこの世にいない。彼らが自らの同時代を見たニコラス・レイもアンソニー・マンも天国へ旅立った。だが、それぞれの時代にそれぞれの愛があり、それぞれの季節に別の風が吹くように、私たちの時代にも愛の対象である映画は存在している。近く生誕100年を迎える映画は、その存在が40年前とは比較にならぬほどの困難にさらされているものの、まだ立派に呼吸を続けているのだ。

『カイエ・デュ・シネマ・ジャポン』は、『カイエ・デュ・シネマ』に40年続くそうした息遣いを受け継ぎつつ、見えるこのないかもしれぬ映画の現在に向けて、舵をとりたいと思う。困難な風を受けつつそれでも前へ前へと進もうとする映画群を愛の対象として、共に映画の現在を力強く生き抜いてゆきたいと思う。創刊0号の愛の対象として私たちを魅了したのはジャック・ドワイヨンとジャック・リヴェット。困難ではあるが、だからこそ胸を熱くさせてくれる愛を彼らと共に生き、彼らと共に戦いたいと思う。

『カイエ・ジャポン』創刊のために特に原稿を寄せてくれた『カイエ』本誌のセルジュ・トゥビアナ、ティエリー・ジュス、そして最初の1冊のためにインタヴューに応じてくれたヴィム・ヴェンダースに感謝する。

編集代表　梅本洋一　（1991年3月創刊号より）

※各号で紹介している内容は、主な記事タイトルです。



カイエ・デュ・シネマ・ジャポン 0

『夢の涯てまでも』ヴィム・ヴェンダース　ロング・インタヴュー
「愛の狂気、映画の愛　ジャック・ドワイヨン／ジャック・リヴェット」
「ジャック・ドゥミー、わたしを見つめた最初の人」カトリーヌ・ドヌーヴ　インタヴュー

978-4-8459-9190-7　1991年3月/B5判・並製/184頁/1748円

カイエ・デュ・シネマ・ジャポン 1

「30年前から、ゴダール！」
「日本映画の「風景」はどこにあるのか?」
「シャブロル『M博士』をめぐって」クロード・シャブロル　インタヴュー

978-4-8459-9193-8　1991年7月/B5判・並製/212頁/1748円

カイエ・デュ・シネマ・ジャポン 2

「2001年の映画作家」
第4回東京国際映画祭ドキュメントレポート
座談会「映画に向かい合うために」　荒井晴彦＋畑中佳樹＋佐々木敦＋梅本洋一

978-4-8459-9194-5　1991年11月/B5判・並製/208頁/1748円

カイエ・デュ・シネマ・ジャポン 3

『夢の涯てまでも』ヴィム・ヴェンダース　インタヴュー
『美しき諍い女』ジャック・リヴェット　インタヴュー
『牯嶺街少年殺人事件』楊徳昌　インタヴュー

978-4-8459-9297-3　1992年3月/B5判・並製/208頁/1748円

カイエ・デュ・シネマ・ジャポン 4

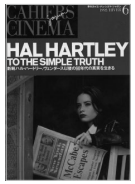
『裸のランチ』デヴィッド・クローネンバーグ　インタヴュー
『ヨーロッパ』ラース・フォン・トリアー　インタヴュー
「ヴィターリー・カネフスキーとレンフィルム」

978-4-8459-9299-7　1992年6月/B5判・並製/208頁/1748円

カイエ・デュ・シネマ・ジャポン 5

「映画のヨーロッパ」ロマン・ポランスキー／アラン・タネール／テオ・アンゲロプロス　インタヴュー
「ティム・バートン、アメリカ映画の傷を白く塗れ！」
「ロバート・アルトマン1992」

978-4-8459-9202-7　1992年9月/B5判・並製/192頁/1942円



カイエ・デュ・シネマ・ジャポン 6
『シンプルメン』『トラスト・ミー』ハル・ハートリー　インタヴュー
『冬物語』エリック・ロメール　インタヴュー
「映画のヨーロッパⅡ　マドリード／ローマ／モスクワ／パリ」

978-4-8459-9207-2　1992年12月/B5判・並製/192頁/1942円

カイエ・デュ・シネマ・ジャポン 7
『許されざる者』クリント・イーストウッド　インタヴュー
『お引越し』相米慎二　インタヴュー
『マルメロの陽光』ビクトル・エリセ　インタヴュー

978-4-8459-9311-6　1993年3月/B5判・並製/192頁/1942円

カイエ・デュ・シネマ・ジャポン 8
『野性の夜に』シリル・コラール　インタヴュー
『夫たち、妻たち』ウディ・アレン　インタヴュー
「映画批評のエチカ　セルジュ・ダネーをめぐって」

978-4-8459-9315-4　1993年6月/B5判・並製/176頁/1748円

カイエ・デュ・シネマ・ジャポン 9
「小津安二郎30-90」　シナリオ『肉体美』ほか
「生き残った映画作家オリヴェイラ」マノエル・デ・オリヴェイラ　インタヴュー
「運命を批評することはできない」アッバス・キアロスタミ　インタヴュー

978-4-8459-9318-5　1993年9月/B5判・並製/172頁/1748円

カイエ・デュ・シネマ・ジャポン 10
「ゴダールへの手紙」
「アンドレ・テシネ＋ブノワ・ジャコー」
陳凱歌『さらば、わが愛』撮影ルポ

978-4-8459-9324-6　1993年12月/B5判・並製/176頁/1748円

カイエ・デュ・シネマ・ジャポン 11
「MADE IN USA　「歴史」以後の映画＝アメリカをめぐって」
『木と市長と文化会館』エリック・ロメール　インタヴュー
『ジャンヌ』パスカル・ボニッツェール＋クリスティーヌ・ローラン　インタヴュー

978-4-8459-9427-4　1994年3月/B5判・並製/212頁/2136円

カイエ・デュ・シネマ・ジャポン 12
「2人のG」ジャン＝リュック・ゴダール／フィリップ・ガレル　インタヴュー
『キカ』ペドロ・アルモドバル　インタビュー
「「映画愛」への疑惑」ベルトラン・タヴェルニエ　インタビュー

978-4-8459-9430-4　1994年6月/B5判・並製/176頁/1942円

カイエ・デュ・シネマ・ジャポン 13
「生誕100年記念　ルノワールによる20世紀」
「第47回ロカルノ国際映画祭レポート」
「バザンと獣たち」セルジュ・ダネー

978-4-8459-9434-2　1994年9月/B5判・並製/176頁/1942円

カイエ・デュ・シネマ・ジャポン 14
「アメリカ映画、キャメロンの時代」
「楊徳昌、オリヴィエ・アサイヤス」
「没後10年特別掲載　トリュフォー未発表シナリオ〈パリの恐怖〉」

978-4-8459-9438-0　1994年12月/B5判・並製/176頁/1942円

カイエ・デュ・シネマ・ジャポン 15
「「ゴダール零年」の闘争」
『ジャンヌ』サンドリーヌ・ボネール　インタヴュー
『親愛なる日記』ナンニ・モレッティ　インタヴュー

978-4-8459-9541-7　1995年3月/B5判・並製/176頁/1942円

カイエ・デュ・シネマ・ジャポン 16
『恋する惑星』王家衛インタヴュー
「映画は思考の道具であると私は常に考えてきた」ジャン＝リュック・ゴダールに聞く
『私の好きな季節』『野性の葦』アンドレ・テシネ　インタヴュー

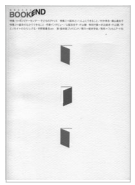
978-4-8459-9545-5　1995年6月/B5判・並製/176頁/1942円

映画をつくった100日　季刊カイエ・デュ・シネマ・ジャポン特別号
映画100年史に起きた100の事件。グランカフェのメリエス、フラハティとエスキモー、ヌーヴェルヴァーグ誕生、パゾリーニ惨殺、『愛のコリーダ』事件などをスリリングに語る仏「カイエ・デュ・シネマ」特別号完全翻訳版

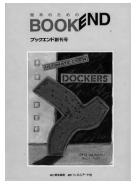
978-4-8459-9553-0　1995年12月/B5判・並製/208頁/2330円

『BOOKEND』

絵本学会責任編集の絵本専門誌。フィルムアート社は、2001年～05年まで発売元をつとめた。



BOOKEND　プレ創刊号
絵本学会＝発行 フィルムアート社＝発売
特集1＝ポンピドーセンター・子どものアトリエ
特集2＝絵本といっしょにできること
特集3＝絵本のなかでできること
特別付録　折込絵本　作・片山健
978-4-8459-0119-7　2001年5月/A5判・並製/82頁/1400円



BOOKEND　創刊号
絵本学会＝発行 フィルムアート社＝発売
巻頭カラー　幻の絵本「ぼくはへいたろう」　絵・宇野亞喜良
特集＝新しい絵本
978-4-8459-0243-9　2002年12月/A5判・並製/120頁/1200円

BOOKEND　第2号
絵本学会＝発行 フィルムアート社＝発売
特集＝絵本とミュージアム
シンポジウム　絵本と絵本美術館
巻末データ　全国絵本ミュージアムリスト
978-4-8459-0463-1　2004年6月/A5判・並製/160頁/1400円

BOOKEND　第3号
絵本学会＝発行 フィルムアート社＝発売
特集1＝韓国絵本が熱い！
特集2＝絵本のブックリスト総点検
特集3＝絵本は「いま」動いている
978-4-8459-0575-1　2005年6月/A5判・並製/128頁/1300円

※各号で紹介している内容は、主な記事タイトルです。

書名索引（五十音順）

解説はそれぞれの目録をご覧ください

ア

アーティストのためのハンドブック（デイヴィッド・ベイルズ／テッド・オーランド、野崎武夫訳）…… 107
アーティストの目（ピーター・ジェニー、石田友里訳）… 150
アート・リテラシー入門（フィルムアート社編集部／プラクティカ・ネットワーク編）…… 152
アート×セラピー潮流（関則雄／三脇康生／井上リサ／フィルムアート社編集部編）…… 152
アート系映画徹底攻略（曽根幸子／滝本誠／フィルムアート社編集部編）……75
アートスクールで学ぶ 101のアイデア（キット・ホワイト、村上華子訳）…… 201
アートという戦場（フィルムアート社編集部／プラクティカ・ネットワーク編）…… 152
アートと音楽（東京都現代美術館監修）…… 156
アートプロジェクトのつくりかた（森司監修、坂本有理／佐藤李青／大内伸輔／芦部玲奈編著）…… 110
アートプロジェクトの悩み（小川希編）…… 113
アートレス［増補改訂版］（川俣正）…… 149
アートを書く！　クリティカル文章術（杉原賢彦／暮沢剛巳／前島秀国編）…… 192
IQ84以下！（中原昌也）…… 107
アイコン的組織論（ザビエ・ベカルト／フィリス・ヨンク／ヤン・ラース／フェボ・ウィベンス、稲垣みどり訳）…… 171
アウトラインから書く小説再入門（K・M・ワイランド、シカ・マッケンジー訳）…… 174
アカデミー賞を獲る脚本術（リンダ・シーガー、菊池淳子訳）…… 6
秋山祐徳太子＋しりあがり寿　ブリキの方舟（広島市現代美術館／フィルムアート社編集部協同企画）…… 156
新しい芸術療法の流れ　クリエイティブ・アーツセラピー（関則雄編）…… 105
新しい主人公の作り方（キム・ハドソン、シカ・マッケンジー訳）…… 9
あなたの人生を愛するノート（アルフォンス・デーケン）… 184
アニメーターが教える線画デザインの教科書（リクノ）… 133
アニメーターが教える線画デザインの教科書2（リクノ）… 134
あのころ、天皇は神だった（ジュリー・オオツカ、小竹由美子訳）…… 181
アピチャッポン・ウィーラセタクン（夏目深雪／金子遊編）…63
アメリカ映画主義（大場正明／フィルムアート社編集部編）…… 79
アメリカ実験音楽は民族音楽だった（柿沼敏江）…… 149
アメリカ小説時代（クロード＝エドモンド・マニー、三輪秀彦訳）…… 31
アメリカの実験映画（アダムズ・シトニー編、石崎浩一郎訳）…… 26
アモス・ギタイ（とちぎあきら／藤原敏史編）……61
新たな系譜学をもとめて（東京都現代美術館監修）…… 157
アリス博士の人体メディカルツアー（アリス・ロバーツ、田沢恭子訳）…… 172
あるミニマリストの物語（ジョシュア・フィールズ・ミルバーン／ライアン・ニコデマス、吉田俊太郎訳）…… 186
粟津潔　荒野のグラフィズム（金沢21世紀美術館企画、フィルムアート社編集部編）…… 154
粟津潔　デザインする言葉（粟津潔、粟津デザイン室編）…… 123
アンゲロプロス（ヴァルター・ルグレ、奥村賢訳）……58
アントニオーニ（カルロ・ディ・カルロ／ジョルジョ・ティナッツィ編、西村安弘訳）……48

イ

いかにして100万円でインディーズ映画を作るか（ブレット・スターン、吉田俊太郎訳）……18
生きるための試行（エイブル・アート・ジャパン／フィルムアート社編集部編）…… 138
「伊豆の踊子」物語（西河克己）……88
イタリア映画を読む（柳澤一博）……74
イタリア人の拳銃ごっこ（二階堂卓也）……41
イタリアン・ホラーの密かな愉しみ（山崎圭司編）……95
伊藤大輔（佐伯知紀編）……56
いま、ここからの映像術（瀧健太郎／フィルムアート社編集部編）…… 193
イメージと意味の本（ショーン・ホール、前田茂訳）…… 109
イメージ・リテラシー工場（ジャン＝クロード・フォザ／アンヌ＝マリ・ギャラ／フランソワーズ・パルフェ、大伏雅一／前川陽郁／前田茂訳）…… 104
イラストでわかる映画の歴史（アダム・オールサッチ・ボードマン、細谷由依子訳）……97
色と意味の本（ジュード・スチュアート、細谷由依子訳）… 109
「インクルーシブデザイン」という発想（ジュリア・カセム、平井康之監修、ホートン・秋穂訳）…… 124
インプロ教育：即興演劇は創造性を育てるか?（高尾隆）164

ウ

WeOwnTheCity（フランチェスカ・ミアッツォ／トリス・キー編、石原薫訳）…… 168
ヴィスコンティ集成（フィルムアート社編集部編）……71
WindowScape（東京工業大学塚本由晴研究室編、塚本由晴／能作文徳／金野千恵）…… 126
WindowScape 2（東京工業大学塚本由晴研究室編、塚本由晴／能作文徳）…… 127
WindowScape 3（東京工業大学塚本由晴研究室編、塚本由晴／能作文徳）…… 127
うさぎスマッシュ（東京都現代美術館監修）…… 157

エ

映画監督、北野武。（フィルムアート社編集部編）……64
映画監督術（スティーブン・D・キャッツ、津谷祐司訳）…15
映画監督術2（スティーブン・D・キャッツ、津谷祐司訳）…15
映画監督という仕事（ジェレミー・ケイガン編、水原文人訳）…… 16
映画技法完全レファレンス（ジュレミー・ヴィンヤード、吉田俊太郎訳）……17
映画技法のリテラシー　I（ルイス・ジアネッティ、堤和子／増田珠子／堤龍一郎訳）……39
映画技法のリテラシー　II（ルイス・ジアネッティ、堤和子／増田珠子／堤龍一郎訳）……39
映画脚本100のダメ出し（ウィリアム・M・エイカーズ、シカ・マッケンジー訳）…… 8
映画クルー主義の楽しみ方（杉原賢彦／フィルムアート社編集部編）……78
映画暦（四方田犬彦／鈴木一誌／稲川方人）……73
映画撮影術（ボール・ウィーラー、石渡均訳）……16
映画作家　黒木和雄の全貌（阿部嘉昭／日向寺太郎編）58
映画史を学ぶクリティカル・ワーズ［増補改訂版］（村山匡一郎編）…… 203
映画そして鏡への誘惑（武田潔）……33
映画的！（沢田康彦／畑中佳樹／斎藤英治／宇田川幸洋）……85
映画でわかるカルチュラル・スタディーズ（カーラ・フレチェロウ、ポップカルチャー研究会訳）……80
映画伝説　ジャン＝ピエール・メルヴィル（古山敏幸）…62
映画都市（海野弘）……29
映画、20世紀のアリス（海野弘）……35
映画における記号と意味（ピーター・ウォーレン、岩本憲児訳）……26
映画・日常の実験（かわなかのぶひろ）……27
映画について（ジャン・コクトー、梁木靖弘訳）……28
映画＝日誌（梅本洋一）……34
［映画］眠れぬ夜のために（大森さわこ）……86
映画のウフフッ（四方田犬彦）……36
映画の教科書（ジェイムズ・モナコ、岩本憲児／内山一樹／杉山昭夫／宮本高晴訳）……31
映画のクォート事典（ハリー・ホーン、高橋千尋／袴塚紀子訳）……32
映画の考古学（C・W・ツェーラム、月尾嘉男訳）……28
映画の言葉を聞く（安藤紘平／岡宏美奈子／是枝裕和／谷昌親／土田環／長谷正人／元村直樹編著）……25
映画のシュルレアリスム（アド・キルー、飯島耕一訳）……38
映画のデザインスケープ（杉原賢彦／フィルムアート社編集部編）……78
映画の復讐（樋口尚文）……36
映画の弁証（鈴木志郎康）……30
映画の本当の作り方（アレクサンダー・マッケンドリック、吉田俊太郎訳）……20
映画の瞬き［新装版］（ウォルター・マーチ、吉田俊太郎訳）……25
映画のメロドラマ的想像力（加藤幹郎）……33
映画の領分（加藤幹郎）……39
映画はいかにして死ぬか［新装版］（蓮實重彦）……44
映画はどこにある（寺岡裕治／森宗厚子編）……42
映画美術から学ぶ「世界」のつくり方（フィオヌラ・ハリガン、石渡均訳）……24
映画批評のリテラシー（石原陽一郎／フィルムアート社編集部編）……79
映画表現の教科書（ジェニファー・ヴァン・シル、吉田俊太郎訳）……22
映画ライターズ・ロードマップ（ウェンデル・ウェルマン、吉田俊太郎訳）…… 5
映画理論集成（岩本憲児／波多野哲朗編）……30
映画を書くためにあなたがしなくてはならないこと（シド・フィールド、安藤紘平／加藤正人／小林美也子／山本俊亮訳）…… 6
映画を撮った35の言葉たち（渡辺進也／フィルムアート社編集部）……25
映画をわれらに（ルネ・クレール、山口昌子訳）……45
〈映才教育〉時代（岡博大）……95
エイゼンシュテイン解読（岩本憲児編）……46
映像作家サバイバル入門（松江哲明）……22
映像のカリスマ（黒沢清）……52
映像プロフェッショナル入門（安藤紘平）……17
ATG映画を読む（佐藤忠男編）……73
絵描きの石原慎太郎（勅使河原純）…… 104
SFX映画物語（ジョン・ブロスナン、福住治夫訳）……92
SFデザインテクニック（ダグ・チャン、吉田俊太郎訳）…23
エデンという名の映画館（海野弘）……85
エドワード・ヤン（フィルムアート社編集部編）……64
楊徳昌電影読本　EDWARD YANG'S FILM BOOK（李鳳宇ほか編）……55
N女の研究（中村安希）…… 170
絵本の冒険（小野明編）…… 198
演技のインターレッスン（ジュディス・ウェストン、吉田俊太郎訳）……66
エンジニアに学ぶ 101のアイデア（ジョン・クプレナス／マシュー・フレデリック、美谷広海訳）…… 201
演出についての覚え書き（フランク・ハウザー／ラッセル・ライシ、シカ・マッケンジー訳）……67
エンターテイメント映画の文法（純丘曜彰）……18

オ

大辻清司の写真（大日方欣一／光田由里編）…… 154
オーテマティック（大寺聡、井原慶一郎監修）…… 114
大野一雄　稽古の言葉（大野一雄、大野一雄舞踏研究所編）…… 137
大野一雄　魂の糧（大野慶人／大野一雄舞踏研究所編著）…… 147
大野一雄　百年の舞踏（大野一雄舞踏研究所編）…… 137
オーバー・ザ・シネマ　映画「超」討議（石岡良治／三浦哲哉編著）……43

小川紳介を語る(映画新聞編)……52
「教える」ことの覚え書き(シェリー・ヘンドリックス／ラッセル・ライシ、坂東智子訳)…… 167
小津安二郎映畫読本　「東京」そして「家族」[新装改訂版](松竹株式会社映像版権室編)……57
小津安二郎　戦後語録集成(田中眞澄)……51
小津安二郎に憑かれた男(永井健児)……86
小津安二郎の美学(ドナルド・リチー、山本喜久男訳) …45
小津安二郎を読む(フィルムアート社編集部編) ……72
おとなりのおんがくか(渋谷純子) …… 108
十八番の噺(春風亭昇太／桃月庵白酒／柳家喬太郎／立川生志／林家正蔵) …… 189
オペラティック！(小田島久恵) …… 138
お前がセカイを殺したいなら(切通理作) …… 182
音楽から解き放たれるために(原雅明) …… 118
音楽と美術のあいだ(大友良英) …… 120
音盤時代 vol.2(浜田淳) …… 119

カ

カイエ・デュ・シネマ・ジャポン[雑誌] …… 214-217
怪獣玩具の冒険(神谷僚一、小林健二撮影) …… 122
海賊のジレンマ(マット・メイソン、玉川千絵子／八田真行／鈴木沓子／鳴戸麻子訳) …… 165
カオスの神、園子温(ダリオ・トマージ／フランコ・ピコッロ編、丸山圭子訳) ……62
輝ける60年代(「草月アートセンターの記録」刊行委員会発行) …… 103
カサヴェテス・ストリームス(サム＆ラリー・ショウ写真、フィルムアート社編集部編)……53
活劇帝王70's(鬼塚大輔編) ……93
活動屋　児井英生(永井健児)……88
ガブリエル・オロスコ(東京都現代美術館監修) …… 158
釜ケ崎で表現の場をつくる喫茶店、ココルーム(上田假奈代) …… 170
川端康成をめぐるアダプテーションの展開(福田淳子)… 180
変わる人々(岡本俊浩) …… 185
韓くに幾山河(藤本巧) …… 144
韓くに、風と人の記録(藤本巧編著・写真) …… 145
韓くにの風と人(藤本巧) …… 143
韓くに・古き寺(藤本巧)…… 144
「感情」から書く脚本術(カール・イグレシアス、島内哲朗訳) ……10
感情類語辞典(アンジェラ・アッカーマン／ベッカ・パグリッシ、滝本杏奈訳) …… 176
監督と俳優のコミュニケーション術(ジョン・パダム／クレイグ・モデーノ、シカ・マッケンジー訳)……22
監督のリーダーシップ術(ジョン・パダム、シカ・マッケンジー訳) ……23
官能のプログラム・ピクチュア(山根貞男編) ……72

キ

キーワードで読む現代日本写真(飯沢耕太郎) …… 146
季刊フィルム[雑誌] …… 206-209
キッズ・サバイバル(ニコラス・ペーリー編著、菊池淳子／三宅俊久訳) …… 149
記入式　自分史の本(バイオグラフ社編) …… 184
キネマの世紀(松竹映像渉外室) ……90
キネマの哲学(浦崎浩實編) ……90
〈逆引き〉世界映画史！(濱口幸一／フィルムアート社編集部編) ……77
脚本を書くために知っておきたい心理学(ウィリアム・インディック、廣木明子訳) …… 9
脚本を書くための101の習慣(カール・イグレシアス、島内哲朗訳) …… 9
キャメラマン魂(石渡均編) ……14
キューブリック全書(デイヴィッド・ヒューズ、内山一樹／江口浩／荒尾信子訳) ……60
キュレーション(ハンス・ウルリッヒ・オブリスト、村上華子訳) …… 109
キュレーションの現在(フィルムアート社編集部編)…… 196
キュレーターになる！(住友文彦／保坂健二朗／フィルムアート社編集部編) …… 193
〈教師〉になる劇場(川島裕子編著) …… 171
京都映画図絵(鴇明浩／京都キネマ探偵団編) ……89
恐怖の詩学　ジョン・カーペンター(ジル・ブーランジェ編、井上正昭訳) ……49
巨匠のメチエ(西村雄一郎) ……13
キリング・フォー・カルチャー(デヴィッド・ケレケス／デヴィッド・スレイター、菊池淳子／とちぎあきら訳) ……38
キング・コングは死んだ(石上三登志)……27
近代日本のデザイン文化史(樋野八束) …… 122
銀幕のいけにえたち(アレグザンダー・ウォーカー、福住治夫訳) ……71

ク

空想映画地図[シネマップ](アンドリュー・デグラフ／A・D・ジェイムソン、吉田俊太郎訳)……97
グラグラな社会とグラグラな僕のまんが道(福満しげゆき) 185
蔵出し絶品TV時代劇(近藤ゆたか) …… 130
クリエイターのための占星術(コリーン・ケナー、シカ・マッケンジー訳) …… 175
クリエイティヴ・アクション(プラクティカ・ネットワーク編)… 153
クリエイティヴ脚本術(ジェームス・ボネット、吉田俊太郎訳) …… 5
クリエイティブ・コミュニティ・デザイン(紫牟田伸子／フィルムアート社編集部編)…… 195
「クリエイティブ」の処方箋(ロッド・ジャドキンス、島内哲朗訳) …… 111
クリストファー・ノーランの嘘(トッド・マガウアン、井原慶一郎訳) ……63
クレージー映画大全(佐藤利明／町田心乱／鈴木啓之編) ……92
クローネンバーグ・オン・クローネンバーグ(クリス・ロドリー編、菊池淳子訳) ……47
黒澤明の作劇術(古山敏幸)……61

ケ

芸術倶楽部[雑誌]…… 210-212
芸術・思想家のラストメッセージ(フィルムアート社編集部／石原陽一郎編) …… 183
芸術による教育(ハーバート・リード、宮脇理／岩崎清／直江俊雄訳) …… 164
芸術の設計(岡崎乾二郎編著)…… 105
「芸術」の予言!!(「季刊フィルム」コレクション編集部編) …… 106
結局、どうして面白いのか(佐々木玲仁) …… 131
ケン・ローチ(グレアム・フラー編、村山匡一郎／越後谷文博訳) ……48
幻視の美学(松本俊夫)…… 100
現代アートの本当の楽しみ方(フィルムアート社編集部編) …… 196
現代アートの本当の学び方(フィルムアート社編集部編) 195
現代アートの本当の見方(フィルムアート社編集部編) 195
現代映画作家を知る17の〈方法〉(濱口幸一／村尾静二／フィルムアート社編集部編)……75
〈現代演劇〉のレッスン(鈴木理映子／フィルムアート社編集部編) …… 197
現代美術を知るクリティカル・ワーズ(暮沢剛巳編)…… 202
建築デザイン101のアイデア(マシュー・フレデリック、藤原恵洋訳) …… 199

コ

工学的ストーリー創作入門(ラリー・ブルックス、シカ・マッケンジー訳) …… 178
高知の自主上映から(山本嘉博) ……91
荒野のダッチワイフ(高橋洋／塩田明彦／井川耕一郎編) ……54
コーヒーの人(numabooks編) …… 187
極意で学ぶ写真ごころ(伊藤みろ) …… 146
孤高の騎士　クリント・イーストウッド(マイケル・ヘンリー・ウィルソン編、石原陽一郎訳)……50
個人的なハーモニー　ノルシュテインと現代アニメーション論(土居伸彰)…… 134
コズミック・ファミリー(明本歌子) …… 183
ゴダール・レッスン[新装版](佐々木敦)……38
ゴダールに気をつけろ！(杉原賢彦／フィルムアート社編集部編) ……75
子どもの創造力スイッチ！(石戸奈々子) …… 167
このショットを見よ(フィルムアート社編集部編) ……83
コミュニケーションのデザイン史(高橋裕行) …… 169
これからのアートマネジメント(中川真／フィルムアート社編集部編) …… 194
これからのメディアをつくる編集デザイン(フィルムアート社／青山学院大学大学院社会情報学研究科ヒューマンイノベーションコース編) …… 124
これは見えないものを書くエンピツです(谷川俊太郎／楠かつのり) ……13
混血列島論(金子遊)…… 162
コンタクト・インプロヴィゼーション(シンシア・J・ノヴァック、立木燁子／菊池淳子訳) …… 148
今野勉のテレビズム宣言(今野勉) …… 129
コンピュータ・グラフィックスの歴史(大口孝之) ……96

サ

ザ・オーディション(マイケル・ショトレフ、絹川友梨／オーエン・ヒューズ訳) ……66
サイバー・メディア・スタディーズ(ケヴィン・ロビンス、田畑暁生訳) ……81
サイバー・メディアの銀河系(武邑光裕) …… 102
Sound Design(デイヴィッド・ゾンネンシャイン、シカ・マッケンジー訳) ……24
サウンドアート(アラン・リクト、木幡和枝監訳、荏開津広／西原尚訳) …… 119
サウンド派映画の聴き方(小沼純一／杉原賢彦／二本木かおり／フィルムアート社編集部編) ……76
THE CURATOR'S HANDBOOK(エイドリアン・ジョージ、河野晴子訳) …… 111
サザビーズで朝食を(フィリップ・フック、中山ゆかり訳) 113
サタデー・ナイト・ライブとアメリカン・コメディ(みのわあつお) …… 131
ザッツTVグラフィティ(乾直明) …… 130
ザ・ビークル・ムービーズ(鬼塚大輔編) ……93
サブテキストで書く脚本術(リンダ・シーガー、坪野圭介訳) ……10
The Motion Picture(梅本洋一) ……32
さようなら、映画館(斎藤英治) ……35

シ

ジェームズ・キャメロン(レベッカ・キーガン、吉田俊太郎訳) ……62
視覚文化「超」講義(石岡良治) …… 161
時間を生け捕る(萩原朔美) ……84
仕事や人生や未来について考えるときにアーティストが語ること(野崎武夫編) …… 108
静かなる炎の男　アンジェイ・ワイダの映画(ボレスワフ・ミハウェック、今泉幸子／進藤照光訳) ……46
実録　日本映画の誕生(平井輝章／林玉樹)……87
シナリオ構造論[復刻版](野田高梧) ……10
シネ・アーティスト伝説(森直人／石原陽一郎／フィルムアート社編集部編) ……81
シネ・ソニック　音響的映画100(フィリップ・ブロフィ、島内哲朗訳) ……95
シネ・ミュージック講座(秋山邦晴) …… 116
シネクラブ時代(淀川長治／蓮實重彦編) ……35
シネマ・ガレージ(森直人) ……41
シネマ・ワンダーランド(稲川方人／福井晃編) ……71
シネマ頭脳(ロバート・グラッツァー、吉田俊太郎訳) ……40
シネマティック・ヴァンパイア(ジョン・L・フリン、浜口幸一

／村尾静二／濱田尚孝訳）……37
シネマの記憶装置［新装版］（蓮實重彦）……44
シネマの宗教美学（服部弘一郎／フィルムアート社編集部編）……80
シネマの大義（廣瀬純）……43
シネマ革命1960（村山匡一郎／フィルムアート社編集部編）……80
シビックエコノミー（00、石原薫訳）…… 168
渋く、薄汚れ。（滝本誠）……40
じぶんの学びの見つけ方（フィルムアート社編集部編） 186
じぶんを切りひらくアート（高橋瑞木／フィルムアート社編集部編）…… 107
ジミ・ヘンドリックスとアメリカの光と影（チャールズ・シャー・マリー、廣木明子訳）…… 118
清水宏（田中眞澄／木全公彦／佐藤武／佐藤千広編）…57
社会の芸術／芸術という社会（北田暁大／神野真吾／竹田恵子編著）…… 113
〈社会派シネマ〉の戦い方（北小路隆志／水原文人／フィルムアート社編集部編）……77
写真と芸術（オットー・シュテルツァー、福井信雄／池田香代子訳）…… 143
写真のキーコンセプト（デイヴィッド・ベイト、犬伏雅一訳）145
写真屋・寺山修司（田中未知編）…… 145
写楽面（cochae作）…… 106
ジャン・ルノワール（アンドレ・バザン、フランソワ・トリュフォー編、奥村昭夫訳）……46
ジャンヌ（サンドリーヌ・ボネール、細川晋訳）……89
ジャンヌ・ダルク、誰？（三木宮彦）……90
自由な反逆のすゝめ（huck、江口研一訳） …… 112
10のストーリー・タイプから学ぶ脚本術（ブレイク・スナイダー、廣木明子訳）…… 7
18歳からの選択（上木原弘修／横尾俊成／後藤寛勝）… 170
自由へのスパイラル・ダンス（ホン・シンジャ［洪信子］、ユ・ジンジャ［兪澄子］訳） …… 137
情報社会を知るクリティカル・ワーズ（田畑暁生編）…… 102
女優アルレッティ（クリスチャン・ジル、松浦まみ訳） ……65
ジョン・フォードを読む（リンゼイ・アンダースン、高橋千尋訳）……72
「新」映画理論集成 1（岩本憲児／武田潔／斉藤綾子編）…30
「新」映画理論集成 2（岩本憲児／武田潔／斉藤綾子編）……31
人工地獄（クレア・ビショップ、大森俊克訳） …… 112
新興キネマ（佐藤忠男／登川直樹／丸尾定編）……87
新世代写真術（犬伏雅一／森川潔／西尾俊一編）…… 193

ス

スーパー・アヴァンギャルド映像術（佐藤博昭／西村智弘／フィルムアート社編集部編）……79
素顔を見せたニッポン人（ドナルド・リチー、菊池淳子訳）…… 183
スコセッシ・オン・スコセッシ［増補改訂版］（デイヴィッド・トンプソン／イアン・クリスティ編、宮本高晴訳） ……49
スターダム（アレグザンダー・ウォーカー、渡辺武信／渡辺葉子訳）……34
スティーブン・スピルバーグ論（南波克行編）……63
ストーリー（ロバート・マッキー、越前敏弥訳）……11
ストーリー・ジーニアス（リサ・クロン、府川由美恵訳）… 178
ストーリーの解剖学（ジョン・トゥルービー、吉田俊太郎訳）……11
ストラクチャーから書く小説再入門（K・M・ワイランド、シカ・マッケンジー訳） …… 174
ストローブ＝ユイレの映画（アテネ・フランセ文化センター／神戸ファッション美術館監修、細川晋編） ……59
素晴らしい映画を書くためにあなたに必要なワークブック（シド・フィールド、菊池淳子訳、安藤紘平／加藤正人／小林美也子監修） …… 7
童色の映画祭（石原郁子）……91

セ

性格類語辞典 ネガティブ編（アンジェラ・アッカーマン／ベッカ・パグリッシ、滝本杏奈訳）…… 176
性格類語辞典 ポジティブ編（アンジェラ・アッカーマン／ベッカ・パグリッシ、滝本杏奈訳）…… 176
生活の発見（ローマン・クルツナリック、横山啓明／加賀山卓朗訳） …… 161
聖なる映画（ポール・シュレイダー、山本喜久男訳） ……29
西部劇・夢の伝説（フィリップ・フレンチ、波多野哲朗訳） 27
SAVE THE CATの法則（ブレイク・スナイダー、菊池淳子訳）…… 7
SAVE THE CATの逆襲（ブレイク・スナイダー、廣木明子訳）…… 8
世界へひらく JAPAN FASHION（深町浩祥編） …… 141
世界を変えるSHIEN学（舘岡康雄）…… 166
世界を創る女神の物語（ヴァレリー・エステル・フランケル、シカ・マッケンジー訳） …… 175
セルジオ・レオーネ（クリストファー・フレイリング、鬼塚大輔訳）……61
セルフ・エデュケーション時代（川俣正／ニコラス・ベーリー／熊倉敬聡編） …… 151
全日記小津安二郎（小津安二郎、田中眞澄編纂）……54

ソ

相対性コム デ ギャルソン論（西谷真理子編）…… 141
装幀＝菊地信義（菊地信義／フィルムアート社編集部編著）…… 121
ソーシャリー・エンゲイジド・アート入門（パブロ・エルゲラ、アート＆ソサイエティ研究センターSEA研究会訳）…… 110
ソーシャリー・エンゲイジド・アートの系譜・理論・実践（アート＆ソサイエティ研究センターSEA研究会編）…… 114
ソーシャル・ドキュメンタリー（萩野亮／フィルムアート社編集部編）……82
それはホームズから始まった（児玉数夫）……36

タ

ダイアローグ（ロバート・マッキー、越前敏弥訳）……11
大根の底ぢから！（林望） …… 188
高嶺格　とおくてよくみえない（横浜美術館／広島市現代美術館企画・監修） …… 155
戦うビデオカメラ（佐藤博昭）……20
タッチで味わう映画の見方（石原陽一郎） ……94
魂の演技レッスン22（ステラ・アドラー、シカ・マッケンジー訳）……67
足穂映画論（稲垣足穂）……37

チ

千恵プロ時代（冨田美香編）……56
父と子の長い旅（原将人）……89

ツ

つながるカレー（加藤文俊／木村健世／木村亜維子）… 168

テ

ディートリッヒのABC［新装改訂版］（マレーネ・ディートリッヒ、福住治夫訳）……66
DEEP IMAGES（横浜国際映像祭実行委員会編）…… 155
デイヴィッド・リンチ（クリス・ロドリー編、廣木明子／菊池淳子訳）……49
ディズニーとライバルたち（有馬哲夫） …… 133
帝都封切館（松田集編）……88
ティム・バートン［増補改訂版］（マーク・ソールズベリー編、遠山純生訳）……50
テキスタイルとは何か（宮本享子） …… 141
デザイン化される映像（堀江秀史／椚座基道／水島宏明／暮沢剛巳／るびゑ／岩崎明仁／草嶺洋平） ……96
デザイン史を学ぶクリティカル・ワーズ（高島直之監修 橋本優子／菅谷富夫／肴倉睦子編） …… 203
デジカメとパソコンでできる映画制作ワークショップ（西村安弘編著）……19
デジタル・フィルムメイキング（マイク・フィギス、桂英史／村上華子訳、藤幡正樹監修） ……20
デジタル映画撮影術（ポール・ウィーラー、石渡均訳） …17
デストピア聖典（鷲巣義明）……93
寺山修司イメージ図鑑（寺山修司） …… 136
寺山修司全シナリオ 1（寺山修司） …… 136
寺山修司全シナリオ 2（寺山修司） …… 136
テリー・ギリアム（イアン・クリスティ編、廣木明子訳）……48
田園に死す・草迷宮［増補改訂版］（寺山修司） …… 135
天才たちの日課（メイソン・カリー、金原瑞人／石田文子訳）…… 186
天使のまなざし（梅本洋一／鈴木圭介／山下千恵子編・構成）……47
天皇の美術（菊畑茂久馬）…… 101

ト

ドイツ・ニューシネマを読む（瀬川裕司／松山文子／奥村賢編）……74
ドイツ映画の偉大な時代（クルト・リース、平井正／柴田陽弘訳）……29
動物学者が死ぬほど向き合った「死」の話（ジュールズ・ハワード、中山宥訳）…… 172
トーク・アバウト・シネマ（西川タイジ） ……24
ドキュメンタリー・ストーリーテリング（シーラ・カーラン・バーナード、島内哲朗訳）……23
ドキュメンタリー；リアルワールドへ踏み込む方法（村山匡一郎編） …… 192
ドキュメンタリー作家の仕事（横田安正） ……18
特撮と怪獣（成田亨、滝沢一穂編） ……14
特撮美術（成田亨）……14
都市の神話学（海野弘）…… 160
「飛び石プロジェクト」戯曲集　血の婚礼/Stepping Stones（「飛び石プロジェクト」戯曲集制作委員会編、吉野さつき監修） …… 138
トム・クルーズ（南波克行編著）……68
共生のデザイン（枡野俊明） …… 123
トラウマ類語辞典（アンジェラ・アッカーマン／ベッカ・パグリッシ、新田享子訳） …… 177
ドローイング・テクニック（ピーター・ジェニー、石田友里訳）…… 150
どろろ草紙縁起絵巻（武村知子） …… 132

ナ

70年代アメリカン・シネマ103（筈見有弘／フィルムアート社編集部／HOP企画編）……70
ならず者たちのギャラリー（フィリップ・フック、中山ゆかり訳）…… 114
成瀬巳喜男（田中眞澄／阿部嘉昭／木全公彦／丹野達也編） ……55
ナンセンス芸術論（中原佑介） …… 100

ニ

2000年のフィルムランナー（畑中佳樹）……33
21世紀／シネマX（森直人／フィルムアート社編集部編）…78
21世紀のアニメーションがわかる本（土居伸彰）…… 134
ニコニコ学会βのつくりかた（江渡浩一郎／くとの編著）169
日本演劇現在形（岩城京子編著）…… 139
日本酒の人（山同敦子編著）…… 188
〈日本製映画〉の読み方（武藤起一／森直人／フィルムアート社編集部編） ……76
にほんのきれいのあたりまえ（きれいのデザイン研究室編著）…… 124
日本のシビックエコノミー（紫牟田伸子／フィルムアート社編集部編） …… 169
日本発映画ゼロ世代（森直人／フィルムアート社編集部編）……82
日本文化の方位転換（いいだもも） …… 160
NYの「食べる」を支える人々（アイナ・イエロフ、石原薫訳）…… 188

人気海外ドラマの法則21（ニール・ランドー、シカ・マッケンジー訳）…… 131
人気テレビ番組の文法（純丘曜彰）…… 130
人間を描く（ピーター・ジェニー、石田友里訳）…… 151

ヌ

ヌーヴェル・ヴァーグの世界劇場（矢橋透）……43

ネ

〈ネオ俳優主義〉の見方（杉原賢彦／フィルムアート社編集部編）……77

ノ

脳が読みたくなるストーリーの書き方（リサ・クロン、府川由美恵訳）…… 177
のめりこませる技術（フランク・ローズ、島内哲朗訳）… 166

ハ

俳優の演技訓練（三谷一夫編著）……68
俳優の演技術（冨樫森）……69
俳優の教科書（三谷一夫）……69
俳優のためのハンドブック（メリッサ・ブルーダー／リー・マイケル・コーン／マデリーン・オルネック／ナサニエル・ポラック／ロバート・プレヴィット／スコット・ジグラー、絹川友梨訳）……68
はじめての批評（川崎昌平）…… 175
パスト・フューチュラマ（長澤均）…… 148
八っちゃんの撮影所人生（山内八郎／高瀬昌弘）……65
花のピカソと呼ばれ（勅使河原純）…… 102
場面設定類語辞典（アンジェラ・アッカーマン／ベッカ・パグリッシ、滝本杏奈訳）…… 177
パリ、シネマ（ジャン・ドゥーシェ／ジル・ナドー、梅本洋一訳）……34
ハリウッド・アクション！（坂本浩一）……91
ハリウッドインプレッション（ピーター・ボグダノヴィッチ、高橋千尋訳）……86
ハリウッド脚本術（ニール・D・ヒックス、濱口幸一訳）…… 4
ハリウッド脚本術2（ニール・D・ヒックス、廣木明子訳）… 4
ハリウッド脚本術3（ニール・D・ヒックス、菊池淳子訳）… 5
HELLO WORLD（アリス・ローソーン、石原薫訳）…… 123
ハワード・ホークス（トッド・マッカーシー、高橋千尋訳）…60
パンの人（フィルムアート社編集部編）…… 187

ヒ

ピアノを弾くということ。（花岡千春）…… 117
ひきずる映画（村山匡一郎／フィルムアート社編集部）……82
ビジネススクールで学ぶ 101のアイデア（マイケル・W・プライス／マシュー・フレデリック、美谷広海訳）…… 200
ヒッチコックを読む（筈見有弘／稲川方人／清水美紗／HOP企画編）……70
ヒップホップはアメリカを変えたか？（S・クレイグ・ワトキンス、菊池淳子訳）…… 117
ビデオ・メーキング（かわなかのぶひろ）……12
人それを映画と呼ぶ（四方田犬彦）……32
ヒトはなぜ絵を描くのか（中原佑介編著）…… 103
ピナ・バウシュ（ヨッヘン・シュミット、谷川道子訳）…… 147
陽のあたる家（井上和男編著、松竹映像出版監修）……53
響きの生態系（藤枝守）…… 148
ヒルマン・カーティス：ウェブ時代のショート・ムービー（ヒルマン・カーティス、吉田俊太郎訳）……19
ヒロインの旅（モーリーン・マードック、シカ・マッケンジー訳）…… 161

フ

ファースト・カット（ゲイブリエラ・オールドハム、奥村賢／宮澤誠一監修、那田尚史／江口浩ほか訳）……15
ファッションデザイン101のアイデア（アルフレッド・カブレラ／マシュー・フレデリック、深町浩祥訳）…… 199
ファッションと哲学（アニェス・ロカモラ／アネケ・スメリク編、蘆田裕史監訳）…… 163
ファッションは語りはじめた（西谷真理子編）…… 140
ファッションは更新できるのか？会議（水野大二郎／ファッションは更新できるのか？会議実行委員会編著）…… 142
FABに何が可能か（田中浩也／門田和雄編）…… 167
ファンタジー映画を書きたい！（セイブル・ジャック、廣木明子訳）…… 6
フィルム・スタディーズ事典（スティーヴ・ブランドフォード／バリー・キース・グラント／ジム・ヒリアー、杉野健太郎／中村裕英監修・訳）……40
フィルム・メーキング［改訂版］（ほしのあきら）……12
［フィルム］スペシャル'89（フィルムアート社編集部編）…85
Film Analysis（マイケル・ライアン／メリッサ・レノス、田畑暁生訳）……42
フィルムスクールで学ぶ 101のアイデア（ニール・ランドー／マシュー・フレデリック、石渡均訳）…… 200
フィログラフィックス（ジェニス・カレーラス、関未玲訳） 125
フィンランドで見つけた「学びのデザイン」（大橋香奈／大橋裕太郎）…… 166
フィンランドという生き方（目莞ゆみ）…… 184
風韻（鶴見俊輔文、藤本巧写真）…… 144
フェリーニを読む（岩本憲児編）……74
フォトモンタージュ　操作と創造（ドーン・エイズ、岩本憲児訳）…… 103
不屈の精神（セルジュ・ダネー、梅本洋一訳）……37
富士正晴画遊録（富士正晴、藤本巧写真）…… 101
BOOKEND［雑誌］…… 218
物理学的ストーリー創作入門（ラリー・ブルックス、シカ・マッケンジー訳）…… 178
踏み越えるキャメラ（原一男、石坂健治／井土紀州編）…55
フランク・ロイド・ライトの呪術空間（草森紳一、大倉舜二写真）…… 126
フランシス・フォード・コッポラ、映画を語る（フランシス・フォード・コッポラ、南波克行訳）……64
フリーカルチャーをつくるためのガイドブック（ドミニク・チェン）…… 165
フリープレイ（スティーヴン・ナハマノヴィッチ、若尾裕訳）…… 110
フルクサスとは何か？（塩見允枝子）…… 150
ブロークン・ガール（金原由佳）……41
プロが教える　現代映画ナビゲーター（鬼塚大輔／新田隆男編）……94
プロフェッショナル撮影技法（ブライン・ブラウン、石渡均訳）……19
文学効能事典（エラ・バーサド／スーザン・エルダキン、金原瑞人／石田文子訳）…… 179
文芸翻訳入門（藤井光編）…… 197

ヘ

ペドロ・アルモドバル（フレデリック・ストロース編、石原陽一郎訳）……50
ベルイマンを読む（三木宮彦）……73
編集進化論（仲俣暁生／フィルムアート社編集部編）… 194

ホ

法のデザイン（水野祐）…… 171
暴力と芸術（勅使河原純）…… 104
ポートフォリオをつくろう！（フィルムアート社／青山学院大学大学院社会情報学研究科ヒューマンイノベーションコース編）…… 125
ホームシック（ECD、植本一子写真）…… 118
ホラーの逆襲（鷲巣義明編）……59
ホラー映画の書き方（デヴィン・ワトソン、廣木明子訳）… 8
本を読むときに何が起きているのか（ピーター・メンデルサンド、細谷由依子訳）…… 179

マ

マイ・ファースト・ムービー（スティーヴン・ローウェンスタイン編、宮本高晴訳）……60
魔術師メリエス（マドレーヌ・マルテット・メリエス、古賀太訳）……54
貧しい出版者（荒木優太）…… 180
マスターショット100（クリストファー・ケンワーシー、吉田俊太郎訳）……21
マスターショット 2 ［ダイアローグ編］（クリストファー・ケンワーシー、吉田俊太郎訳）……21
マスターショット 3 ［応用編］（クリストファー・ケンワーシー、石渡均訳）……21
マスターズ・オブ・ライト（デニス・シェファー／ラリー・サルヴァート、高間賢治／宮本高晴訳）……13
窓と建築の格言学（五十嵐太郎／東北大学五十嵐太郎研究室編著）…… 127
まなざしのエクササイズ（ロズウェル・アンジェ、大坂直史訳）…… 146
学ばないドローイング（ピーター・ジェニー、石田友里訳）…… 151
まぼろしのルパン帝国（高橋実）…… 132
漫画編集者（木村俊介）…… 187
漫画家、映画を語る。（島田一志編）……96
マンガの現在地！（島田一志／フィルムアート社編集部編）…… 196

ミ

溝口健二（佐相勉／西田宣善編）……56
見立て狂い（草森紳一）…… 121
密室から市街へ（寺山修司）…… 135
minimalism（ジョシュア・フィールズ・ミルバーン／ライアン・ニコデマス、吉田俊太郎訳）…… 185
宮崎駿全書（叶精二）…… 133
ミュージック（ハンス・ウルリッヒ・オブリスト、篠儀直子／内山史子／西原尚訳）…… 120
見ることの神話（中原佑介）…… 101
〈民藝〉のレッスン（鞍田崇／フィルムアート社編集部編）…… 194

ム

ムービー・ラビリンス（杉原賢彦／フィルムアート社編集部編）……94
村木与四郎の映画美術（村木与四郎、丹野達弥編著）…16

メ

メカスの映画日記［改訂版］（ジョナス・メカス、飯村昭子訳）……53
眼がスクリーンになるとき（福尾匠）…… 162
めくるめく現代アート（筧菜奈子）…… 111
メディア・アート原論（久保田晃弘／畠中実編）…… 198
メディアアートの教科書（白井雅人／森公一／砥綿正之／泊博雅編）…… 106
メロドラマ映画を学ぶ（ジョン・マーサー／マーティン・シングラー、中村秀之／河野真理江訳）……42

モ

モード・イン・ハリウッド（高橋暎一）……87
模様と意味の本（ジュード・スチュアート、細谷由依子訳）…… 112
森の中からジャズが聞こえる（リンダ・マンザー、菊池淳子訳編）…… 116
森雅之（田中眞澄／阿部嘉昭／永井正敏／佐藤千広編）……57
モンスター・ムービー（石田一）……92

ヤ

野外フェスのつくり方（MASSAGE編集部編）…… 119
〝役を生きる〟演技レッスン（ウタ・ハーゲン、シカ・マッケンジー訳）……67
やっぱ志ん生だな！（ビートたけし）…… 189
闇の中の安息（篠田正浩）……28
やわらかい建築の発想（フィルムアート社編集部編）… 128
ヤンキー人類学（鞆の津ミュージアム監修）…… 157

ユ

ユーロ・アニメーション（昼間行雄／権藤俊司／フィルムアート社編集部編）……81

ヨ

ヨーゼフ・ボイス　よみがえる革命（水戸芸術館現代美術センター編）…… 155
横井軍平ゲーム館 RETURNS（横井軍平／牧野武文） 165
余白を駆けるオートバイ（清水哲男）…… 182

ラ

ライフ・オブ・ラインズ（ティム・インゴルド、筧菜奈子／島村幸忠／宇佐美達朗訳）…… 162
落語の入り口（東京かわら版／フィルムアート社編集部編）…… 197
ラスト・オブ・イングランド（デレク・ジャーマン、北折智子訳）……52
ラッセル・シモンズの成功哲学（ラッセル・シモンズ／クリス・モロー、菊池淳子訳）…… 117
ラッセンとは何だったのか？（原田裕規編著）…… 108

リ

『利休』ワークス（勅使河原宏／満友敬司）……51
流行の神話（海野弘）…… 140
料理スクールで学ぶ101のアイデア（ルイス・エグアラス／マシュー・フレデリック、関未玲訳）…… 200

ル

ルイス・ブニュエル　公開禁止令（トマス・ペレス・トレント／ホセ・デ・ラ・コリーナ、岩崎清訳）……51

レ

レコードは風景をだいなしにする（デイヴィッド・グラブス、若尾裕／柳沢英輔訳）…… 120

ロ

路上と観察をめぐる表現史（広島市現代美術館監修）… 156
ロックアート（粟津潔とN・A・R・A探検隊編）…… 122
ロッセリーニ（ロベルト・ロッセリーニ、アドリアーノ・アプラ編、西村安弘訳）……58
六本木クロッシング2016展（森美術館編）…… 158

ワ

ワールド・シネマ！（フィルムアート社編集部編）……76
ワクのない表現教室（小串里子）…… 102
私の映画遍歴（フィルムアート社編）……84
わたしの名前は「本」（ジョン・アガード、金原瑞人訳）… 180
私は映画だ［新装版］（フェデリコ・フェリーニ、アンナ・ケールほか編、岩本憲児訳）……59
悪のりドンファン（草森紳一）…… 129
われらが時代のビッグ・アーティスト（辻川一徳）…… 105
ワンス・アポン・ア・タイム・イン尾道（大林宣彦）……47